
真・恋姫†無双 俺、参上！

西森

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫†無双 俺、参上！

【Nコード】

N6887T

【作者名】

西森

【あらすじ】

現代にて、仮面ライダー電王として戦っていた北郷一刀はデンライナーで現代に帰還中、突如事故で三国史の世界にタイムスリップしてしまうのだった。（電王ファンにとっては駄作かもしれませんがよろしく願います）

#1「電王二刀、恋姫世界に参上」(前書き)

西森の新シリーズが始まります。打ち切りにならないよう頑張ります！

#1「電王一刀、恋姫世界に参上」

ブオオンッ！

ここは時の空間。普通の人は通れなく、タイムマシンでしか通れない空間なのだ。

そしてそんな時の空間を一台の電車、デンライナーが走っていた。

デンライナー内

モモタロス「今回も俺の活躍でイマジンを退治できたな！」

モモタロス…桃太郎の赤鬼をイメージして作られたイマジン。短期で好戦的な性格。

ウラタロス「何言ってるの、センパイ（モモタロス）が足を引っぱったから遅くなっちゃったんじゃない」

ウラタロス…浦島太郎の海亀をイメージして作られたイマジン。冷静沈着なキザで女好き。

キンタロス「ぐぐおお…」

キンタロス…金太郎の熊をイメージして作られたイマジン。人情に脆く（もろく）、一度寝るとなかなか起きない。

リュウタロス「やゝい！モモタロスの足手まとい〜！」

リュウタロス：ドラゴンをイメージして作られたイメージ。無邪気で子供っぽい甘えん坊。

モモタロス「うっせーんだよおめえら！#」

モモタロスはキレて暴れだした。

ウラタロス「センパイ知ってる？頭の悪い人はすぐ暴力をするんだってさ！」

リュウタロス「それって、モモタロスはバカってことじゃ〜ん」

モモタロス「お前らうっせーんだよ！#」

寝ているキンタロスを除いて暴れる三人に

？「お前らいい加減にしろ！！」

ピタッ！

モモタロス達を一喝して止めた人物がいた。

「刀」そんなに暴れてデンライナーが壊れたらどうする気だよ！」

北郷一刀：時間の影響を受けない特異点の人間。

そして彼はイメージ達から時の運行を守る仮面ライダー電王でもあるのだ。

話は遅れたがイマジンについて軽く説明しておこう

イマジン…時の時間を狂わせて未来を変えようとする怪人達。大抵が童話や昔話に出てくる動物がモデルになっている。奴らは人の望みを叶えることで過去へと移動することが出来るのだ。

モモタロス達もイマジンなのだが頼りになる仲間なのだ。

一刀とモモタロス達の出会いはいずれ書くとして

みんなが騒いでいると

ゴゴゴッ…!

モモタロス「なっ…なんだ地震か!？」

デンライナーが急に揺れ出した。

ウラタロス「時の空間で地震が起きるわけないよ!センパイは馬鹿だねえ」

リュウタロス「モモタロスのバカ」

モモタロス「何だと!もう一度言ってみやがれ!#」

一刀「喧嘩している場合か!」

ダッ!

一刀は直ぐ様、デンライナーの先端にある運転室に移動する。

運転室

「刀「くそっ！ハンドルがきかない!？」」

「刀はデンライナーを運転するバイク・マシンデンバードを操縦するがうまく進んでくれない！」

モモタロス「どうすりゃいいんだよ!？」

リュウタロス「こんなところで死ぬなんて嫌だー!？」

ウラタロス「死ぬ前にN.O.1の舞ちゃんとデートしたかったよー!？」

みんなが運転室で騒いでいると

キントロス「何だかうるさいなあ」

キントロスが目覚めた。

モモタロス「クマ公、起きたのかよ!？」

キントロス「こんだけ騒がれたら誰だって起きるで、んで何の騒ぎや?」

キントロスが聞くと

「刀「さっきからデンライナーが暴走してるんだよ!？」」

モモタロス「そんでもって俺達みんな死んじゃうんだ!？」

みんなが騒ぐなか、キンタロスは時間を越えるためのライダーパス挿入口に注目していた。そしてそこには

キンタロス「180年？」

と書かれていた。

そんなことをしている間に

キキイイーツ!!

デンライナーが急に停まりだして

一刀「うわっ!？」

モモタロス「んなっ!？」

ウラタロス「えっ!？」

キンタロス「はっ!？」

リュウタロス「えっ!？」

全員『うわーっ!？』

ポッイッ!

みんなはデンライナーの外に放り出された。

しばらくして

「刀「いたたっ！」

「刀が目を覚ますと

「刀「ここはどこだ？」

周りの景色は荒野になっていた。

「刀「そうだ！モモタロス達はどこだ！？」

「刀がモモタロス達を探していると

モモタロス「ここだぜ一刀！」

「刀「その声はモモタロスか…！？」

「刀が声のする方に首を向けると

モモタロス「何だよ？」

モモタロスの体は赤色の球体のような体になっていた。

「刀「モモタロス、その体は！？」

モモタロス「体？」

モモタロスが自分の体を見てみると

モモタロス「なんじゃこりゃー!!!？」

モモタロスが驚いていると

ウラタロス「うるさいよセンパイ！」

キンタロス「少しは寝かせてえな」

リュウタロス「モモタロスうるさい！」

そこにモモタロスと同じく青・黄・紫の球体の姿になったウラタロス達が現れた。

一刀「みんなまで!?!どうしちゃったんだ!?!」

一刀が驚いていると

?「さつきからうるさいんだよ兄ちゃん！」

ザッ!

いつの間にか一刀の後ろに頭に黄色の布を巻いた賊らしき三人組が立っていた。

チビ「アニキ、こいつ変わった着物着てますぜ！」

デク「ホントなんだな、輝いてるんだな」

ちなみに一刀の服装は通っているフランチェスカ学園の制服である。

(急いでいたので着替える間がなかったから)

アニキ「それならちようどいい、こいつを殺して服を奪うとするか
！」

ジャキンッ！

山賊のアニキは剣を抜いた。

一刀「ちよつと待って！？斬られる前に教えてくれよ！ここはど
？」

一刀が聞くと賊は

アニキ「ここがどこかだつて？ここはな…」

そして賊が剣を上上げると

アニキ「ここは地獄だよ！」

ブオンッ！

一気に一刀めがけて剣を振り下ろした。

一刀「うわっ！？」

サッ！

一刀はだてに電王として戦っていただけに振り下ろされた剣をなん
とか避けることができたが

三対一なうえに、武器がないので反撃できなかった。

モモタロス「この野郎っ！一刀に何しやがる！」

賊の卑怯な手に怒ったモモタロスが突撃するが

スッ！

モモタロス「あれっ？」

モモタロスは賊の体をすり抜けていった。

一刀「どうしたんだよモモタロス！」

モモタロス「知るかよ！勝手にすり抜けちまったんだ！」

一刀がモモタロスと話していると

チビ「アニキ、あいつ誰と話してるんっすか？」

デク「気味悪いんだな！？」

どうやら球体となったモモタロス達は一刀以外には見えないし、声も聞こえないようだ。

アニキ「あいつの頭が狂ってようが関係ねえよ！ようはあいつを殺しまえばいいわけだしな！」

ザッ！

アニキは一刀めがけて突っ込んできた。

モモタロス「このままじゃ一刀が危ない！？こうなったらやけだ！

」

キインツ！

球体となったモモタロスが一刀に突っ込んでいった。

ウラタロス「センパイ無理だよまたすり抜けちゃうよ！？」

ウラタロス達が止めようとするが

モモタロス「うるせー！一刀を死なせるわけにはいかねえだろうが

！」

スツ！

そしてモモタロスがいち早く一刀にたどり着いて入った。

アニキ「死にやがれー！」

ブンツ！

遅くなったアニキが一刀に剣を振り下ろすと

ドカツ！

攻撃したはずのアニキが逆にぶつとばされた。

アニキ「ゲホッ!?」

ズザザッ!

その場で鼻血を出しながら転がるアニキに

チビ・デク『アニキっ!?』

仲間の二人が駆け寄った。

そして二人が見たものは…

M一刀「俺、参上!」

髪の一部が赤くなった一刀がそこにいた。

#1「電王一刀、恋姫世界に参上」(後書き)

モモタロス達が取り付いた時には以下の表記がつけます。

モモタロス…M一刀

ウラタロス…U一刀

キンタロス…K一刀

リュウタロス…R一刀

#2 「一刀のイマジジン騒動」(前書き)

ちよつと思ひ付いた小話

西森の前にイマジジンが現れた。

イマジジン「お前の望みを言え！」

すると西森は

西森「この小説の人気を上げてくれ！」

するとイマジジンは

イマジジン「貴様が頑張れ！」

スッ！

イマジジンは消えていった。

#2 「一刀のイマジジン騒動」

一刀に取り付いたモモタロスは

M一刀「よっしゃー！この世界でも取り付くことは出来るようだな！
」

取りつけることにとても喜んでいた。そしてそんな一刀を見ていた賊達は

チビ「あいつおかしくないか!？」

デク「何を喜んでいるんだな!？」

あまりの一刀の変わりように驚いていた。

そしてM一刀が賊の前に立つと

M一刀「さっきはよくもやってくれたな！覚悟はいいだろうな！#
」

コキンツ！コキンツ！

両手を鳴らしながら賊の方に近付いていった。

チビ・デク『ヒィ〜!？』

賊達は驚くしかなかった。

そして少し時間が経った時

荒野を歩く三人の女の子がいた。

？「愛紗ちゃん！疲れたよ〜！」

？「桃香様！我々に休んでいる暇はないのですよ！我々は一刻も早く天の御遣いに会わなくてはならないのですから！」

黒髪の娘が桃髪の娘に厳しく言っていると

？「はにやつ？誰かがこっちに来るのだ」

赤髪の小さな娘が何かが向かってくるのを見付けた。

ドドドーン！！

向かってきたのはさっきの賊達だった。それを見た黒髪の娘は

？「あれは賊か！鈴々、迎え撃つぞ！」

？「応なのだ！」

ジャキンッ！

二人が武器を構えると

ドドドーン！！。

突っ込んでくる賊達は

スッ！

二人には目もくれず逃げていった。

？「あれっ？」

？「どうして逃げるのだ？」

二人が不思議に思っていると

ドドドドッ！！

賊達が来た方から土煙が舞い上がってきた。

そこには…

M一刀「待ちやがれ賊共ー！まだ戦いは終わってねえぞー！」

賊より怖いM一刀が走っていた。

それを見た女の子達は

？「その者、止まれっ！」

バツ！

両手を広げて通せんぼつすると

キキィーッ！！。

M一刀は止まった。

するとM一刀は

M一刀「何か用かよ乳デカ女！」

?「なっ! / / / 乳デカとはなんだ！」

?「そうなのだ! 愛紗より桃香お姉ちゃんの方がおっぱい大きいのだ!」

?「それは関係ないよ / / /」

三人が話していると

M一刀「そうか、お前らはさっきの賊の仲間だな! だからここで足止めしてるわけか」

?「なっ! 我々が賊だとっ! 切り捨ててくれる!」

ジャキンッ!

黒髪の娘は偃月刀を一刀に突きつける。

M一刀「面白い! 俺とやろっつてのか!」

M一刀が臨戦体制にはいると

ウラタロス「やれやれ、センパイったら女の子の扱いがなっちゃん

ないよ、ここは僕が行かなきゃね！」

スツ！パツ！

モモタロス「うおっ！？」

青い球体のウラタロスは強引に一刀に入っていく、モモタロスは球体に戻されてはみ出された。

そして三人の前には

U一刀「すみませんでしたお嬢さん達」

眼鏡をかけた髪の一部が青い一刀が立っていた。

？「あのお兄ちゃん姿が変わったのだ！？」

？「何でなんで！？」

？「桃香様はお下がりがりください、一種の妖術かもしれません！」

ジャキンッ！

黒髪の娘がU一刀に偃月刀を突きつけると

U一刀「やめてください！あなたのような綺麗な人に武器は似合いません！」

？「はっ？」

黒髪の娘は啞然とするしかなかった。

U一刀「僕は決して怪しいものではありません信じてください」

U一刀は言うが

？「何を言うか！貴様のどこが怪しくないというのだ！斬り刻んで亡き者にしてくれる！」

黒髪の娘が言った直後

キンタロス「泣き者……」

スッ！パツ！

ウラタロス「うわっ！？」

黄色の球体のキンタロスが無理矢理一刀に入ってウラタロスを追いつ出した。

キンタロスは“なく”という言葉を聞くと勝手に入るのだ。

そして三人の目の前には

K一刀「俺の強さは泣けるでえ！」

バンツ！

今度は鬚まげをした髪の一部が黄色の二刀が現れた。

？「また様子が変わったのだ！？」

？「やはり妖術か！？」

三人が驚いていると

リュウタロス「みんなばっかりずるゝい！僕も入るゝ」

スッ！パッ！

キンタロス「ちょっと早すぎやでリュウタ！？」

キンタロスが追い出されて今度は紫の球体のリュウタロスが入っていった。

そして三人の前には

R一刀「お前達、やっちゃうけどいいよね！」

今度は帽子をかぶった髪の一部が紫の一刀が現れた。

？「また姿が変わっているのだ！？」

？「一体どうなっているんだ！？」

さすがに何度も続けば黒髪の娘も頭を悩ませるしかなかった。

すると一刀は

モモタロス「おいテメエら！次々と勝手に入りやがって今は俺の番

だろうが！#
」

ウラタロス「センパイはさっき賊を退治したじゃん！女の子相手なら僕の出番だよ！」

キンタロス「もうちょっと話をさせてくれや！」

スツ！スツ！スツ！

そしてモモタロス達は一斉に一刀に入ってしまった。すると…

M一刀「俺、参じよ…」

パッ！

U一刀「僕に釣られ…」

パッ！

K一刀「泣けるで…」

パッ！

R一刀「答えは聞いて…」

パッ！

一刀による七面相ならぬ四面相が始まった。

？「あのお兄ちゃん頭がおかしいのだ！？」
」

？「さつきから変だよね！？」

？「私は頭が痛くなってきたぞ！？」

三人が悩んでいると

プチンッ！

一刀の堪忍袋が切れた。

一刀「お前らいい加減にしろっ！#」

パツ！パツ！パツ！パツ！

モモタロス「うわっ！？」

ウラタロス「ゲエツ！？」

キンタロス「あいたっ！？」

リュウタロス「いた〜い！？」

一刀が怒鳴るとモモタロス達は弾き出された。

一刀は自分の意思によりモモタロス達を追い出すことが可能なのだ。

モモタロス達を追い出した一刀は三人の方を見ると

一刀「すみませんがここがどこか教えてくれませんか？」

一刀は疲れた様子で聞くのだった。（イメージ達に取り付くと体が疲れるのだ）

しばらくして

一刀「ここは幽州だって!?」

一刀は三人の娘からこの場所を聞いた。

モモタロス「幽州なんて地名あったか？」

ウラタロス「さあね」

モモタロス達は反省して球体のままで会話していた。

一刀は幽州がどんな地名なのかを知っていた。

幽州とは三国志に出てくる地名なのだ。

さらに驚いたのが…

関羽「申し遅れたが我が名は関羽雲長と申す！」

劉備「私は劉備玄德です」

張飛「鈴々は張飛翼徳なのだ！」

彼女達の名前に一刀は驚いた。彼女達の名前は三国志に出てくる主要人物の名前だったからだ。

一刀は三國志好きの祖父からそのことをよく聞いていた。

張飛「ところでお兄ちゃん、さっきはなんで様子が変わったのだ？

」

張飛に聞かれた一刀は姿が見えないモモタロス達のことを言うわけにはいかないの

一刀「実は俺は多重人格なんだ！」

とっさにそう言うしかなかった。

うまくごまかした後で

関羽「さてと、いつまでもこんなところにいなくて先を急ぎましょ
う！」

関羽が立ち上がると

劉備「え〜！もっと一刀さんとお話したいよ〜！」

劉備がだだをこね始めた。ちなみに一刀の名前は最初に教えていた。

関羽「桃香様、わがままを言わないで下さい！我々は早く天の御遣いに会わなければならぬのですよ！」

関羽が言うと

一刀「さっきから気になってたんだけど何で呼び方が変わってるの

「？天の御遣いって何？」

「一刀が聞くと」

劉備「もしかして真名も知らないの！？」

劉備に驚かれると

劉備「真名っていうのは神聖な名前でも許可なく言えば首を切られても文句は言えないんだよ」

劉備による真名の説明が終ると

張飛「天の御遣いというのは輝く服を着た大きな白い獣を操る人物だって占師が言っていたのだ！」

今度は張飛による御遣いの説明が始まった。

ちなみに一刀の制服は土で汚れていた。

劉備「この先の村に私の友達が太守をしているから仲間に入れてもらおうと思ったけど」

張飛「さっき行ったら番兵に追い出されたのだ！三人には用がないって！」

関羽「それで仕方なく村で噂になっていた天の御遣いの力を借りようと思ったのだがまさか噂がガセだったとはな」

関羽の言葉にガツクリと落ち込む三人だった。

劉備「せめてお金があれば村の人を集めて兵の格好をしてもらえ
るんだけどね」

張飛「残念ながら鈴々達にお金はないのだ」

関羽「お前が前の村で食べ過ぎるからだろう！」

そして三人の話を聞いていた一刀は

一刀「（確かこの時代は紙が貴重だってじいちゃんが言っていたな）
」

紙という言葉に一刀が閃いた。

一刀「お金だったら俺に任せてよ」

三人「へっ！？」

三人は驚いた。

モモタロス「おいおい一刀、任せろって言ってどうする気だよ！」

ウラタロス「この時代のお金持ってないでしょ」

リュウタロス「わかった！モモタロスの力で強盗する気だね」

モモタロス達が騒いでいると

一刀「俺が用があるのはキンタロスだよ！キンタロス、起きてくれ

！
」

キントロス「俺に何か用か？」

一刀はキントロスを呼ぶと

一刀「俺に取り付けてくれ！お前の特技が役に立つんだ」

キントロス「俺の特技？」

当のキントロスですら何だか分からなかったがとにかく取り付けてみることにした。

キントロス「ほな、行くで！」

スッ！

キントロスが一刀に入ると

K一刀「俺の強さにお前が泣いた！」

一刀はK一刀に姿を変えた。

いきなり変わったことに関羽達は驚くが

K一刀「涙はこれで拭いときや！」

バサッ！

K一刀がどこから出したのか紙を大量にばら蒔くと

劉備「あわわ！？紙がこんなに沢山！？」

関羽「やはり妖術なのか！？」

張飛「この際妖術でも何でもいいのだ！」

ばら時かれた紙を拾いまくる劉備達。

モモタロス「たまにはクマ公も役に立つんだな！？」

ウラタロス「センパイには真似できないよね」

そして劉備達は紙を拾い終えると

劉備「一刀さん、ありがとうございました。これだけの紙があれば兵も雇えます！」

劉備がお礼を言うと

K「一刀「お礼なんてかまへんで俺は紙をばら時いただけやからな！」

劉備「でもお礼はさせてください！そうだ、よければこの先の村でごはんを奢りますよ」

K「一刀「ほんまかいな！ちょうど腹ペコやったんやありがたくゴチになるで」

そして一刀は劉備達と共に村に向かうのだった。ちなみに劉備達か

らお礼と言われて真名を呼ぶ許可ももらった。劉備は桃香で、関羽は愛紗、張飛は鈴々らしい。

四人が去ってしばらくした後、荒野では

アニキ「クソッ！あんな奴にやられるなんて悔しいぜ！」

一刀にやられた賊が話をしていた。

チビ「あいつはおかしいし強いつすよ！？」

デク「関わりたくないんだな！？」

仲間の二人が一刀をやることを諦めていると

アニキ「クソッ！あいつを殺してやりてー！」

アニキが言った直後

？「それがお前の望みか？」

アニキ「へっ！？」

突然声がしたのでアニキは振り向くが誰もいない。

気のせいだと感じていると

？「あいつらを殺すのが望みか？」

ガタンッ！

アニキの目の前には見たこともない砂の怪物が現れた。

突然現れた怪物に驚くアニキだが

チビ「アニキどうしたんすか!？」

デク「急に倒れるなんてどうしたんだな!？」

二人には怪物が見えないようだ。

？「お前の望みを言え、お前が払う代償はただ一つ、・・・だ！」

アニキ「おっ…俺の望みは!？」

一刀の知らない間に悪が動こうとしていた。

#2「一刀のイマジン騒動」(後書き)

モモタロス「次回予告だ！ついに次回、電王が出る予定だぜ！」

キンタロス「泣けるでえ！」

ウラタロス「いやいや、泣けないからさ！」

リュウタロス「次回も読むよね！答えは聞いてない！」

#3 「仮面ライダー電王見参！」（前書き）

今回から電王が登場しますのでセリフは分かりやすく

ソードフォーム…M電王

ロッドフォーム…U電王

アックスフォーム…K電王

ガンフォーム…R電王

と表記します。

#3 「仮面ライダー電王見参！」

K一刀の能力(?)のおかげで大量の紙を手に入れてそれを売った
お金で村人を兵士の格好にさせることに成功した一刀と桃香達。

一行は桃香の親友の公孫贄の城へとやって来た。

公孫贄の城・門

鈴々「何故なのだ！今度は兵を沢山連れて来たから中に入れるのだ
！」

鈴々が門番ともめていた。

門番「ですから太守様(公孫贄)は忙しいから後にして下さい！」

門番と鈴々が騒いでいると

モモタロス「いつまでやってるんだ！腹立つぜー！！#」

スッ！

腹が立ったモモタロスは勝手に一刀に入ると

M一刀「おいテメエ！」

グイッ！

門番「なっ…何の用だ！？」

M一刃は門番のスクーフを自分に向けて引っ張ると

M一刃「こちとらいつまでも時間かけてられねえんだよ！さっさとハムの所に案内しやがれ！」

ギロリッ！

M一刃は門番を睨むと

門番「ヒッ！？わかりました！？」

M一刃の恐ろしさにビビる門番だった。

公孫贇の城

公孫贇「うゝむ！？」

この城の城主であり、幽州の太守である公孫贇白佳。彼女が何かを見つめて悩んでいると

門番「公孫贇様、報告します！」

門番が慌てて駆け付けてきた。

公孫贇「何の用だ私は今忙しいんだぞ！」

公孫贇が言つと門番は

門番「すみませんですがどうしても公孫贇様に会わせろという乱暴

者が…」

門番が言うと

ガシッ！

M一刃「誰が乱暴者だこの野郎が！！#」

ギリギリッ！

門番「グエエッ！？」

M一刃は門番をアイアンクローで痛めつける。

公孫賛「こらっ！お前は何をするんだ！」

兵の命を守るため止める公孫賛だが

桃香「白蓮ばいれんちゃん！」

白蓮とは公孫賛の真名である。M一刃の後ろから桃香が現れると

公孫賛「桃香！？久しぶりだな！」

だきっ！

公孫賛は痛めつけられている兵をほっておいて桃香に抱きついた。

公孫賛「櫛植先生の私塾以来じゃないか元気だったか？」

桃香「私は元気だよ白蓮ちゃん！」

二人が再会を喜んでいると

愛紗「再会のところを申し訳ないが、兵の方はいいのか？」

愛紗が指差した先には

門番「・・・」

顔の穴という穴から液体を全てを出しきって気絶している門番がいた。

しばらくして

何とか解放された門番は息をふきかえすと

公孫賛「すまないな、ちょっと見知らぬある物が城に飛込んできたから来客どころじゃなかったんだ」

公孫賛は門番が冷たい態度をとった理由を話すと

桃香「そういう理由なら仕方ないよ！でもある物って何なの？」

桃香が聞くと

公孫賛「それは…あれなんだ！」

スッ！

公孫贇が指差した先には

ジャーンッ！

桃香「これつてもしかして噂に出てきた白い怪物かな！？」

鈴々「おっきいのだ〜！？」

愛紗「だが、動かないところをみると死んでいるのか？」

桃香達が見たものを一刀も見ると

M一刀「あれは！？」

M一刀・ウラタロス達「デンライナー（じゃないか・じゃない・やんけ・じゃん）！？」

パッ！

モモタロス達の姿は桃香達には見えないし、声も聞こえません。

パッ！

モモタロスは一刀から離れてデンライナーに近付いた。

そして桃香達は

桃香「一刀さん、でんらいなーってなんなの？」

桃香が聞いてくると

「刀「デンライナー」っていうのはね…」

「刀はデンライナーを桃香達に説明した。」

そしてモモタロス達は

モモタロス「やったぜ！俺達ようやく帰れるぜ！」

リュウタロス「わ〜い やったね」

ウラタロス「早速入ろうよ」

球体のままデンライナーが見付かったことを喜んでいた。

そして中に入ると

パッ！

モモタロス「おっ！？」

モモタロスの体は球体から元の体に戻った。

ウラタロス「どうやらデンライナーの中だと元の体に戻れるようだね」

そしてウラタロス達も元の姿に戻ると

キンタロス「早速運転室に行こうやないか！」

モモタロス達は運転室に向かった。

一方、デンライナーの外では

鈴々「よく分からないけど時間を越えられるなんてすごいのだ！」

桃香「乗ってみていいですか？」

愛紗「桃香様、そんなことをしている場合は…」

一刀からデンライナーの説明を受けた桃香達が騒いでいると

モモタロス「何だよこれは?!?!？」

デンライナーの中からモモタロスの叫び声が聞こえてきた。

一刀「どうしたんだモモタロスっ！」

桃香「ももたろすって誰ですか？」

一刀は桃香の質問を聞かずにデンライナーの中に入って行っていつて運転室にたどり着くと

一刀「どうしたんだよみんな!？」

一刀が見たものは

モモタロス「マシンデンバードが無くなっちゃってんだよ!？」

ウラタロス「この時代には自転車がないから代わりのものは無理だ

ね
」

リュウタロス「それじゃあ僕達帰れないの！？そんなの嫌だ！」

キンタロス「グオオー」

デンライナーを動かすのに必要なバイク・マシンデンバードがないことに驚いていた。

「刀」どうしよう！」

「刀が悩んでいると

桃香「なっ…何なのこれは！？」

鈴々「変な怪物が沢山いるのだ！？」

愛紗「やはり北郷殿は妖怪の一種だったのか！？」

いつの間にか桃香達が入ってきていてモモタロス達を見て驚いていた。

すると

兵士「公孫賛様大変です！？」

兵士が慌てて現れた。

デンライナーの外にいた公孫賛は

公孫賛「何かあったのか!?」

と聞くと兵士は

兵士「それが! 賊が城に入ってきたのですがやたらと強くて手におえません!？」

デンライナーの中で話を聞いていたみんなは

ウラタロス「賊ってさっきの奴らのことかな？」

モモタロス「だとしても兵士の手におえないはずがないだろ！」

モモタロス達が騒いでいると

ドガンッ!!

突然、城の壁が壊されて現れたのは

アニキ「この世界の人間は弱いな！」

さっきと雰囲気が違う賊のアニキだった。

チビ「アニキの奴、急に慌てたときは驚いたけど!？」

デク「急に強くなるなんて驚きなんだな!？」

アニキの変貌に子分の二人も驚いていた。

しかしアニキが変わったのには理由があった。それは…

モモタロス「一刀、あいつにイマジンが取り付いてやがるぜ!？」

モモタロスはイマジンを感知する能力が優れていた。

イマジンが人に取り付くと超人的な力を手に入れることができるのだ。

ウラタロス「でもこの時代にイマジンなんておかしいね、センパイの鼻が狂ったんじゃないの？」

モモタロス「俺の鼻が狂うかよ!#」

モモタロス達がもめていると

一刀「喧嘩している場合か!イマジン相手なら俺達の出番だろうが!」

ピタッ!

一刀の一喝で喧嘩がおさまった。

一刀「とにかく行くぜモモタロス!」

モモタロス「ご指名とはありがたいじゃねえか」

スッ!

そしてモモタロスは一刀に入ると

M一刀「行くぜ行くぜ！」

ダッ！

デンライナーの外に飛び出して行った。

そして一刀の変貌を見た桃香達は

桃香「二人とも今の見た！？」

鈴々「見たのだ！赤いおじちゃんがお兄ちゃんの中に入ったらお兄ちゃんの様子が変わったのだ！？」

愛紗「北郷殿が変わる原因がこれか！？」

初めて見る光景に驚いていた。

そしてデンライナーを降りた一刀は

M一刀「そのイメージン！人に入ってないで出てきやがれ！」

M一刀が叫ぶと

アニキ「お前は電王だな、こいつの望みはお前を殺すことだからちようどいい」

スッ！

そしてアニキの体から砂の体をした化け物が現れてアニキはくずれ落ちた。

イマジン「これだけの欲があれば実体化できるな！」

イマジンがぶつぶつ言っていると

ブワッ！

イマジンの体は砂の状態から実体であるドッグイマジンへと変化した。

M一刀「ちっ！犬は苦手だがイマジン相手ならやるぜ！」

スッ！

M一刀はどこから取り出したのかベルトを腰に巻き付けて、パスを取り出すと

M一刀「変・身！」

スッ！

パスをベルトにかざした。本来ならばこれで仮面ライダー電王になれるのだが

しゅん…

全然変身していなかった。

M一刀「あれっ？故障しちゃったのか？」

M一刀は何度もかざすが変身しなかった。

ドッグイマジン「何だか分からないが変身できないなら都合がいいぜ！」

バサッ！ シュシュッ！

ドッグイマジンは両手から桜吹雪型の爆撃をM一刀に向けて放った。

M一刀「うわっ！？あぶねっ！」

サッ！

しかし爆撃を何とか避けた一刀

そして戦いの最中、一刀は出かける前にオーナーが言っていたことを今更ながら思い出していた。

出かける前

オーナー「一刀くん、ちょっとお話があります」

オーナー「デンライナーで一番偉い人物。実は隠れた実力者でもある。」

一刀「何ですか？石丸けんじ…いや、オーナー」

一刀が思わず間違った名前を言おうとすると

オーナー「今回の時間移動のために電王ベルトに新しい機能をつけ

ました。是非モモタロス君達に取り付いていない時に使ってくださいね。」

それを思い出した一刀は

一刀（精神）「モモタロス、話があるんだ。」

モモタロス達に取り付いている間は一刀は精神（心）のみ自由にできるのだ。

M一刀「何だよ一刀。」

M一刀が聞くと

一刀（精神）「一度俺から離れてくれ。」

これを聞いたM一刀は

M一刀「馬鹿言ってるじゃねえよ！死にてえのか！#。」

一刀はモモタロス達に取り付くことでイマジンの攻撃を避けられるのでモモタロス達が離れたら攻撃をまともに喰らう危険があるのだ。

一刀（精神）「いいから早く…出やがれっ！」

バツ！

モモタロス「うおっ！？。」

一刀は無理矢理モモタロスを追い出した。

そして一刀は

パカッ！

腰の電王ベルトを開くとそこにはO・V・E・Rと書かれたエンターキーがあった。

そして一刀はベルトにあったエンターキーを押すと

一刀「変・身！」

ベルト『オーバー！』

ベルトから音が鳴り出すと

シュパンッ！

一刀の体は電王プラットフォームになって

シュインッ！

モモタロス「おっ！？」

デンライナーの外では球体だったモモタロス達も元の体に戻ることが出来た。

ウラタロス「これってすごいよね！？」

キンタロス「ほな俺らもいこか！」

リュウタロス「出撃だー」

そしてウラタロス達はデンライナーを降りていった。

ドッグイマジン「何だか知らないが数ではこちらが不利なのでいでよ、傀儡兵！（くぐつへい）」

ドッグイマジンが叫ぶと

ズオオツ！

あちこちから傀儡兵が現れた。

モモタロス「相手の方が沢山いやがるな！？」

モモタロスが相手の数に驚いていると

一刀「モモタロス、俺に取り付けてくれ」

プラットフォームに変身した一刀が言うと

モモタロス「追い出しといて今度は入れだとふざけるんじゃないぞ
！#」

モモタロスが怒ると

ウラタロス「センパイが行かないなら僕が行こうかな」

そしてウラタロスが入ろうとすると

モモタロス「待ちやがれ！俺が入るんだよ！」

スッ！

モモタロスは一刀に入ってしまった。すると…

ベルト『SWORDFORM』

ジャジャジャンッ！

一刀の体は仮面ライダー電王ソードフォームへと変身した。

M電王「どうやら今度は変身できたようだな」

ウラタロス「それじゃあ僕達は雑魚の傀儡を倒すとしますかね」

キンタロス「モモの字、犬の方は任したで！」

リュウタロス「いっくよ」

そして電王軍団はイマジンと傀儡に向かっていった。

M電王「俺は最初からクライマックスだぜー！」

#3 「仮面ライダー電王見参！」（後書き）

イマジンファイル

・ドツゲイマジン

『花咲か爺さん』の犬をイメージされたイマジン。
両手から桜吹雪の爆撃を出す。武器は剣。

4 「電王軍団、大暴れ！」（前書き）

携帯を新しくしたら投稿するのが遅くなりました。やはり三作品は大変です。

4 「電王軍団、大暴れ！」

仮面ライダー電王ソードフォームに変身した一刀とウラタロス達イマジン軍団は突如現れたドッグイマジンと傀儡兵達に立ち向かっていった。

そしてその様子をデンライナーで見ていた愛紗達は

鈴々「お兄ちゃんの姿が変わったのだ!？」

桃香「一刀さんって何者なの!？」

変身した一刀に驚いていると

愛紗「何をしているのだ鈴々!我々も行くぞ」

ダッ!

愛紗は得物の青龍偃月刀を片手に飛び出していった。

鈴々「わかったから待つのだ愛紗!」

ダッ!

鈴々も愛紗に続いて飛び出した。

桃香「それじゃあ私も!」

桃香も飛び出そうとするが

愛紗「桃香様はお邪魔ですからお下がりにください！」

桃香「愛紗ちゃんひどい！」

桃香は愛紗の一言に怒ってふくれるのだった。

その頃、一刀達は

ウラタロス「ハァー！せいやっ！」

ドスッ！

傀儡兵「ゲエッ！」

槍の先が六角形になっている槍、ウラタロッドで華麗に傀儡兵を倒していくウラタロス

ウラタロス「雑魚が何びきいても雑魚にかわりなしだね」

一方、

キンタロス「おりゃーっ！」

ドカッ！！

持ち前の怪力と自らの得物であるキンタロスアックスで傀儡兵をなぎ倒すキンタロス

キンタロス「俺の強さにお前らが泣いた！」

一方、

リュウタロス「おもしろい」

ズガガッ！

こちらは遊び半分でリュウボルバーをぶっぱなすリュウタロス

ウラタロス「僕達いつもイマジンと戦っているからねえ」

キンタロス「あいつらに比べたらこいつらなんて屁のカツパやで！

」

リュウタロス「わーいカツパだつてよ」

三人が敵の弱さにあきれていると

又ッ！

三人の背後に傀儡兵が現れた。

しかも三人は気づいていない！！

もうダメかと思われたが

バツ！

愛紗「ハァー！」

ズバツ！！

突然愛紗が現れて傀儡兵を切り裂いていった。

愛紗「後ろががら空きですよ」

愛紗が言つと

ウラタロス「まさか女性に助けられるとはね!？」

キンタロス「肝っ玉のでかい女やで」

リュウタロス「肝っ玉っておっぱいのこと？」

それは違う

そして変身したM-1刀は

M電王「オラオラッ！」

ブンッブンッ!!

M電王はデンガッシャーをソードモードに変えてドッグイマジンに振り回す。

ドッグイマジン「ちっ!なんて危ない奴なんだ!？」

しかし何とか攻撃を避けるドッグイマジンだった。

スッ!

ドッグイマジンは電王から距離をとると

ドッグイマジン「これでも喰らえっ！」

バサッ

両手から桜吹雪型の爆撃を放った。

M電王「うおっ!?!」

ドカカカッ!!

電王は避けきれずに命中してしまった。

ドッグイマジン「殺ったか？」

ドッグイマジンが見てみると爆風の中から現れたのは…

M電王「俺があんな攻撃でくたばるかよ！」

M電王はピンピンしていた。

ドッグイマジン「バカなっ!?!何であれを喰らって立ち上がれるんだ!」

ドッグイマジンが驚いていると

M電王「こんな攻撃は喰らいなれてるんだよ！」

自慢できることではない

M電王「こんな奴相手に時間をかけるわけにはいかねえ！一気に勝負を決めるぜ！」

そして電王はライダーパスを取り出して

スッ！

ベルトにかざすと

ベルト『フルチャージ』

バチバチッ！

デンガツシャーが赤く光出すと

M電王「俺の必殺技part1」

そしてM電王はドッグイマジンに突っ込んでいった。

ドッグイマジン「来るな！来るな！」

ババッ！！

ドッグイマジンはM電王を近づけさせないために攻撃を仕掛けるが

M電王「そんな攻撃が効くかよ！」

ドカカカッ！！

M電王は構わず爆撃の中を突き進んでいった。

ドッグイマジン「ヒッ!？」

ドッグイマジンは慌てて逃げようとするが

M電王「逃がすかよ犬野郎!!」

M電王は逃がさなかった。

そして

ズバツ!

M電王はドッグイマジンを切り裂いた。

ドッグイマジン「バカなっ!？」

ドッカーン!!。

そしてイマジンは爆発していった。

M電王「俺、最強!」

ビシッ!

しばらくして

「刀「やっぱりデンライナーは動きそうにないな」

リュウタロス「それじゃあ僕達帰れないの！？そんなの嫌だー！！」

「

ちなみにモモタロス達は戦いが終わると再び光の球体に変化した。

モモタロス「俺は強い奴がいるからこの世界は好きだけどな」

ウラタロス「僕もかわいい女の子がたくさんいるから別にいいしね

「

キンタロス「グオオー！」

そして一刀達が話していると

桃香「あもう、一刀さん」

桃香が一刀を呼んできた。

桃香「よくわからないけれども旅に出るなら一緒に行きませんか？

「

桃香の問いに一刀は

一刀「悪いけど俺たちと一緒にいくと君たちに危険が及ぶから連れていけないし一緒にいけないんだ」

すると桃香は

桃香「そうか、それなら仕方がないですね。どこかで出会っ日を待ちましよう」

ギョツ！

そして電王は一刀は桃香と握手をして別れていった。

一刀「（それにしてもさっきのイマジンは欲望を集めたと言ったがグリードじゃあるまいし何でそんなことをするんだらう？）」

一刀はずっとその事を考えていた。

4 「電王軍団、大暴れ！」（後書き）

果たして一刀はどこにいくのだろうか？

#5 「江東のタイガー」

ここは江東のとある城

この場所で三人の女性が酒を飲みながら話をしていた。

？「母さんが死んでからというもの、袁術のちびっこにはわがまま言われ放題でうんざりするわ！」

桃色の髪的女性が愚痴を言うと

？「そういうな雪蓮、いずれ孫家に天下がくるときが来るさ」

眼鏡をかけた女性が雪蓮という名の女性をとがめると

？「冥琳のいう通りじゃ策殿、焦ってないで少しは待たんか！」

銀髪の女性も言葉をあわせた。

孫策「少しは待ってって言われても私はそんなに待てないの！あゝあ、どこかに袁術の支配から解放させてくれる人はいないかな？」

雪蓮が他人をあてにするような言い方をすると

周瑜「そういえば噂に聞いた話ですが、なんでも公孫贇の城に天の御遣いが現れて城で大暴れしたそうなの」

周瑜という眼鏡をかけた女性がいうと

黄蓋「そういえばわしも似たような話を聞いたな！なんでも怒ったり、女に優しくかったり、力持ちだったり、子供のような性格だったと聞いたぞ」

黄蓋という銀髪の女性も答えた。

孫策「へえ、なんだかわからないけどそんなにすごい人なら呉に来てほしいわね」

孫策の目はまるでものを欲しがる子供のような目だった。

周瑜「お前がそういうと思うって町の警備兵に見張らせたら天の御遣いが呉に向けて進んでいるという情報を手にいれたぞ」

話を聞いた孫策は

孫策「さっすが冥琳、私のことをよく理解しているわね」

ガバツ！

孫策は嬉しくて周瑜に抱きついた。

周瑜「こらっ！あまりくっつくくな！私がどれだけお前といたと思っているお前の考えそんなことくらいわかるわ！」

周瑜は孫策に離れるようにいうが孫策は離れなかった。

黄蓋「ほんとにお主らは仲がよくていいのう」

二人がくっつく姿を見て笑う黄蓋だった。

そんな時、

カッンッ！ カッンッ！

どこからか杖をつくような音が聞こえてきた。

三人が音の方に耳を向けると

そこには

「一刀「ここはどこだ？」

ボロの外套を纏った一刀が杖をつきながら歩いていた。

「一刀「桃香達と別れてから数日、あてもなく旅をしていたら道に迷うだなんて！」

「一刀がそう考えていると

モモタロス「だからあの道は右に進めばよかつたんだよ！」

ウラタロス「でもあとで地図を見て調べてみたらセンパイの言った方角は崖があることが判明したよ」

キンタロス「モモの字も案外方向音痴なんやな」

リュウタロス「モモタロスは方向音痴」

からかわれたモモタロスは

モモタロス「テメエら、さつきからうるさいんだよ!!」

モモタロスは球体のままキレて暴れだした。

モモタロス達の姿は一刀以外には見えないし、声も聞こえません

一刀「お前ら!うるさいから喧嘩するな!」

一刀が言うと

孫策「ねえ、その君!」

一刀が声の聞こえてきた方を見ると

そこには孫策が手を振りながらやって来た。

ウラタロス「わあお!美人さん発見!ちょっと体借りるね」

スッ!

そう言つてウラタロスは一刀の中に入っていった。

孫策「あなたはもしかして天の御遣いなの?」

孫策が聞くと

U一刀「御遣いなんかじゃありません!僕は美しいあなたに狩られに来たものです!」

この言葉に孫策は一瞬？を浮かべると

孫策「ウフフツ！やっぱりあなたは噂に聞いた御遣い君ね 暇だっ
たらうちに来ない？」

これを聞いたU一刀は

U一刀「まさかこの僕が逆ナンされるなんて！？」僕はいつでも
暇だから行くよ！」

そしてU一刀は孫策の城に招かれたのだが

孫策の城

周瑜「雪蓮！あなたわけもわからない人を城に連れてきていいと思
っているのか！！」

孫策は一刀を無断で連れてきたことを周瑜に怒られていた。

孫策「大丈夫よ冥琳、私の勤が彼は大丈夫だと感じているからさ！
？」

孫策が言うと

周瑜「あなたの勤なんて信じるわけないでしょ！罰としてたっぷり
と仕事を与えますからね！その間は酒飲みは禁止です！」

周瑜は仕事嫌いで酒好きの孫策にとって厳しい罰を与えた。

孫策「冥琳のおに〜！！」

孫策が文句を言うと

U一刀「ごめんなさい孫策さん、僕がこの城に来たせいであなたに迷惑をかけてしまって…」

U一刀が謝ると

孫策「別にいいのよ、君のせいじゃないし、叱られ慣れてるから気にしないで」

そして孫策はその場から去って政務室に向かっていった。

U一刀「(このままじゃ僕の気がすまない!)」

ダッ!

するとU一刀は周瑜の方に向かっていった。

U一刀「眼鏡の美しいお姉さん、孫策さんは悪くないんです!悪いのは僕だけです!僕にも罰をください!」

これを聞いた周瑜は

周瑜「美しいお姉さんだと!?!?!」

いきなり言われたのでさすがの周瑜も戸惑っている

黄蓋「冥琳が美しいお姉さんならわしはどつじゃ?」

U一刀「それはもちろん美しい…」

U一刀が最後まで言おうとした時、

モモタロス「この亀野郎！いつまでも一刀の体に入ってんじゃねえ！」

スッ！

ウラタロス「うわっ！？」

パッ！

球体のモモタロスが勝手に一刀の体に入ってウラタロスを追いつ出すと

黄蓋「美しいなんじゃ？」

黄蓋の質問にたいしてM一刀は

M一刀「ババアに決まってるだろうが！」

シーン…

その場が一瞬静かになると

黄蓋「クククッ！冥琳がお姉さんでわしがババアかなるほどのう」

黄蓋は笑いながら一刀に近付くと

ガシッ！

即座に襟首をつかんで

黄蓋「お主の罰は決まったぞ！これからわしが納得するまで鍛練じや！！」

黄蓋は完全に怒っていた。

襟首を捕まれて上がったM一刀は

M一刀「何しやがるんだ！離しやがればバア！」

懲りずに繰り返すM一刀に

黄蓋「お主はもう死刑に決定じゃ！」

ズルズルッ！

M一刀を引きずりながら黄蓋はその場を去っていった。

M一刀「離しやがれって言ってるだろう！」

黄蓋「少しは静かにしておれっ！」

ゴチンッ！

黄蓋のゲンコツによってM一刀は気絶してしまった。

そして去り行く二人を見た周瑜は

周瑜「あの男、死ぬかもしれないな」

一刀の心配をするのであった。

その頃、政務室で仕事中の孫策は

孫策「こんなに罰が多いなんて聞いてないわよー!?」

あまりの仕事の多さに文句をいっていた。

仕事の量が多いのも無理もない、罰の他に孫策が今まで溜め込んでいた仕事も含まれているのだから

それを知らない孫策は

孫策「冥琳ったらこんなに仕事を与えてあったまきちゃう！冥琳なんていなくなっちゃえばいいのよ！」

孫策が罰の仕事が多いのは周瑜のせいだと責任転嫁してポツリと咳く（つぶやく）と

？「それがお前の望みか」

孫策「!? 誰かいるのっ！」

気配に気づいた孫策が振り向くとそこには…

？「その望みを俺が叶えてやるぜ！」

そこにいたのは虎のような姿をした砂の怪物だった。

ブワッ！

怪物は体を砂から実態に変えると

タイガーイマジン「お前の望みは冥琳を殺すこと、楽に殺してやるぜ！」

シュバッ！

タイガーイマジンはすごい早さで政務室から飛び出していった。

孫策「あの怪物はなんなの！？」

孫策が驚いていると

孫策「そういえばあいつさっき冥琳を殺すって言ってたわね！？」

孫策はその事を思い出すと

ダッ！

孫策「何故だかわからないけれど、冥琳を殺すなんてさせはしないわ！」

まさか自分の一言が原因とは知らない孫策だった。

そして孫策はタイガーイマジンのあとを追って政務室を出ていった。

#5 「江東のタイガー」 (後書き)

イメージファイル

・タイガーイメージ

『ちびくろサンボ』の虎からイメージされたイメージ。動きが素早い。

#6 「軽い口には」用心」

呉軍鍛練場

「一刀「もう体がくたくただよ!?」」

「一刀は黄蓋からの厳しい鍛練によって体がボロボロになっていた。

モモタロス「すまねえな一刀…!?」

黄蓋からの厳しい鍛練を受ける原因をつくったモモタロスもさすがに謝るしかなかった。

ウラタロス「センパイが黄蓋さんに対してババアなんていうからこんなことになったんだよ!年増の女性には年齢に注意しなくちゃダメだよ」

キンタロス「ホンマやで、ああいう時は嘘でもお姉って言わなあかんやんか!」

リュウタロス「確かに嘘でもつかなきやあの人おばあさん呼ばわりだもんね」

本人が聞いたなら激怒しそうな台詞を次々と言うウラタロス達だった。

とそんな時…

モモタロス「んっ!」

モモタロスは何かを感じ取った。

モモタロス「一刀、イマジンの気配を感じるぜ！」

モモタロスの話を聞いた一刀は

「一刀「それじゃあ行くぜ！と言いたいところだが体がボロボロで歩けない」

ヨロツ！」

その場で倒れこむ一刀に

ウラタロス「じゃあ僕が体に入っただけよ！だからゆっくりと休んでね」

スッ！」

ウラタロスは一刀に入っていった。

「一刀はイマジンがとりついている間に体を休めることができるのだ。

「一刀「それじゃあセンパイ、道案内頼むよ」

モモタロス「ちっ！しかたねえな！」

モモタロスは文句をいいながらも道案内をすることになった。

そして走り去る一刀を見た黄蓋は

黄蓋「あやつは何しにいくきじゃ？」

そつと一刀のあとをつけるのだった。

その頃、

玉座の間

周瑜「まったく、雪蓮にはもっとしっかりしてもらいたいものだな

」

周瑜がため息をついていると

ガチャンツ！

窓が割れる音がしたので

窓の方を見てみると

タイガーイマジン「冥琳、殺す…」

そこには虎の姿の怪物がいた。

周瑜「お前は何者だ！兵は何をしている！？」

周瑜は兵を呼ぶが

ボロボロっ

玉座の間への廊下に兵達が倒れていた。

タイガーイマジン「冥琳、殺す…」

ジャキンツ！

タイガーイマジンは爪を立てて周瑜に迫る。

周瑜「くっ！みすみす殺される私ではないわ！」

ビュンツ！

軍師でありながら武器を持つ周瑜は鞭の白虎九尾をタイガーイマジンに向けてはなった。

しかし

ガシツ！　グイツ！

周瑜「なっ！？」

周瑜がはなった鞭はタイガーイマジンに軽く受け止められてしまい、鞭を引つ張られて周瑜はタイガーイマジンに引き寄せられた。

周瑜「（まずいつ！？）」

このままではタイガーイマジンの爪の餌食えじきになってしまっ！もうダメだと周瑜が思ったそのとき！？

ガキンツ！　ボトリツ！

タイガーイマジンの爪が折れて落ちた。

周瑜は何事だと思って閉じていた目を開けてみると

孫策「どうやら間に合ったようね!？」

目の前には断金の親友である孫策こと雪蓮がそこにいた。

孫策「しかし、あいつなんて頑丈なのよ!？呉の家宝である南海霸王が一撃で刃こぼれするなんてね!？」

孫策が家宝の剣・南海霸王を見てみるとあと少しで折れそうなくらいボロボロになっていた。

タイガーイマジン「冥琳、殺す…」

タイガーイマジンは孫策の乱入にもかかわらず爪を立てる。

周瑜「あいつはいったい何者なんだ!？」

孫策「そんなの私が知りたいわよ!いきなり現れて冥琳を殺すなんて言っただもん!！」

まさか自分の一言が原因とは知らない孫策だった。

タイガーイマジン「殺してやるー!！」

ビュンッ!

タイガーイマジンはさっきよりも早いスピードで二人に迫る!

孫策「ちよつと！？前より早くなるなんて反則よ！？」

さすがの孫策もかわせない早さだと悟って諦めかけたが

ビュンツ！ ザクツ！

タイガーイマジンに突然矢が飛んできて命中した。
矢が飛んできた方を見てみると

黄蓋「策殿、冥琳、大丈夫か！」

そこには弓を構える黄蓋がいた。

孫策「祭さい、どうしてここに！？」

孫策が驚いていると

黄蓋「わしはこやつのを追っただけじゃ！」

スツ！

黄蓋が指差した方を見るとそこには

U一刃「やっぱりイマジンがいたんだね！？」

U一刃がそこにいた。

タイガーイマジン「お前は電王か！？あと少しのところまで邪魔しに来るとは許せん！出でよ傀儡兵！」

スッ！　　ババッ！

タイガーイマジンが手をあげると同時にどこから出たのか傀儡兵が
たくさん出てきた。

モモタロス「また変な奴らかよ！？」

リュウタロス「あいつらいったい何者なの！？」

モモタロス達が球体のまま驚いていると

U一刀「あいつらが誰だって僕には関係ないよ、ただ許せないのは
……」

U一刀はタイガーイマジンを睨み付けると

U一刀「僕の目の前で女の子達をいたぶるあいつが許せないんだよ
ね！」

ビシッ！

U一刀はタイガーイマジンを指差した。

U一刀「というわけだから一刀、返信お願いね」

パッ！

ウラタロスは一刀から離れていった。

ウラタロスに体を任していたおかげで体力が回復した一刀は

「一刀「任せておけっ！」

ジャキンッ！ パカッ！

一刀はデンオウベルトを腰に巻いてベルトの中央を開くと

「一刀「変身！」

ピッ！

ベルトに新しくつけられたOVERボタンを押すと

ベルト『OVER』

パーツ！

一刀の姿は仮面ライダー電王プラットフォームに変身した。

そして…

パーツ！

モモタロス達も実体化した。

これを見た孫策達は

黄蓋「何なんじゃあれは！？」

周瑜「わからないが赤い奴や青、黄色、紫の化け物まで出てきたぞ！？」

孫策「たぶん味方よ、私の勘だけどね！？」

初めて見るモモタロス達に驚いていた。

そして変身した一刀は

一刀「こいつ！ウラタロス！」

ウラタロスを呼ぶと

ウラタロス「言われなくてもわかってるよ一刀！」

スッ！

ウラタロスは一刀に入っていった。

それと同時に

ベルト『ROD FORM』

ガシガシンッ！

一刀の姿は仮面ライダー電王ロッドフォームに変身した。

U電王「お前、僕に釣られてみる？」

U電王が言つと

タイガーイマジン「ふざけるな！傀儡共、殺つてしまえ！」

ババツ！

タイガーイマジンの指示で迫り来る傀儡軍団

U電王「それじゃあセンパイ、キンちゃん、リュウタ、いきまじょうか！」

モモタロス「お前に言われなくてもわかってるんだよ！」

キンタロス「ほな、暴れたるか！」

リュウタロス「わ〜い！戦いだ〜」

モモタロス達率いる電王軍団も向かっていった。

そしてそれを見ていた孫策は

孫策「みんなばっかり暴れてずる〜い！私も混ぜてよ」

バツ！

戦いの中に混じっていった。

モモタロス「オラオラッ！」

ズバズバツ！

モモタロスが剣のモモタロスオードで傀儡達を斬っていると

孫策「私も混ぜて」

横から孫策が乱入してきた。

モモタロス「俺の戦いを邪魔するんじゃないか！」

モモタロスは怒るが

孫策「あなたこそ私の戦いの邪魔しないでよね」

ピキンッ！

孫策の挑発にモモタロスはのってしまい

モモタロス「上等じゃねえか！だったらどっちが多く倒せるか競争しようじゃねえか！」

孫策「その話、のったわ」

二人して喧嘩好きであった。

一方U電王は

タイガーイマジン「シャツ！」

ビュンッ！

タイガーイマジンが高速で襲いかかるが

U電王「遅すぎだよ」

ズカッ！

U電王に軽くやられていた。

タイガーイマジン「おのれ、やはり本心でない願いは力がうまくでないか！？」

タイガーイマジンが話すと

U電王「そういえば君が叶える願いつて何なのさ？」

U電王が聞くと

タイガーイマジン「冥琳を殺すことだ！」

話を聞いたU電王は

U電王「そんな話を聞いちゃますます君を許すわけにはいかないな」

スッ！

U電王はデンオウベルトにライダーパスをあてる。
ベルト『フルチャージ』

U電王「ハアッ！」

ビュンッ！

U電王はデンガッシャーロッドモードを

タイガーイマジン「ぐっ！？」

タイガーイマジンに突き刺すように投げると

U電王「終わりだよ」

ビュンッ！

その場で高くジャンプして

U電王「ソリッドアタック！」

キーンッ！

必殺の蹴りを食らわした。

ドカッ！

タイガーイマジン「うおーっ！？」

ドッカーンー！！

蹴りは見事命中し、タイガーイマジンは爆死した。

そしてタイガーイマジンが消えると同時に傀儡兵が消えると

モモタロス「あぁっ！？あと一人で俺の勝ちだったのに！」

孫策「勝負は引き分けね赤鬼君」

モモタロス「くっそー！」

モモタロスは最後まで悔しがっていた。

そして戦いが終わって孫策達と別れの時

孫策「ほんとにうちに来てくれないの？」

孫策が聞くと

「一刀「悪いけど俺は旅の途中だからさ、縁があったらまた会おうな！」

ダッ！

そして一刀は去っていった。

一刀が去ったあと

孫策「せっかくあの子の血を具に授けてもらおうと思ったのに」

孫策がぶつぶつ言っている

周瑜「ところで雪蓮、北郷から聞きましたがあの怪物は雪蓮の望みを叶えていたそうですね」

ドキッ!?

孫策が一刀から聞いたその事について驚いていると

周瑜「あなたが私を殺したいことがよくわかりましたから私もあなたを殺すくらいの仕事を与えましょう！」

孫策「冥琳許してよ〜! あんなの私の本心じゃないんだからさあ〜!
」

結局このあと、死ぬくらいの仕事を押し付けられる孫策だった。

#7「リュウタロスの怒り」(前書き)

今回、黄巾党の三人が登場します。

#7「リュウタロスの怒り」

呉の国を飛び出した一刀達は現在、ある荒野にて休んでいた。

デンライナー内

デンライナーは時空移動はできないが呼び出すことは可能なので現在は一刀達の寢床と化していた。

中は一両ぐらいの広さしかないが食料としてチャーハン、プリン、コーヒーが無限に出るうえに、ベッドが五つと以外と快適だったりする。

モモタロス「もう食べられねえよ…」

ウラタロス「そこのお姉さん、お茶しない?…」

キンタロス「グオーツ!」

リュウタロス「すやすや…」

一刀「…」

デンライナーの中ではモモタロス達は実体化できるのだ。

一刀達が気持ちよく眠っていると…

『ほわわ〜〜!〜!』

外から騒音が聞こえてきた。

ガバッ

モモタロス「何なんだようるせえな！」

ウラタロス「せっかく女の子と遊ぶ夢を見てたのに！」

キンタロス「グオーッ！」

リュウタロス「うるさい！」

一刀「んっ!？」

約1名を除いて全員があまりのうるささに目を覚ました。

ウラタロス「音は外から聞こえるようだけど」

モモタロス「俺が文句いつてやるぜ！」

外に出ようとするモモタロスに

一刀「モモタロス、無理だからやめなつて！」

一刀は止めるが

モモタロス「無理なんかじゃねえよ！」

ガラッ!

モモタロスは構わず飛び出していった。

モモタロスは飛び出したあと、近くで人影を見つけると

モモタロス「やいやいテメエら！さつきからうるさいんだよ！」

モモタロスは人影に怒鳴るが人影は何も反応しない。

モモタロス「テメエら！無視するんじゃねえよ！」

さらにモモタロスは怒鳴るが

ウラタロス「無駄だよセンパイ」

ウラタロスに止められた。

モモタロス「何止めやがるんだカメ公！」

モモタロスが怒ると

ウラタロス「忘れたのセンパイ、僕らはデンライナーの外じゃあー
刀以外には見えないし、声も聞こえないことを」

モモタロス「あっ!？」

確かにモモタロスの体は実体から球体に変化していた。

その事をすっかり忘れていたモモタロスだった。

リュウタロス「ほんと、モモタロスは馬鹿なんだから」

モモタロス「なんだとがきんちよ！」

一刀「二人とも、喧嘩するんじゃないやねえよ！」

喧嘩する二人を一刀が止めていると

？「おいお前！さっきから一人で何ぶつぶつ言ってるんだよ！」

いつの間にか一刀の目の前には屈強そうな体つきの男が立っていた。

？「お前もしかして天和ちゃん達の邪魔しに来たんじゃないだろうな？」

男が言うと一刀は

一刀「天和ちゃんって誰？」

？を浮かべるしかなかった。

一刀の言葉を聞いた男は

男「知らない奴がきやすく天和ちゃんの名前を言っんじゃないやねえよ！」

ブンッ！

男は構わず一刀に殴りかかるが

パシッ！

M一刀「お前が聞いてきた話だろうが！」

男の拳は間一髪一刀に入ったモモタロスに軽く受け止められた。

M一刀「さて、一発は一発だよな」

男「へっ!？」

ドガッ!

男はおもいつきりM一刀に殴られた。

ウラタロス「センパイちょっとこれはやりすぎじゃないの!？」

リュウタロス「鼻血出してたおれてるしね」

M一刀「うるせえ!先に手を出してきたこいつが悪いんだよ！」

一刀(精神)「と言うか、勝手に入るなよな」

一刀達が騒いでいると

?「ちよつと〜!何があったんですか?」

そこには三人の女の子が駆け寄ってきた。

?「ゲッ!?!こいつ来るのが遅いと思ったたらこんなとこでのびてたのね!」

？「せつかく役に立つ人だったけどこうなってはクビね」

M一刀「おいおいお前ら何者だ？」

M一刀が聞くと

天和「私たちを知らないの！？私は天和」

地和「ちいは地和よ！」

人和「私は人和です」

三人「三人合わせて…」

三人「シスターズ数え役満姉妹！」

バンツ！

三人が言うと

M一刀「知らねえな」

ズコツ！

一刀の言葉に三人はずっこけた。

天和「知らないなら特別に聞かせてあげますよ！」

地和「ちい達の歌を聞いてメロメロになりなさいよね！」

ジャキンッ！

三人の歌う準備が終わると

三人『前髪かすめた…』

三人は歌い始めた。

そして歌が始まったそのとき！

リュウタロス「ハッ！？（この歌はもしかして）」

スッ！パッ！

何を思ったのかリュウタロスはモモタロスを押し退けて一刀に入っていた。

一刀（精神）「ちょっとリュウタロスどうしたんだよ！？」

一刀が聞くと

R一刀「少しだけ黙ってて」

一刀（精神）「？」

一刀は？を浮かべるがリュウタロスに任せることにした。

そして歌が終わると

天和「私たちの歌はどうだった？」

一刀に聞いてみると

R一刀「全然ダメだね、あんなのは歌じゃなくて騒音だよ」

R一刀の発言に

地和「何いつてるのよあんた！ちい達の歌はもはや大陸一なのよ！それを騒音呼ばわりだなんて頭悪いんじゃないの！」

人和「姉さん、ちょっと言い過ぎよ。だけど私たちの歌をバカにしたのは事実ですから謝ってください」

人和の言葉にR一刀は

R一刀「やなこった！何度だって言うさ、あんなのは歌じゃなくてただの騒音だとね！」

地和「キーツ！！頭にくるわ！こんな歌音痴な奴はほっておいていきましよう！」

人和「姉さんの言うとおりねこれ以上無駄な時間は使いたくありませんし」

天和「べーっだ！私たちはこの先でライブしているから悔しかったら来なさいよね！」

三人は怒りながら去っていった。

一刀（精神）「どうしたんだよりユウタロス、いつものお前なら…」

いつもの場合

R 一刀「スツゴクいい歌だったよ！僕も音楽が好きだからわかるんだ！君たちの歌は素晴らしい！」

一刀（精神）「って言うはずなのに歌を騒音だなんて」

一刀がわけを聞くと

R 一刀「あの歌を聞いたとき、なにか嫌な予感を感じたんだ！その証拠にモモタロス達を見てよ」

一刀（精神）「？」

クルッ

一刀がモモタロス達を見てみると

モモタロス「ほわわ〜！！」

ウラタロス「ほわわ〜！！」

モモタロスとウラタロスは何かおかしくなっていた。

パッ！

「一刀、どうしたんだよ二人とも!？」

リュウタロスが離れた一刀が近づくと

モモタロス「俺っ、天和ちゃんに惚れちまったぜ」

ウラタロス「気が合うねセンパイ、僕も地和ちゃんや人和ちゃんに夢中さ」

「一刀は驚いた。

ウラタロスはともかくモモタロスまで女のことでおかしくなっていたからだ。

「一刀、どうしたんだよ二人とも!？」

「一刀が悩んでいると

リュウタロス「モモタロス達は催眠にかかっているんだよ」

リュウタロスは語り始めた。

リュウタロス「僕も少しなら催眠術を使えるからわかるんだあの歌には催眠術が混じっているのさ」

リュウタロス「そして催眠術は催眠術を使えるものには効き目が薄いからね!だから僕は平気だし、僕がとりついた一刀も無事だったと言っわけさ」

リュウタロスの話を聞いて納得する一刀だった。

リュウタロス「これで一刀もわかったでしょ、あの人達の歌は歌じゃない！ただの騒音なんだ！」

一刀は驚いた。

普段リュウタロスは滅多に怒らないのに今は激しく怒っていたからだ。

リュウタロス「そんな歌を歌う人がいるなんて音楽好きとして黙ってられないよ！」

その頃、三姉妹のテントでは

地和「何なのよあいつは！何でちい達の歌を聞いてなにも変わらないのよ！」

人和「まさか私たちの歌が聞かない人がいるなんてね！？」

地和「せっかく于吉っていうやつから太平妖術っていう本をもらったのに意味ないじゃん！」

地和が怒っていると

天和「大丈夫だよ地和ちゃん、人和ちゃん、例え術がきかなくても私達にはこの人がいるじゃない！ねえドンキーイマジンさん」

天和が振り向いた先には

ドンキーイマジン「その通り、君たちの望みである大陸制覇は必ず私が叶えてあげよう！」

そこにはロバの姿をした怪物がいた。

ドンキーイマジン「（こいつらの欲望はすごくいい、利用するにはもってこいだな）」

#7「リュウタロスの怒り」（後書き）

イメージファイル

・ドンキーイメージン

『ブレイメンの音楽隊』のロバをイメージされたイメージン。音波攻撃が得意。

8 「新しき仲間？」

昨日の騒動から一夜が明けて、黄巾党のアジトでもあり、現数え役満姉妹のライブステージでもある場所では

天和「みんな大好き〜！」

黄巾兵「天和ちゃん！！！」

地和「みんなの妹〜！」

黄巾兵「地和ちゃん！！！」

人和「とってもかわいい〜！」

黄巾兵「人和ちゃん！！！」

天和・地和・人和「三人合わせて……」

天和・地和・人和「数え役満シスターズ姉妹！」

黄巾兵「ほわわ〜！！！」

この場所で天和達がライブを開いて盛り上がっていた。

モモタロス「天和ちゃん！！！」

ウラタロス「地和ちゃん！！、人和ちゃん！！！」

役満姉妹に姿は見えないが洗脳された二人も盛り上がっていた。

天和「みんな聞いて〜、昨日の夜、私たちはある人に歌を騒音って言われちゃったの〜！」

地和「だからちい達をバカにしたそいつに復讐したいのよ！」

人和「そのために皆さん力を貸してください！」

三人がそれぞれ言つと

黄巾兵「俺たちの天和ちゃん達をバカにするなんて奴なんだ！」

黄巾兵「任してくれよ役満姉妹！俺たちがそいつをボコボコに痛め付けてやるからさ！」

黄巾兵達の心はもはや役満姉妹の催眠術の虜とりこになっていた。

モモタロス「バカにするなんて嫌なやつだな」

ウラタロス「ホントだよね、そいつの顔を見てみたいよ」

モモタロス達も操られているため一刀達を嫌うようになっていた。

天和「それじゃあその人を懲らしめにしゅっぱ……」

天和が叫ぼうとすると

R一刀「わざわざ来なくてもこっちからいくし！」

バンツ！

そこにR一刀がやって来た。

R一刀を見つけた天和達は

天和「みんな〜！あいつが私たちをバカにした奴よー！！」

地和「ちい達をバカにしたことを後悔させてやりなさい！」

人和「皆さんお願いします！」

三姉妹が言つと

黄巾兵「あいつが俺らの天和ちゃん達を！！」

黄巾兵「絶対許せねえ！殺してやるぜ！」

ダダッ！！

黄巾兵達は武器をもって次々とR一刀に襲いかかってきた。

しかしR一刀は慌てなかった。

R一刀「やっぱり催眠術には催眠術しかないよね！クマちゃんお願い！」

R一刀が言つと

キンタロス「ほいなっ！」

ポチっ！

デンライナーにいたキンタロスが最大音量でラジカセのスイッチを入れた。

それと同時に

R一刀「レッツ！ダンシング」

ぱちんっ！

R一刀が指をならすと

『いいじゃん！いいじゃん！スゲーじゃん！』

R一刀「みんなも踊れーっ！」

曲にあわせてR一刀が踊り始めると

チャラッチャラッチャー！

黄巾兵達は踊ったことがないはずなのにブレイクダンスを踊り始めた。

これに驚いた天和達は

地和「ちよっとどうなってるの!？」

人和「私たちの歌が効かないなんて!？」

三人は負けじと歌い出すが

もはや黄巾兵達に彼女達の歌は聞こえなかった。

R一刀「残念だね 催眠術同士なら暗示の強い方が勝つのさ！」

つまり三姉妹の催眠術よりR一刀の催眠術の方が強かったのだ。

これを聞いた三姉妹は

地和「催眠術って何よ!？」

人和「私たちは歌を歌っているだけです！」

なんと本人達は催眠術をかけていることに気付いてなかった。

すると天和は

天和「なんだかわからないけど私たちが負けるなんて絶対にありえない!ドンキーイマジンさん出てきて！」

天和が言うと

ズズズッ!

ドンキーイマジン「了解である！」

バンッ!

天和の後ろからドンキーイマジンが出てきた。

R「刀「まさかイマジンがとりついてたなんて!？」」

イマジンを感知するモモタロスがいないので気がつかなかったのだ。

天和「ドンキーイマジンさん、あいつをやっつけちゃって!」

天和はドンキーイマジンに命令するが

ドンキーイマジン「嫌だね」

ドンキーイマジンは拒否した。

天和「何でなの!早くあいつをやっつけてよ!」

天和は強く言うが

ガシッ!

天和「うっ!？」

ドンキーイマジンは片手で天和の首を絞めた。

ドンキーイマジン「人間ごときがイマジン様に命令するんじゃない!」

人和「天和姉さん!？」

地和「ちよつと！姉さんに何するのよ！この馬！」

人和と地和が姉を苦しめているドンキーイマジンに強く言うと

ドンキーイマジン「私は馬ではないロバだ！私はお前達の望みである大陸制覇を叶えるために近寄つたのだが、あんな奴に負けるなんて貴様らの実力では到底大陸制覇は無理だと確信したのだ！所詮貴様らは太平妖術の書と私がいなければなにもできないただの小娘なのだよ！」

ドンキーイマジン「それにもうあの方にお届けする欲望はたまつたのでな貴様らは用済みだから死ぬがいい！」

ギューッ！

天和「うっ！？」

ドンキーイマジンは首を絞める力を強くする。

地和・人和「天和姉さん！？」

妹の二人が叫ぶなか

R 一刀「つまらないね」

ドンキーイマジン「なにっ！？」

R 一刀が発言した。

R 一刀「確かに彼女達の歌は催眠術の力で人を集めたインチキさ、でもほんとの実力を否定する権力はお前にはないのさ！」

R 一刀の発言に対して

ドンキーイマジン「何をこしゃくな！」

パツ！

ドンキーイマジンは怒って握りしめていた天和をはなすと

ドンキーイマジン「たかが人間の分際で生意気言っなー！」

ダダーッ！！

ドンキーイマジンはR 一刀めがけて突進してきた。

サッ！

R 一刀は素早く避けると

R 一刀「これで人質は解放できたね」

一刀（精神）「リュウタロス、お前そのために自分をおとりにして！？」

一刀が言うと

R 一刀「さあね、それよりも一刀、あいつは僕が倒したいからOV ERボタン押してくれる？」

とりついたままではOVERボタンを押しても意味がないのだ。

一刀（精神）「わかったよ」

R一刀「やった」

パツ！

そしてリュウタロスがはなれた一刀は

一刀「それじゃあいくぜ！」

ガチャツ！

デンオウベルトを腰に巻き付けると

パカツ！ ポチツ！

ベルト『OVER』

ガチャガチャンツ！

OVERボタンを押して仮面ライダー電王プラットフォームに変身した。

それと同時に

パァーッ！

モモタロス達も実体化した。

モモタロス「あれっ！？ここはどこだ？」

ウラタロス「僕たちどうしてたの？」

実体化したときに二人は正気に戻った。

そしてモモタロス達を見た三姉妹は

天和「何なのあれは！？」

地和「馬の次は怪物集合！？」

人和「味方かしら？」

ちなみに黄巾兵達はドンキーイマジンに驚いてみんな逃げてしまった。

一刀「リュウタロス、お前の出番だぜ！」

変身した一刀がリュウタロスを呼ぶと

リュウタロス「僕に任してよねっ！」

スッ！

リュウタロスが変身した一刀に入ると同時に

ベルト『GUNFORM』

ガチャガチャンッ！

一刀の体は仮面ライダー電王ガンフォームに変身した。

R電王「お前、倒すけどいいよね？答えは聞いてない！」

ドンキーイマジン「ふざけるなあー！」

ドドオーッ！

ドンキーイマジンはR電王に突進を仕掛けてきた。

R電王「お前、つざいから消えちやいな！」

ドガガッ！

R電王はデンガッシャー・ガンモードを撃ちまくるが

ドンキーイマジン「そんなものが効くか！」

『ブルルーツ！』

R電王が撃った弾丸はみんなドンキーイマジンの音波によって撃ち落とされていた。

ドンキーイマジン「残念だが私に弾丸は効かぬ！いでよ、傀儡兵！

」

ババッ！

ドンキーイマジンが叫ぶと傀儡兵が出てきた。

R電王「モモタロス、カメちゃん、クマちゃん傀儡兵の方はお願いね」

モモタロス「言われなくてもわかってるんだよ！」

ウラタロス「僕を操った仕返ししたいしね」

キンタロス「ほな、暴れたるか！」

電王軍団は戦闘を開始した。

傀儡兵「ゲゲツ」

地和「ちょっと！こっちに来ないでよ！」

天和「助けてー！」

人和「もうもちません！？」

天和達に傀儡兵が迫ってくると

モモタロス「オラッ！」

ズバッ！

ウラタロス「ハアッ！」

ザクッ！

キンタロス「どすこいつ！」

ドンッ！

そこに電王軍団が助けに現れた。

人和「どうやらあの人は味方みたいね！」

地和「どうだかね!？」

天和「私はいいい人だって信じるよ」

三人がそれぞれ電王軍団を評価している間にR電王とドンキーイマジンの戦いは終盤を迎えていた。

R電王「あーっもっっ！さっきから撃っているのに全弾止められてムカつく！」

ドンキーイマジン「諦めよ！お前に勝ち目はないのさ！」

さっきからR電王は撃っているがドンキーイマジンの音波に全弾止められていた。

R電王「こうなったら遠距離がダメなら」

ダッ！

R電王はドンキーイマジンに近付きながら

ベルト『フルチャージ』

ベルトをチャージすると

カチンッ！

R電王「この距離なら防げないし、音波も出せないよね」

ドンキーイマジン「なっ!?!」

いつの間にかR電王はドンキーイマジンの腹に銃口を当てると

R電王「くたばりな！」

カチンッ！

引き金を引いた。

その瞬間！

ドガーンッ！

ドンキーイマジン「グオオォッ！」

ドンキーイマジンは大爆発をした。

R電王「ふう、危なかったよ!?!」

R電王は爆発の寸前に避けていたので助かった。

そして戦いが終わり、三姉妹と別れて夜になったときのこと

デンライナー内

一刀「あのイマジン、あの方に送る欲望と言ってたがいったい誰がなんのためにそんなことを？」

モモタロス達が寝静まるなか一刀はその事について考えていた。するとそのとき！

ドンドンッ！

誰かがデンライナーを外から叩く音がした。

モモタロス「うるせえな！」

ウラタロス「こんな夜中に誰が来たの？」

キンタロス「グオーッ！」

リュウタロス「僕まだ眠いのにな」

ガラァッ！

そしてデンライナーの扉を開けると

天和「またあつたね」

地和「入らせてもらおうよ！」

人和「こんな夜中にすみません」

ずけずけと三姉妹がデンライナーに入ってきた。

モモタロス「何勝手に入って来やがるんだお前は！」

モモタロスが怒ると

地和「何いつてんのよ！爆発で太平妖術の書は燃えちゃうし、黄巾兵達は化け物のせいで逃げちゃったしみんなあんた達が悪いんじゃない！」

これを責任転嫁という

天和「というわけで罰として私たちもあなた達の旅に連れていってね」

人和「なるべく迷惑はかけませんから」

一刀達「ハアッ！？」

一刀達は驚くしかなかった。

こうして一刀達の旅に新しく天和・地和・人和が加わったのだった。

#9 「モモタロスの策略」

天和達張三姉妹が一刀達の仲間に無理矢理なってしまい旅に同行することになった。

天和「それではお邪魔します」

地和「入らせてもらうわよ！」

人和「失礼します」

ダダッ！

三姉妹は遠慮せずにズカズカとデンライナーの中に入っていった。

天和「以外とひろ〜い!？」

地和「室内環境はまあまあってとこね」

人和「これなら住めそうですね」

色々という三姉妹に対して

モモタロス「ふざけるんじゃないやねえ!誰が旅につれていくなんて言いやがった!とつとと出ていきやがれ!」

モモタロスが怒ると

地和「何よ!もとはといえばあんた達がちい達の邪魔したからいけ

ないんじゃない！責任とりなさいよね！」

地和が反論すると

モモタロス「なんだとこの野郎！」

地和「何よっ！」

モモタロスと地和は口論を始めた。

ウラタロス「まあまあセンパイ落ち着いて、彼女達をつれていくくらい別にいいじゃない（女の子がいれば楽しくなるしね）」

モモタロス「お前は黙っていやがれこのスケベ亀！」

ウラタロス「ちょっと！？女の子の前でスケベって言わないでよね！」

地和「あんた達づるさいのよ！」

今度はウラタロスも混じって口論になった。

天和「ねえねえ、このぷりんっていうの美味しいの？」

リュウタロス「とっても美味しいよ ひとつ食べてみる？」

天和「いいの！？ありがとう」

こちらはこちらで仲良くやっていた。

キンタロス「グオーツ！」

人和「（この人（？）この状況で寝てるなんて図太い神経ね）」

人和はキンタロスを観察していた。

モモタロス「スケベって言われたくないならスケベな行動するんじゃないよスケベ亀！」

地和「あなたってスケベなの、ちいはちよつと幻滅」

ウラタロス「（ガーン！？）バカなセンパイだけならともかく女の子に言われるなんてショックだよ！？」

ガクリツ！

天和「このこーひーっていうやつにが〜い！？」

リュウタロス「ミルクとシロップ入れなきゃダメだよ」

キンタロス「グオーツ！」

人和「大きな躰いびきを三回したわね！？」

ざわざわ！！ドタバタ！！

そしてデンライナーの中が騒がしくなってくると

「一刀」お前ら少しは静かにしろ！」

ギーーン！！

一刀の怒声が鳴り響いた。

しばらくして

モモタロス「ともかく俺は反対だからな！」

ウラタロス「男五人だけの旅なんて暑苦しいし僕は賛成だな」

リュウタロス「僕も天和ちゃん面白いからさんせーい」

キンタロス「俺はどっちでも構わんで！」

さっきの一刀の怒声ですすがのキンタロスも目覚めた。

天和「いいじゃないつれていってよー！」

地和「ちい達に逆らう気なの！」

人和「でもさすがに迷惑だから出ていった方が」

現在、天和達をどうするか多数決をとっているが

つれていくのに賛成派

天和・地和・ウラタロス・リュウタロス

反対派

モモタロス・人和（？）

中立派

キンタロス

このように別れて残るは一刀のみとなった。

モモタロス「（まずいな！？一刀が反対だとしても4対3で負けち
まう！？こいつらを追い出すのにいい手は？）」

モモタロスはない頭を振り絞って考えた。そして

ピーンツ（電球）

モモタロス「（そうだ！この手があったぜ！）」

なにか秘策を思い付いたようだ。

モモタロス「あと一人は一刀だからよ、あとで俺が文句言わないよ
うに契約書を書いてくれないか？私は天和達を（連れていき・追い
出し）ます。もし誰かが文句をいってもこれにしたがってください
つてな」

（ ）の中のどちらかに丸をつけるだけでいいので簡単な契約書だっ
た。

ウラタロス「頭の悪いセンパイにしてはいいこと言うねその案賛成
だよ」

リュウタロス「これでモモタロスが文句いっても大丈夫だね」

キンタロス「男らしいでモモの字！」

みんなは言うが気付いてなかった。すでに賛成した時点でモモタロスの策にはまったことを！！

そしてみんなはもめないように契約書にサインをしてあとは一刀が丸をつけるだけとなった。

モモタロス「さっさと書けよ一刀」

一刀「わかったから慌てるなって!？」

この時点で気づいておけば間に合ったのだが

一刀がペンを持った瞬間！

モモタロス「(今だ!)」

スッ!

モモタロスは一刀にとりついた。

ウラタロス「センパイ何してるの!?!…ってまさか!？」

ウラタロスがモモタロスの策に気づいたがもう遅い!

M「一刀「その通りだよ!」」

ササッ！

M一刃は素早く反対の方に丸をつけた。

モモタロスは何れを狙っていたのだ。

スッ！

M一刃は契約書をみんなに見えるように見せると

M一刃「これで契約成立だ！とつと出ていきやがれ！」

まんまとモモタロスの罠にはまってしまった張三姉妹だった。

そして

天和「モモタロスのバーカ！」

地和「ちい達を追い出したことを後悔しなさいよね！」

人和「短い間でしたがお世話になりました」

契約書どおりに天和達は出ていくことになり、デンライナーの外へ出ていった。

モモタロス「おととい来やがねバカ共が！」

モモタロスが言うつと

ウラタロス「ひどすぎるよセンパイ！」

リュウタロス「モモタロスの卑怯もの！」

キンタロス「さっきのはいくらなんでもひどいでモモの字！」

みんながモモタロスを責め立てると

モモタロス「うるせえ！俺様の作戦勝ちだ！」

と開き直ってモモタロスが言うと

ガツンッ！

モモタロスは急に頭を殴られた。

モモタロス「いてえな一刀！何しやがる！」

モモタロスが殴った本人である一刀を睨み付けると

一刀「あの子達は確かに催眠術を使って悪いことをしていたさ、だ
けど改心してきてくれた子を卑怯な手で追い出すモモタロスは最低
な奴だ！」

この時、一刀は本気で怒っていた。

スッ！

そして一刀は毛布と食料を持ち出すと外に出ようとした。

モモタロス「どこ行く気だよ一刀？」

モモタロスが聞くと

一刀「今夜は冷えるし、お腹も空くだろうしな、足りないと思うが
近くの村にいけばなんとかなるだろう」

ダッ！

そして一刀は出ていった。

ウラタロス「待ってよ一刀！僕も行くよ！」

リュウタロス「僕も行く〜！」

キンタロス「ほな、俺も行くで！」

そしてデンライナーに残ったのはモモタロス只一人となった。

モモタロス「勝手にしろっの！」

#9 「モモタロスの策略」 (後書き)

モモタロスには悪いですが今回は少し悪役になってもらいました。

#10 「仲直り？」

三姉妹サイド

モモタロスの策にまんまとはまってしまい、あてもなくさまよって
いた三姉妹は

グウ〜！

天和「お腹空いたよ〜！ぷりん食べたいよ〜！」

人和「天和姉さんさっきからそればかりでこれでもう三回目よ」

地和「ったくもー！こんなことになったのもすべてモモタロスのせ
いよ！」

三姉妹がぶつぶついつていると

天和「ところでこの先どうするの？」

天和の質問に対して

人和「どうすることもできないわね、黄巾党は世間では悪人とされ
ているから私たちが近くの村に行ったら最悪の場合殺されちゃうわ
よ！？」

地和「ったくもー！ちい達はなにもしていないのにー！この怒り
を静めるにはやはり私達を追い出したモモタロスに復讐するしか手

はないわ！
」

地和は恐ろしいことをいつていた。

天和「でもモタロスとはかくウラタロス、キンタロス、リュウちゃん、一刀はいい人みたいだけどなあ」

いつの間にか天和はリュウタロスをリュウちゃんと呼び合う仲間になっていた。

地和「甘いわよ天和姉さん！他のやつらだっけいずれはちい達を…
」

地和の妄想

一刀「男だらけのこの場所にこんなにかわいい女の子がいるならさっそく相手をしてもらおうか！
」

ウラタロス「それには僕も賛成だよ！だから僕に釣られてね
」

キンタロス「俺の荒技にお前らが泣いた！
」

リュウタロス「僕たちの相手してくれるよね？答えは聞いてない！
」

そしてみんなは三姉妹を襲った。

妄想終了

地和「ってな感じでいつかはちい達を食べちゃうんだからね！
」

ある意味すごい妄想だが

天和「食べちゃうって、私達は食べ物じゃないよ？」

姉の頭では理解できなかった。

人和「姉さん達なにバカな話を…」

人和が呆れていると

天和「あぁっ！あそこを見て!？」

天和が指差した先には明かりが照らされていた。

天和「きつと人がいるよ！そしてご飯があるよ！」

ダッ！

地和「待ちなさいって天和姉さん!？」

人和「一人で先にいかないで！」

先走る姉のあとを追う妹達だった。

一刀達サイド

ウラタロス「どこにいるのー！」

キンタロス「隠れとらんとでてきいちゃー！」

リュウタロス「モモタロスなら懲らしめといたからさー！」

ウラタロス達は必死に叫ぶが、デンライナーを出てしまったので今の彼らは一刀以外には見えない光の球体となっており、声も叫んだところで聞こえるはずがなかった。

リュウタロス「にしてもモモタロスってひどいよね、あんな奴だったなんて思わなかったよ！」

リュウタロスがモモタロスの悪口を言うと

キンタロス「もしかしてモモの字は天和達を守るために追い出したんとちゃうか？」

キンタロスがモモタロスをかばい始めた。

キンタロス「この先の戦いが楽になるとも思えんし、天和達だつて守れん時もあるかもしれへん、だからモモの字は天和達を守るためにわざと追い出したんとちゃうか？」

キンタロスにははなかなかいことを言うが

ウラタロス「キンちゃん、残念だけど違うよ、センパイは自分が一番偉いと思ってるんだ。だから邪魔となる天和ちゃん達を追い出したのさ！もしキンちゃんの言う通りなら僕たちが初めてセンパイと出会った時にセンパイは出ていけ！なんて言わないしね」

ウラタロスの方が正論だった。

「刀」とにかく早く三人を探さないといけないな、この辺には賊がいるかもしれないんだから。とりあえずモモタロスのことは一旦忘れよう」

その頃、デンライナーに残ったモモタロス

モモタロスサイド

モモタロス「くしゅんっ！誰かが俺の噂してやがるな！しかし一刀もあいつらもお人好しにもほどがあるぜまるであいつを見ているようだぜ」

モモタロスの頭の中には今言ったあいつの顔が浮かび上がっていた。

モモタロス「ったくもー！世話がやける連中だぜ！あいつらには俺がいないと何もできないし、俺も外では何もできないし、探しに行くとするか！」

なんだかんだ言っただけで卑怯な手を使ったことを後ろめたいと感じているモモタロスだった。

三姉妹サイド

天和「明かりだ」

天和が明かりの場所にたどり着くとそこにいたのは

アニキ「その声は！？」

チビ「もしかして！？」

デク「天和ちゃんなんだな!?」

二話にてM一刀にやられた黄巾党トリオがそこにいた。

地和「ちよつと姉さん待つてよ!?」

人和「普段体力のない姉さんもこういう時だけは足が早いんだから!?」

天和に続いて地和と人和もやって来た。

地和「んっ!?その頭の布はもしかしてあんた達は黄巾党の残党なのね!?」

黄巾党トリオは頭に黄色の布を巻いていた。

人和「まさか生き残りがいたなんて驚きです!?」

人和が驚くのも無理もない、黄巾党のほとんどが曹操軍によって滅ぼされたのだから

地和「そんなことはどうでもいいわよ!それよりあんた達にお願いがあるのよ!この先にある変な乗り物にいる五人を懲らしめてきなさい!赤い奴は特にね!」

地和が言うと

天和「ダメだよちいちゃん!一刀は優しい人なんだからさ」

人和「そうよ、無理矢理ついてきた私達も悪いわけだしさ!？」

地和「何よ!姉さんも人和も頭にこないわけ!」

三人が話していると

アニキ「悪いがその頼みは聞けないな」

地和「は!?!何で...」

地和が聞こうとしたその時!

ジャキンッ!

地和の目の前に剣が降りた。

アニキ「あんた達が変な化け物をよんだせいで俺達は化け物から逃げるため必死で逃げたあげく戻ってみたら黄巾党自体がなくなっただけでお陰で俺達は官軍に終われる始末さ!この落とし前をとってもらわねえと困るのさ!」

変な化け物とはもちろんドンキーイマジンのことである。

そしてアニキが言っている間にチビとデクが動いた。

サッ!サッ!

ガシッ!ガシッ!

天和「いやっ!」

人和「はなしてください!？」

そして天和と人和はチビとデクに捕まってしまった。

アニキ「さてと落とし前としてあんた達の体をたつぷりと堪能させてもらっぜ」

ガシツ!

アニキは地和の腕をつかんだ。

地和「ちよっと!はなしてよ!」

地和は叫ぶが

アニキ「こんなところに誰が来るって言うんだよ?ちよっと胸が小さいがたつぷりと堪能させてもらっぜ」

スツ!

アニキが地和に手を伸ばすと同時にチビとデクも手を伸ばした。

三姉妹「誰か助けてー!!!」

一刀達サイド

三姉妹「誰か助けてー!!!」

三姉妹の声を聞いた一刀達は

「刀「こっちの方で叫び声が聞こえる!?」

ダッ!

声のする方に駆けつけると

アニキ「だから誰がこんなところに来るって言うんだよ!」

黄巾党トリオが三姉妹を捕らえていた。

それを隠れて見ていた一刀達は

リュウタロス「大変だよ!?天和ちゃん達が悪人に捕まってるよ!

?」

ウラタロス「女性を助けるのは僕の役目だね、一刀体借りてもいい

?」

キンタロス「カメの字じゃあ力ないやろ、俺があいつらをぶつとばしたる!」

三人が話し合っていると

モモタロス「お前ら、何を好き勝手言っただやがるんだ!」

バンッ!

突如背後から球体のモモタロスが現れた。

リュウタロス「あゝ！ずるして追い出した卑怯者だゝ！」

ウラタロス「何のようなのさセンパイ？」

冷たい態度をとるみんなに対して

モモタロス「その…なんだ…お前らには俺がないと何もできないからよう…」

モモタロスが顔を赤くしながら言うと

一刀「後で天和達にも謝るならとりついていいぞモモタロス！」

そして一刀が言うと

モモタロス「わかったよ！謝ればいいんだろ！」

スッ！

モモタロスは一刀に入っていた。

三姉妹サイド

アニキ「そろそろ裸にして触らせてもらおうかな」

アニキがいやらしい顔をしながら地和に手を近づける。

地和「ちよっと！ちいに少しでも触れたら蹴り飛ばすからね！」

地和が言うつと

アニキ「そんなことをすれば天和ちゃん達がどうなっても知らないよ おとなしくすれば何もしいからおっぱい揉ませておくれ」

スッ！

アニキの手が早くなり、地和に襲いかかった。

地和「助けてー！！」

地和が叫ぶと

ドシンッ！

アニキの上に何か落ちてきてアニキは倒れてしまった。

チビ・デク『アニキ！？』

二人が驚いている間に

人和「よくも色々と触りましたね！」

天和「これはそのお返しだよ！」

ドカツ！ キーンッ！

チビ・デク『はうつ！？』

二人はチビとデクの急所をおもいつきり蹴飛ばした。

バタバタッ！

あまりの痛さに二人は倒れ

アニキ「いたたたっ！？何が落ちたっというんだ？」

気絶から覚めたアニキが見たものは

M一刀「俺がお前めがけて落ちたんだよ！」

バンッ！

そこには仁王立ちで待ち構えるM一刀がいた。

アニキ「はわわっ…！？」

以前黄巾党トリオはM一刀にひどい目にやられたことがありそれがアニキにとってトラウマとなっていた。

アニキ「失礼しました！？」

ダダッ！

アニキはチビとテクを担ぎ上げるとその場からすぐに立ち去った。

そして

地和「その口調はモモタロスね、ちい達を追い出した奴が何の用な

のよ！」

地和が怒鳴ると

M一刀「悪かったよ（小声）ボソッ！」

M一刀は誰にも聞こえないようにわざと小さな声で謝った。

しかし

天和「聞こえなかったから次はもっと大きな声で！」

天和が言うと

M一刀「もう二度と言うかよ！悪かったよってな！」

いつの間にか謝っていることにモモタロスは気付いてなかった。

こうして三姉妹は一刀達の旅について行くことが決定した。

#10 「仲直り？」（後書き）

次話より反董卓連合編に突入です。

#11 「天幕での騒動」

一刀達がのんびりと旅をしている頃、世間では大事件が起きていた。それは皇帝である霊帝の死である。

そして後継者を誰にするかでもめている間に大將軍である何進將軍が何者かに暗殺されてしまい、おまけに時期皇帝まで殺されてしまった。

犯人を調べたところ殺人犯は董卓という人物であることがわかり、すぐさま董卓を滅ぼすように各諸侯に袁紹より手紙が渡された。これが後に反董卓連合の戦いである。

連合軍本拠地

この場には有名な各諸侯が集まっていた。

まず一人に、この連合を集めた人物であり、自らを一番偉いと思いつ込んでいる愚か者・袁紹

次にその袁紹の従姉妹であり江東の虎を飼い慣らしきれないチビツ子・袁術

次に自らの軽口が原因でイマジン騒ぎを起こした江東の虎こと・孫策

次に才能のある女は全て自分のもの、小さな体に秘めた凄腕の才能を持つ霸王・曹操

次に馬の扱いならば各諸侯の中でもナンバーワン！西涼の馬騰の娘・馬超

次に仲間に凄腕の武将が勢揃い、友情に長けた優しき君主・劉備

最後に普通の公孫賛

以上、七組の有名諸侯が揃っていた。

しかし、その中に一刀達はいなかった。

それもそのはず、この連合は袁紹の手紙を持っていないと入れなく、手紙は有名諸侯にしか送られていないため風来坊の一刀達に手紙がくるはずがないのだ。

そして連合側では軍議が始まろうとしていた。

袁紹「よくぞ来てくれましたたわね皆さん、早速ですが董卓さんは時期皇帝を暗殺した殺人犯なので我々で懲らしめにいきましょう！」

袁紹がそう言う

桃香「あのお、ちょっとよろしいですか？」

スッ！

桃香が手をあげた。

袁紹「何ですの貧乏軍の劉備さん？」

袁紹が一言多く言つと

桃香「諸侯の人はこれで全員ですか？まだ北郷さんが来てないですけど」

ピクンッ

この言葉に孫策が反応した。

袁紹「北郷さんって誰ですか？」

袁紹が聞くと

顔良「麗羽（袁紹の真名）様、最近噂に聞く天の御遣いのことですよ」

袁紹の側近の一人である顔良が言つと

袁紹「御遣いだかお使いだか知りませんがそんなおかしな人には高貴なわたくしの手紙は渡していませんわよ！」

袁紹がそう言つた直後

袁紹軍兵士「報告します！？」

袁紹軍兵士が慌てて中に入ってきた。

袁紹「何ですの！今は軍議中ですよ！」

袁紹が言つと兵士は

袁紹軍兵士「それが！？突然現れた髪の一部が赤い男が現れて戦いに混ぜろといって暴れているんです！？」

『！？』

これを聞いた一部の者が反応した。

袁紹「そんな乱暴な人なんてすぐに追い出し！」

袁紹が最後まで言おうとすると

ドサツ！

いきなり天幕に袁紹軍兵士が投げ込まれた。

そして天幕の中に

M一刀「連合軍の本拠地はここか？」

M一刀が乗り込んできた。

袁紹「あなたはどこの誰ですの！」

袁紹が聞くと

M一刀「そういうあんたこそどこの誰だよおばさん」

袁紹「お…おばさんですって！」

曹操「ぷっ！」

真正面でおばさんと言われた袁紹に笑う曹操だった。

M一刀が回りを見渡すと

M一刀「おおっ！桃香に孫策、それにハムじゃねえか！久しぶりだな
」

三人を見つけたM一刀が袁紹を無視して手を振ると

孫策「その声は確かモモタロスだったわね、相変わらず口が悪いわね
」

桃香「お久しぶりです北郷さん
」

公孫賛「私の名はハムではなく公孫賛だ！
」

三人も袁紹を無視して会話していると

袁紹「このわたくしを無視して話をするのはおやめなさい！確か北郷さんと言いましたわね、あなたのような乱暴な人は即刻立ち去りなさい！今ならわたくしの広い顔に免じて許してあげますわ！
」

袁紹が言うと

M一刀「この顔のどこが広いんだ？
」

びろっんっ！

袁紹「いふえふえっ!? (いってっ)」

M一刀は袁紹の頬を広げた。

曹操「あなたにはその顔の方がお似合いよ」

孫策「あははっ! おかしい!」

袁術「キャハハッ! 七乃、見るのじゃ麗羽姉様が変な顔にされておるぞ!」

七乃「はい、それはもうお嫁にいけないくらいおかしな顔ですなお嬢様」

文醜「ぷっ! 麗羽様ったらおかしな顔しちゃってさ!」

顔良「文ちゃん! 私達まで笑ったら麗羽様に失礼でしょ! ぷっ!」

本来一番笑ってはいけない袁紹の側近である文醜と顔良まで笑ってしまい天幕の中は笑いが溢れていた。

一刀(精神)「…んっ!？」

そしてさっきまで寝ていた一刀(精神)の目が覚めると

一刀(精神)「何してんだモモタロス!」

M一刀「ちっ! 目が覚めちまったか!？」

一刀(精神)「お前が珍しくコーヒーを入れてくれたと思ったたら睡

眠薬入れやがったな！」

M「刀「ドキッ！？」」

凶星である。

「刀（精神）「いいから出てけっ！」」

ドカツ！ パツ！

モモタロス「うおっ！？」」

「刀はモモタロスを無理矢理追い出した。

「刀「はっ！？」」

そして「刀に意識が戻ると

「刀「すみませんでした！？」」

パツ！

「刀は直ぐ様袁紹の頬から手を離れた。

袁紹「まったく！名家出身のわたくしに対して何てことをしますの！
即刻打ち首に……」

袁紹が最後まで言おうとすると

曹操「待ちなさい袁紹、彼は殺すには惜しい存在だわ顔はブ男だけ

どね
」

曹操が袁紹を静めた。

曹操「この場で殺人なんて軍の士気が下がるだけでしょ！それよりも彼を目一杯濃き使った方がよくなって？」

曹操が言うつと

袁紹「確かにクルクルおちびさんの言う通りですわね。いいでしょう！北郷さんあなたを一時的に我が軍に入れてあげますわ！名家の軍に入れたことを誇りに思いなさい！おーほっほっほっ！」

何とか曹操の計らいにより命が助かった一刀だった。

そして軍議が再開する

リュウタロス「なんか軍議って退屈だな〜！姿が見えないから会話もできないし〜」

モモタロス「だからついてくるなっていったろ！お前もカメ公のように三姉妹とデンライナーで留守番すればよかったんだよ」

ウラタロスはデンライナーで張三姉妹と共に留守番をしていた。

モモタロス「もしくはクマ公のように寝とけ」

キンタロス「グオーツ！」

キンタロスは寝ながらついてきた。

リュウタロス「ダメだよ！僕が寝たらまたモモタロスが暴走するじゃないか！カメちゃんにそこを頼まれたんだからね！」

モモタロス「一刀が目覚めてる間は俺は入れないんだよ！入れるとしたらお前かクマ公くらいだろうが！」

三人が話をしている間に軍議は終盤に入っていた。

袁紹「というわけで総大将はこのわたくしというわけで推薦してくれた劉備さんにはシ水関を攻めてもらいますわ」

桃香「わかりましたよ！精一杯やります！」

逆らえばどんな目にあわされるかわからないので渋々と従う桃香だった。

袁紹「それでは皆さん！これより戦いが始まります！力を合わせて董卓さんを泣かしてやりましょう！」

この袁紹の一言に

パチッ！

キンタロス「泣かす！」

キンタロスが反応した。

そして

スッ！

モモタロス「待てよクマ公！？」

モモタロスが止める間もなくキンタロスは一刀に入ってしまった。

そして

ダンッ！

K一刀は机に足をのせると

K一刀「俺の強さにお前が泣いた！」

バンッ！

この一刀の行動にみんなが驚いた

袁紹「ちよつと北郷さん！いきなり何をしますの！」

いち早く驚きから立ち直った袁紹が一刀に注意すると

K一刀「ちよい待ちっ！この天幕にスパイがおるで！」

K一刀の言葉にみんなが驚いた！？。

ちなみにスパイはこの時代では間諜という。

袁紹「そのすばいというのはどこにいますの！？」

K一刀「それは…」

そしてK一刀は机を持ち上げると

K一刀「この下や！」

ガバツ！

K一刀は机を放り投げた。

K一刀「隠れとるのはわかっとするでスパイ！」

そしてK一刀は机があつた場所の土を掘り起こすと

K一刀「おつたでスパイ！」

とうとうスパイを見つけた。

袁紹「そのすぱいというのは誰ですの!？」

K一刀「こいつや！」

スツ！

そしてK一刀はスパイをみんなに見せた。そのスパイとは…

ワシヤワシヤッ

一匹のモグラだった。

K一刀「スパイを捕まえたで！」

K一刀は誉められると思ったが

袁紹「あなたは馬鹿じゃありませんの！わたくしを侮辱したあげく
軍議をめちゃめちゃにして！北郷さん、あなたには罰を与えますわ
！」

K一刀「罰？」

K一刀は何で罰を受けるのか不思議に思った。

その頃、董卓軍では

張遼「ええか華雄、絶対に連合軍が馬鹿にしてきても飛び出したら
アカンで！」

華雄「わかつてるとも霞しあ（張遼の真名）、私だって挑発しあにのるほど
馬鹿ではない！」

張遼「のる馬鹿やからいつてんねん！もし行ってもウチは助けんか
らな！」

ダッ！

そして張遼は去っていった。

華雄「まったく！霞も心配性だな三国一の武力を持った私が挑発にの
るはずがないではないかなあオニギリイマジンよ！」

華雄がそう言つと華雄の後ろから

オニギリイマジシ「全くだぜ！」

オニギリの姿をした怪物が現れた。

#12「デンライナーでの騒動」(前書き)

まだシ水関での戦いは始まりません。戦いは次回より始まります。

#12「デンライナーでの騒動」

連合軍サイド

「刀「ハア〜!? 何で俺がこんな目に？」

「刀は袁紹を侮辱し、軍議をめちゃめちゃにした罰として麗羽から袁紹軍の鎧や盾をピカピカに磨くよう言われた。」

しかしその数は総計10万を越えるものだった。

ウラタロス「珍しいねえ、センパイだけならともかくキンちゃんまで問題を起こすなんて!？」

モモタロス「俺だけってどういうことだよ!」

リュウタロス「知らないの〜? みんなその理由を知ってるよ〜」

キンタロス「お喋りせんとはよらかな日が暮れるで!」

鎧の数が多すぎるのでモモタロス達に手伝ってもらうためにデンライナーの中で鎧を磨いていた。

モモタロス「もとはといえばクマ公、テメエのせいだろうが!」

モモタロスが口喧嘩していると

天和「お姉ちゃん疲れたよ〜!」

地和「何でちい達までこんなことをしなければならぬのよ！」
人和「ただでのせてもらってるんだからこれくらいしなきゃいけないわよ」

実は鎧磨きは天和達も手伝っていた。

そんなとき

コンコンッ！

外からデンライナーを叩く音が聞こえてきた。

桃香「北郷さん、桃香です！お久しぶりです」

叩いた主は桃香だった。

おまけに

孫策「はあい一刀！孫策もいるわよ」

孫策こと雪蓮も一緒だった。

一刀「彼女達なら安心できるな。今開けるよ」

一刀がデンライナーの扉に手を触れようとする

ウラタロス「一刀ちょっと待った！？」

ウラタロスが止めに入った。

モモタロス「どうしたんだよカメ公、女が入るならお前ならすぐ喜ぶくせに」

確かにそうだが

ウラタロス「その通りだけでも今は天和ちゃん達を隠さなきゃ!? 彼女達は元黄巾党の大ボスで今は行方知れずなんだよ! その彼女達をうちで匿って(かくまって)いるなんて知れたら!？」

反董卓連合が反北郷連合になりかねないのだ。

モモタロス「そりゃ一大事だ!？」

リュウタロス「早く隠さない!？」

キンタロス「隠す言ってもどこに隠れる場所があるねん!？」

デンライナーは一両しかないためどこに隠れても見つかってしまうのだ。

そして外では

雪蓮「まだなの一刀、開けないならこっちから開けるわよ」

ギギギッ!

雪蓮が無理矢理扉を開けようとしていた。

そして！？

ガタンッ！

扉が開かれると

一刀「やあ久しぶりだね桃香、孫策！？」

一刀達は全員で一塊になって壁を作り、桃香達の位置からは見えな
いように隠していた。

しかし、そんなことをすれば逆に怪しまれてしまい

雪蓮「あなた達、後ろに何を隠してるの？」

勘の鋭い雪蓮にバレってしまった。

モモタロス「何も隠してねえよなカメ公！？」

ウラタロス「そうだよ僕が女の子に隠し事するわけないじゃんねえ
キンちゃん！？」

キンタロス「カメの字の言う通りや！俺らはなんも隠しとらんなあ
リュウウタ！？」

リュウタロス「答えは聞いてない！？」

みんながしらばっくれていると

曹操「何やら騒がしいけど勝手に入らせてもらつたよ」

スッ！

曹操こと真名を華琳が入ってきた。

華琳「噂には聞いたけど化け物が多いのね」

化け物と言われたモモタロス達は

モモタロス「誰が化け物だと金髪ドリル！」

リュウタロス「僕まで化け物呼ばわりはひどいよ！」

ガタンッ！

モモタロスとリュウタロスが立ち上がったせいで

雪蓮「その娘達は誰なの？」

一刀達「あっ！？」

天和達が見つかってしまった！？

#12 「デンライナーでの騒動」(後書き)

イメージファイル

・オニギリイメージ

『おむすびころりん』のおむすびからイメージされたイメージ。この飯の見た目とは思えないほど頑丈。得意技は巨大化して転がる。

13 「シ水関の戦い」

元黄巾党首領である天和達を一刀達が匿っていることが桃香・雪蓮・華琳にバレてしまった。

のだが…

デンライナー内

桃香「ううっ…それはかわいそうな話ですね」

桃香が泣きながら言うと

ウラタロス「でしょう、彼女達は黄巾党首領の張三姉妹と偶然同じ名前だったために人々から追いついてられたのを僕達が保護したというわけさ！」

ウラタロスが何とかごまかしていた。

雪蓮「それって本当なの〜？」

雪蓮が疑っているが

ウラタロス「僕が女の子に嘘ついたことってある？」

スッ！

ウラタロスが雪蓮に顔を近づけると

雪蓮「それもそうね、信じらせてもらっわ」

何とかわかってくれた。

ちなみに張三姉妹の姿は誰も知らなく、知られていても巨大な体に腕が九本、おまけに角まではえているバケモノなので無理もない

桃香「それじゃあ私は先方なので失礼します」

桃香は泣きながら去っていき

雪蓮「私も早く帰らないと冥琳がうるさいし、それじゃあまたねー
刀」

華琳「私も去らせてもらっわよ」

雪蓮と華琳も去っていった。

そしてみんなが去ったあと

モモタロス「すげえじゃねえかカメ公！」

キンタロス「さすがは詐欺師やで！」

ウラタロス「誉められてる気がしないんだけど!？」

リュウタロス「誤魔化したんだから結果オーライじゃん」

「一刀「ハハハ…!？」」

実は一刀達は誤魔化したと思っていたが

雪蓮「（まさか行方不明の張三姉妹が一刀のところに行ったとはね、面白くなるかも）」

華琳「（見てなさいよ！いずれ張三姉妹を私のものにするんだから！）」

雪蓮と華琳にはバレていた。

そしてしばらく時間が経ち、董卓軍VS連合軍の戦いが始まった。

目の前のシ水関にいる武将は張遼と華雄、対する連合軍は愛紗と孫策が並んだ。

そしていつまでたっても出てこない董卓軍に対して

愛紗「我が名は関羽！シ水関にいる武将華雄よ！出てこない貴様は臆病者だ！貴様の持っている斧は飾りか！」

雪蓮「敵の娘を目の前にして出てこないとは臆病者め！悔しかったら出てきなさい！」

二人による罵倒が続いていると

シ水関

張遼「あいつらうちらが出てこれないのをいいことに好き放題言っておつて！華雄、わかっと思っけど出ていったら敵の思っ壺やから出ていったらあかんで！」

張遼こと真名を霞が華雄に対して出ていかないように言つ。何故なら華雄は罵倒されれば作戦を無視して飛び出すような猪武者だからだ。

だが華雄は

華雄「何馬鹿なことをいつてるのだ霞よ、私が出ていくはずがないだろう」

今日の華雄はやけに落ち着いていた。

いつもならば

華雄「おのれあいつら！人を散々馬鹿にしおつて！放せ霞、私はどうしても出ていかななくてはならないのだ！」

と霞が無理矢理止めても出ていく華雄がやけに大人しい。さらに…

華雄「暴れたりせんからこの場は私に任せてお前は虎牢関で呂布の手伝いでもしてこい」

こんなことまで言い出した。いつもの華雄ならばあり得ない話だ。

霞は思わず

霞「華雄、あんた熱でもあるんか？」

疑ってしまっが

華雄「私は正常だ！いいからさっさと行け！」

華雄に強く言われたので霞は出ていくしかなかった。

霞「ほな華雄、生きとつたら虎牢関で会おうな！」

ダッ！

霞は虎牢関に向かっていった。

霞が去つたあと華雄は

華雄「以前の私ならば挑発にのってしまい出ていったらどうが今の私にはこいつがいるからな」

華雄が言つと

ズズンッ！

オニギリイマジン「全くだぜ！」

華雄の後ろからオニギリイマジンが現れた。

華雄「最初にお前と会ったときはさすがの私も驚いたが今となつては最強の仲間だ」

オニギリイマジン「まかせろよ」

二人が出会ったのは反董卓連合ができる約数日前、

華雄が城で鍛練をしていたときのことだった。

華雄「くっ！武力では呂布と張遼に負けてしまうとは！これではいざというときに董卓様を守ることができん！」

華雄は自分が董卓軍で一番弱いことがショックだった。まあ三国最強の呂布と神速の張遼を比べる対象にするのがおかしいのだが

華雄「誰か私に無敵の力をくれー！」

華雄が思いきって叫ぶと

？「無敵の力、それがお前の望みか」

ズズズー！

華雄が叫んだあと、背後からオニギリイマジンが現れた。

華雄「貴様は何者だ！？」

華雄が叫ぶと

オニギリイマジン「お前が望む無敵の力を俺が叶えてやるよ！俺がいればお前は軍の中で一番活躍できるぜ！」

そして華雄はオニギリイマジンの口車にのってしまい、

華雄「ホントか！？ならたのむ！私に無敵の力をくれっ！」

オニギリイマジンと契約をかわした。

その後、オニギリイマジンの暗躍で華雄の名は董卓軍でも有名になったという。

そして現在

華雄「奴等があんなに出てこいと言つのなら出て行ってやるか！いくぞオニギリイマジン！」

オニギリイマジン「おうっ！」

そして華雄はオニギリイマジンと共に入り口に向かっていった。

連合軍サイド

雪蓮「おかしいわね、華雄ならば罵倒すれば真っ先に出てくるのに？」

華雄をよく知る雪蓮だけあって華雄が出てこないことが不思議に思った。

とその時、

ギギギッ！

シ水関の固い門が開き出すと

雪蓮「やっと出てきたようね華雄！」

華雄が出てくるかと思いきや門から出てきたのは…

バァーンッ！

シ水関くらいある巨大なおにぎりだった。

愛紗「あれは何の冗談なのだ!？」

雪蓮「さあ、私に聞かれても？」

二人が話していると

ゴロローッ！

巨大なおにぎりが転がってきた。

兵士「ぐわーっ!？」

巨大なおにぎりは転がりながら次々と兵士を潰していく。

愛紗「あれは一体何なんだ!？」

その頃、デンライナー内

ピキンッ！

モモタロス「一刀、イマジンの気配を感じるぜ！」

モモタロスがイメージの気配を感じ取った。

「刀、何だって！？それで場所はどこだ？」

「刀が聞くと」

モモタロス「詳しくは知らねえが馬尾黒髪巨乳がいる近くだぜ！」

馬尾黒髪巨乳とは愛紗のことである。

「刀、ってことはシ水関かよ！？ここから遠いじゃんか！？」

「刀が驚いていると」

キントロス「刀、体貸してくれや！俺ならシ水関ちゅうとこまですぐに着くぞ！」

キントロスが取り付いた刀は力が強くなるだけでなく足も早くなるのだ。

「刀、ならキントロス頼むぜ！」

キントロス「おおっ！任しときや！モモの字は道案内頼むで！」

「スッ！」

そしてキントロスは刀に入っていくと

「K 刀、いくぞー！」

ダッ！

シ水開めがけて走り出したが

麗羽「あらブ男さん」

途中で麗羽に見付かってしまった。

麗羽「鎧磨きは終わりましたの？まだでしたらさっさと終わらせ…

」

K一刀「邪魔やでどきやつ！」

ドカンッ！

K一刀は麗羽を押し飛ばして進んでいった。

K一刀「今は愛紗達の方が大事なんや！」

そして飛ばされてごみ捨て場に投げ出された麗羽は

麗羽「あとでお仕置きですわよー！」

ゴミをかぶりながら叫ぶのだった。

K一刀「俺が着くまで無事でいてくれや！」

K一刀は愛紗と雪蓮を守るために走った。

モモタロス「ってクマ公！そっちじゃねえよ！？」

K「刀「近道や！」

#13 「シ水関の戦い」 (後書き)

長くなって文字数が足りなくなりそうなので二話に分けます。予告として次回には電王が出ます。

さらにウラタロスが張三姉妹をごまかす場面は真・恋姫にて白蓮(公孫贇の真名)が月(董卓の真名)達を麗羽達から誤魔化すためにいった台詞が元になっています。

#14 「弾け！タロス」 (前書き)

始めにいいますが今回のタイトルはあきらかに電王12話のパクリです。

#14 「弾け！タロス」

K一刀がシ水関に向けて全力疾走している頃、

各軍では

曹操軍

荀イク「華琳様、北郷という全身精液変態怪物男がシ水関に向けて走っていったそうです！」

曹操軍軍師、荀イク文若、真名を桂花という。

男嫌いで有名な華琳命の軍師

荀イクから話を聞いた曹操軍は

夏侯惇「バカな奴だ！何しに行くかは知らんが一人で向かうなんて無謀だな」

夏侯淵「さすがの姉者もそれくらいはわかるようだな」

曹操軍武將、夏侯姉妹

姉の夏侯惇（真名を春蘭）

馬鹿力だけが取り柄の怪力女。

妹の夏侯淵（真名を秋蘭）

真面目な弓使い。

夏侯姉妹が話していると

華琳「確かに春蘭の言う通り無謀でしか言いようがないわね！でも北郷は噂によると天の御遣いと呼ばれるほどの男、余程の自信があるに違いないわ！」

それは華琳の考えすぎで、ただ単にイメージが出たので倒しに行くだけのことを華琳は知らない。

華琳「ここは北郷の実力を見るためにも私達もシ水関に向かうわよ！」

華琳はシ水関に向かうことを宣言した。

春蘭「華琳様の命ならば何でも従います！」

秋蘭「御意！」

桂花「あの全身精液変態怪物男の死に際を笑ってやりましょう！」

曹操軍が決意するなか、華琳は

華琳「（北郷一刀、もしあなたの力が予想以上ならば私のものにしてみせるわ！）」

そんなことを考えていた。

袁紹軍

麗羽「何ですって！曹操さんがシ水関に向けていったですって！？

」

ゴミ捨て場から這い上がった麗羽は即席で作った風呂に入って今はタオルを身に纏っていた。

顔良「なんでも、北郷さんのあとを追っていったそうです」

顔良こと真名を斗詩が言くと麗羽は

麗羽「面白いじゃありませんの！」

青筋を立てると

麗羽「斗詩、我が軍もシ水関に向けて行きますわよ！（わたくしをゴミだらけにした北郷さんの死に面を見てやりますわ！）」

麗羽は怒りのあまり勢いよく立ち上がった。

バサッ！

タオルが落ちたのを気にせずに

斗詩「麗羽様、丸見えですから誰もいないとはいえ隠してください

／／／」

君主に苦勞する斗詩だった。

その頃、シ水関では

兵士「ぐわーっ!?」

兵士「ぐわーっ!?」

ゴロゴロッ!

転がってくる巨大なおにぎりから次々と兵士が潰されていった。

愛紗「まさかおにぎりから逃げる羽目になるとは!?」

雪蓮「これもいい経験じゃないの」

二人が巨大なおにぎりから必死に逃げていると

カツンッ!

愛紗「しまった!?」

ズシャッ!

愛紗が転んでしまった。

雪蓮「関羽!」

雪蓮が慌てて手を伸ばすが間に合わない!

愛紗「(くっ!まさかおにぎりに潰されて生涯を終えるとは!??桃
香様、すみませんでした!)」

おにぎりが愛紗に迫り、愛紗の絶体絶命のピンチの時

K一刀「どっせーいっ！」

ドンッ！

突如現れたK一刀の繰り出した張り手によって巨大なおにぎりは飛ばされた。

一刀（精神）「キンタロス！痛いのは俺の体なんだから少しは手加減してくれ！」

一刀の言う通り一刀の手はおもいっきり腫れていた。

K一刀「すまんなあ、つつい手が出てしまったわ！」

K一刀が謝ると

愛紗「一刀殿、命を助けていただき感謝します！」

愛紗が頭を下げてお礼を言った。

K一刀「別にかまわんで！俺はあのイマジンを追ってきただけやしな！」

すると

シュルルー！

巨大なおにぎりはどんどん小さくなっていき、最後には人形ひとがたになった。

オニギリイマジン「お前はまさか！？あのお方が言っていた電王とか言う奴だな！」

正体を現したオニギリイマジンが言つと

K一刀「あのお方やて？」

一刀（精神）「きっとそいつがこの世界にイマジンを送り込んだに違いない！」

K一刀「黒幕つちゆう奴か！そいつのことを詳しく教えてもらおうか！」

K一刀が言つと

オニギリイマジン「俺を倒したら教えてやるよ！いでよ傀儡兵！」

ババンツ！

オニギリイマジンが手をあげるといつものごとく傀儡兵がたくさん出てきた。

K一刀「危なくなったら傀儡兵を出すとはワンパターンな奴やで！
ほな一刀、こつちも変身といこか！」

一刀（精神）「ワンパターンならこつちも負けてない気がするけど
な」

パツ！

そしてキンタロスが一刀から離れる。

ちょうどその頃、

華琳「シ水関の方が騒がしいけど何かあったの？」

曹操軍がシ水関にたどり着いた。

秋蘭「報告によりますとシ水関にて山のように巨大なおにぎりのバ
ケモノが現れたところを北郷が遠くに弾いたそうです」

華琳は報告を聞いて？を浮かべたが

春蘭「何馬鹿なことを言うのだ秋蘭よ、おにぎりの一つや二つ、こ
の私がペロリと平らげてやるわ！」

桂花「馬鹿が人を馬鹿にしてる！？」

春蘭「何を！！」

華琳「二人ともやめなさい！（その話がホントなら北郷の力がす）」

いということね」

ますます一刀を欲しがる華琳だった。

同時刻、曹操軍のあとを追ってきた袁紹軍は

麗羽「何ですって！バケモノが現れたですって！？」

斗詩「そうなんですよ！それも巨大なおにぎりが現れてそれを北郷さんが弾いたそうなんです！？」

猪々子「北郷ってそんなに力持ちだったっけ？」

麗羽「もしその話が本当ならば……」

麗羽は少し考えると

麗羽「（北郷さんは我が軍の客将（仮に仕えている将）のようなもの、その人が我が軍にいればわたくしが天下をとるのも簡単ですね）」

怪しいことを考えていた。

そして話はシ水関に戻る。

「一刀」手が痛いけど仕方がないな！」

カチャッ！

一刀はデンオウベルトを腰に巻き付けて

パカッ！ ポチッ！

ベルトを開いてOVERボタンを押すと

ベルト『OVER』

パアーツ！

いつものごとく押し込んだ途端にモータロス達は実体化し、一刀の姿は仮面ライダー電王・プラットフォームに変身した。

その瞬間を初めて見た曹操・袁紹軍は

春蘭「秋蘭、私の目が悪いのか？さっきまでいなかった場所にバケモノが四匹も現れたぞ！？」

バケモノとはモータロス達のことである。

秋蘭「大丈夫だ姉者、それがホントなら私の目も悪いということだからな！？」

華琳「さすがは天の御遣い！？急にバケモノ達を出すだなんてね！？」

華琳が言っていると

オニギリイマジシ「電王は俺がやるからお前らは回りの雑魚をやれ

！
」

傀儡兵「了解！」

ザザッ！

傀儡兵達は攻撃を開始してきた。

モモタロス「よしっ！一刀、おにぎり野郎は俺が…」

モモタロスが言おうとすると

一刀「こいつ！キントロス！」

一刀はキントロスを指名した。

キントロス「了解やで！」

スッ！

そしてキントロスが一刀に入ると

ベルト『AXEFORM』

ガチャガチャンッ！

そして一刀の体は仮面ライダー電王アックスフォームに変身した。

K電王「俺の強さにお前が泣いた！」

バンツ！

そしてK電王が決め台詞を言うと

モモタロス「仕方ねえな！クマ公、今回は譲ってやるぜ！」

ウラタロス「こっちも雑魚の相手をしましょうかね」

リュウタロス「わーい！戦いだー！」

ダツ！

電王軍団は攻撃を開始した。

そんななか、

雪蓮「久しぶりねモモタロス！」

モモタロス「お前は確か雪蓮！どうだ、また多く討ち取ったかで競争しないか？」

雪蓮「嬉しいけどやめとくわ！私の勘がヤバイと感じているのよ」

「

モモタロス「なんじゃそりゃ？」

モモタロスは雪蓮の勘を知らなかった。

ウラタロス「セイツ！セイツ！曹操ちゃん大丈夫？」

華琳「何とかね！？それよりあなただけでも我が軍に来ない？」

華琳がウラタロスを勧誘すると

ウラタロス「嬉しいけど今の僕は一刀達といる方が楽しいからね

」

華琳「ならば北郷を仲間にするれば自然にあなたも仲間になるわけね

」

ウラタロス「いつの日のことかね？」

リュウタロス「危ないよ金髪おばさん！」

ドカカッ！

傀儡兵「ゲエツ！」

麗羽「ちょっとあなた！おばさんって誰のことですの！」

麗羽が聞くと

リュウタロス「知らないの？あんたしかいないじゃん 答えは聞いてない！」

麗羽「何ですってー！」

そして電王とイマジンは

K電王「そりゃそりゃっ！」

K電王は必死にデンガツシャー・アックスモードで斬りつけるが

カキンツ！カキンツ！

オニギリイマジンには効いていなかった。

オニギリイマジン「俺の体は見た目より頑丈なんだよ！」

ドカッ！

K電王「ぐほっ！？」

ズシャーッ！

K電王はオニギリイマジンに殴り付けられた。

オニギリイマジン「さっきは止められたが今度はそうはいかないぜ
！」

スッ！

オニギリイマジンは巨大なおにぎりに変身すると

オニギリイマジン「潰れちまいなっ！」

ゴロゴロッ！

K電王めがけて転がってきた。

しかし、K電王は慌てなかった。

その証拠に

ピョンッ！

K電王は高く跳ぶと

K電王「これをまっつとつたんや！お前の一番の攻撃をな！」

スッ！

K電王はライダーパスをベルトに当てると

ベルト『フルチャージ』

そしてK電王は落ちながらデンガッシャー・アックスモードを構えた。

K電王「必殺、ダイナミックチョップ！」

ゴォーッ！！

K電王めがけて落ちるが

オニギリイマジン「バカか！俺の体は頑丈なんだよ！そんな武器が

通用するか！」

とオニギリイマジンは言うが

K電王「バカはお前や！こんな高さから落ちればアックスの威力は数十倍になるで！」

キーンッ！

そしてK電王がオニギリイマジンに近付く

オニギリイマジン「しまった!？」

オニギリイマジンが落下のスピードを計算していないためすぐに避けようとするが時すでに遅し、

K電王「おりゃー！」

ズバッ！

K電王はオニギリイマジンを真つぷたつに切り裂いた。

オニギリイマジン「ギャーッ!？」

ドッカーンッ！

あわれ、オニギリイマジンは爆発してしまった。

K電王「しもうた!?!黒幕のことを教えてもらっつた忘れてたで!？」

それを今思い出したK電王だった。

#14 「弾け！タロス」 (後書き)

PSP版 真・恋姫†夢想

魏・呉・蜀編を全てクリアしました。PC版とは違うPSP版限定
絵巻(?)が見れたので楽しかったです！

西森はPCを持っていないので出来れば萌将伝もPSP版が出てほ
しいです！

#15 「軍議での騒動」

シ水関にてオニギリイマジンを見事打ち破った連合軍

そしてシ水関には華雄一人しかいなかったためあつという間にシ水関は連合軍に支配されるのだった。

そして現在、次の虎牢関に向けての軍議が開かれているのだが

麗羽「それではこれより次の虎牢関に向けての軍議を始めますわよ！」

ズラリッ！

各諸侯が並び出すなか

モモタロス「ちょっと待ちやがれ！」

モモタロスが怒りだした。

麗羽「何か用なのですかモモさん？」

麗羽が聞くと

モモタロス「何でわざわざ軍議をデンライナーでする必要があるんだよ！」

そう、現在軍議はデンライナーの中で行われていた。

雪蓮「いいじゃないの別に この中って天幕より涼しいしさ」

華琳「このコーヒーっていうやつも美味しいしね」

美羽「もっとプリンを持ってくるのじゃ！」

馬超「あたしは別にどこで軍議やっても同じだしな」

桃香「すみませんね」

そもそもこうなった原因は

オニギリイマジンを撃破した後、

一刀が元の姿に戻ると

雪蓮「相変わらずすごいじゃないの一刀」

ギュッ

雪蓮が一刀に抱き付いてきた。

一刀「あのお、雪蓮さん胸が当たってるんですけど／＼」

一刀が照れると

雪蓮「当ててるのよ」

雪蓮は普通に言った。

雪蓮「やっぱりうちには一刀のような強い人が必要だわ」 一刀さ
えよかつたらうちに来ない？」

雪蓮が勧誘すると

桃香「ずるいですよ雪蓮さん！一刀さんとは私達が先に会ったんで
す！」

グイツ！

桃香が一刀の腕を引っ張ると

華琳「悪いけど北郷達を先に目をつけたのは私よ」

グイツ！

華琳も一刀の腕を引っ張った。

すると

スツ！

M一刀「お前ら！さっきからうるせえんだよ！」

バツ！

モモタロスが一刀に入って桃香達を無理矢理追い払った。

M一刃「俺達は誰にも仕える気はないんだ！わかったな！」

そしてM一刃が叫んでその場は収まったのだが

デンライナーに帰ると

モモタロス「まったく！仕えるなんてふざけた連中だったぜ！俺は仕えるのが大嫌いなんだよ！」

ウラタロス「僕は別に仕えてもよかつたんだけどな」袁紹以外みんなかわいかつたし」

キンタロス「今回は俺もモモの字に賛成やで！仕えたらこきつかわれるのは目に見えとるから迂闊に昼寝できへんしな！」

リュウタロス「僕も仕えるのやだ〜！どっちかって言うと仕えたいし〜」

みんながそれぞれ言っていると

コンコンッ！

外からデンライナーを叩く音が聞こえてきた。

一刃「誰だ？」

一刃が聞くと

桃香「桃香です。さっきのことを謝りに来ました」

声の主は桃香だった。

モモタロス「桃香なら安心だし開けてやりな」

キンタロス「おっ！モモの字も優しゅうなったな！前やったら出ていけ！言うてたのに」

キンタロスが茶化すと

モモタロス「うるせえんだよクマ公！あの時とは状況が違うからいいんだよ！」

なんだかんだいってモモタロスも少しは成長していた。

一刀「わかったよ！今開けるから待っていてくれ」

ウイインツ！

と扉を開けてしまったのが原因だった。

雪蓮「ハロー！」

華琳「策にかかったわね」

桃香「ごめんなさい」

そこには桃香だけでなく雪蓮、華琳、美羽、馬超、麗羽、全員が揃っていた。

「刀「なっ!?!」

シュルル

「刀は慌てて扉を閉めるが

ガシッ!

雪蓮「いきなり閉めることないじゃないの」

雪蓮に阻止された。

華琳「今日は暑いから涼しいこの中で軍議を開こうと思ってきたのよ、でも私達じゃあ警戒されるだろうから劉備を使ったけどね」

桃香「ごめんなさい!協力しないとご飯を分けてあげないって脅されまして!

桃香も悩んだ末の結果だった。

モモタロス「ふざけるな!さっさと出ていきやがれ!」

モモタロスが怒ると

雪蓮「へえ、そんなこと言っていていいんだ。ねえ袁紹、この人達実は黄巾党の首領をかくまってる」

「刀達『わっ!?!?わっ!?!?わっ!?!?』」

一刀達は必死で雪蓮を止める。

麗羽「何を騒いでますの？」

さいわいにも麗羽には聞こえなかったようだ。

そして雪蓮が一刀達に近付くと

雪蓮「ここで軍議させてくれる？」

雪蓮の言葉に

一刀達『はい…』

弱味を握られている一刀達は従うしかなかった。

ということが起きたのだ。

ウラタロス「我慢してよセンパイ！ここで追い出したら僕達は大陸中の極悪人だよ！？」

モモタロス「んなことわかってるけどよ」

もめながらも軍議は進んでいく。

麗羽「シ水関は相手が弱いおかげで楽に制圧できましたし、次の虎牢関ではわが軍が先陣をつとめますわ！」

美羽「麗羽がいくならわらわもいくのじゃ」

これに連合軍は驚いた。

その頃、虎牢関では

霞「やっぱり華雄は捕まったんかいなああのドアホめ！」

？「霞がいながらだらしのないのです！でも次の虎牢関では殺られませぬぞねえ恋殿」

パンダが描かれた帽子を被った小さな子が言うと

？「…やつらのなかに強いやつがいる。そいつはたぶん恋より強い」

赤髪のアホ毛が立った刺青いれずみのある子が言うと

？「まさか、恋殿より強いやつなんているはずないのです！」

？「…確かにまとまってきたら恋でも勝てないかもしれない。でも、一人ずつなら絶対に負けない！」

この時、この子はすでに何かを感じていたのかもしれない。

#15「軍議での騒動」(後書き)

次回、恋と電王が戦います！(予定)

#16 「電王、敗れる」

麗羽がデンライナー内で爆弾発言をした後

華琳「あなた正気なの！虎牢関には最強の呂布がいるのよ！？」

華琳が言うと麗羽は

麗羽「呂布が何だといえますの！我が軍には化け物退治の専門家がいますから呂布の一人や二人くらい軽いものですわ！」

一刀「もしかしてその化け物退治の専門家って！？」

すでに分かっていたが一刀が聞くと

麗羽「もちろんあなた達のことですわよ北郷さん！」

ビシッ！

麗羽が一刀を指さすと

モモタロス「やなこつた！何で俺達がお前に従わなくてはならないんだよ！」

モモタロスが怒ると

麗羽「何をいつていますの！連合軍の大將はこのわたくしですよ！それに今のあなた達はわたくしに本来首を切られているところを

わたくしの慈悲に免じて命を助けられてますのよ！命の恩人に対して従うのは当然でしょう！」

麗羽が反論してきた。

ウラタロス「確かにそうだけでも、あの時僕達を實質助けてくれたのは曹操さんなんだし同じ従うなら袁紹よりも曹操の方がいいな

」

キンタロス「グオーツ！」

リュウタロス「僕は絶対におばさんの命令は聞かないからね」

散々言われた麗羽は

麗羽「お黙りなさい！わたくしの命令に従えないというのなら即刻打ち首にしますわよ！」

」

ジャキンツ！

麗羽は剣を抜いた。

モモタロス「おもしれえじゃないか！剣を抜いた以上、容赦はしないぜ！」

ジャキンツ！

モモタロスも剣を抜いた。

デンライナー内が戦場になりそうな時

桃香「袁紹さんもモモタロスさんもやめてください！私達の敵は董卓軍なんですよ！私達が争ってどうするんですか！」

桃香が叫ぶと

雪蓮「劉備の言う通りよ！二人とも、剣を納めなさい！」

桃香に続いて雪蓮も言うつと

モモタロス「ちっ！わかったよ！」

スッ！

モモタロスは剣を納めた。

華琳「袁紹、あなたも剣を納めなさい！納めなかったら恥をかくわよ」

麗羽「ううっ…！？わかりましたわよ！」

スッ！

麗羽は剣を納めた。

麗羽「ですがあなた達はわたくしと共に虎牢関に向かってもらいますわよ！口答えしたら全員打ち首にしますわよ！」

サッ！

そして麗羽は怒りながら去っていった。

ウラタロス「やっぱりセンパイおかしんじゃないの!?!いつもなら止められたくらいでおとなしくなるはずなのにさ!?!」

モモタロス「うるせえんだよ!単なる気分の問題だつての!」

リュウタロス「それじゃあおばさんも出ていったことだし、次の戦いに向けてご飯を食べよう」

そしてみんなはデンライナーにてチャーハンを食べまくったという。

そして次の日の朝・虎牢関

ぞろぞろっ!

虎牢関前には金ぴかの鎧を着た袁紹軍の兵士達が三十万人はいた。

モモタロス「悪趣味な兵士だな!?!」

一刀「そう言うなって一応仲間なんだからさ!?!」

麗羽「一刀さん!何独り言をいってますの!」

デンライナーから出ているのでモモタロス達の姿は一刀以外には見えないのだ。

そう言う麗羽は御輿の上で高みの見物をしていた。

ウラタロス「ところでさ、僕達呂布の情報を何も持ってないけどどんな人物なんだろうね？」

キンタロス「回りの話を聞いてみたら黄巾党を一人で三万もやっつけたって話やで！」

リュウタロス「それってすごいねー！？」

モモタロス「ふんっ！お前らなにビビってるんだよ！そいつの力がどれくらいかは知らないが日頃イマジンと戦っている俺達が人間に負けるわけないだろうが！」

モモタロスが言うと

ウラタロス「別にビビってないよ！確かにそうだけどイマジンはセインパイを含めて知能が低い奴が多いからねえ、頭を使う人間とは相手が違うのさ」

ウラタロスがさらっと言うと

モモタロス「このやろっ！どさくさに紛れて俺を馬鹿にしゃがったな！」

ウラタロス「バレた？」

二人が言い争っている

ドンドンッ！

虎牢関から銅鑼の音が聞こえてきて

ざわざわっ!？

袁紹軍兵士達がざわつき始めた。

一刃達が騒ぎの元の場所を見てみると

ポツンッ

そこには一人の赤髪で刺青のある女の子が立っていた。

モモタロス「もしかしてあいつが呂布か？」

キンタロス「回りの反応を見るとそうやるな!？」

ウラタロス「まさかあんなかわいい女の子が史実では裏切者だと言われている呂布だなんて!？」

リュウタロス「人は見た目によらないね!？」

みんなが話していると

麗羽「何ビビってますの!相手は天下無双とはいえたった一人ではありませんの!みんなでやっておしまい!」

麗羽は叫ぶが

兵士「袁紹様は呂布の強さを知らないからそんなことが言えるんだ!？」

兵士「俺はまだ死にたくないぜ!?」

ザツ!ザツ!

一人、また一人と袁紹軍兵士は去っていき、残ったのは半分にも満たない十万人だけとなった。

麗羽「まああんな弱虫くらいいなくて構いませんわ!残った者達はさすがですわね!おーほっほっほっ!」

麗羽は高笑いをするが

残った兵士達は逃げ出さなかったわけではなく

恐怖で体が動かなかった者、呂布の力を知らない者、ここで頑張れば高い金をもらえるとと思う命よりも金が大事な者ばかりだった。

そして呂布は袁紹軍兵士達を見ると

呂布「…お前達、弱いから相手にするだけ無駄。お前が来い!」

ビシッ!

そして呂布が指を指した先には

バァンッ!

一刀がいた。

麗羽「おーほっほっほっ！あなたも物知らずなようね呂布さん！このブ男さんが大したことのない力の持ち主であることを知らないなんてね」

モモタロス「一刀、あいつ後で殴っていいか？」

一刀「一応総大将なんだからやめてくれ！？」

しかし呂布は

呂布「…他とは違う気を感じた。だから恋はそいつと戦う、他は邪魔だから消える」

と言うと

袁紹軍兵士「ふざけるんじゃないやねえぞ呂布！」

バツ！

呂布のことをよく知らない兵士が呂布に襲いかかるが

ズバツ！

兵士は一瞬の間に斬られてしまった。

それを見た残った兵士達も

兵士「死にたくないよー！」

兵士「俺は国に帰るぜ！！」

次々と去ってしまい残ったのは一刀達と麗羽・斗詩・猪々子のみとなった。

麗羽「役に立たない兵士達ですわね！まあいいですわ、ブ男さん呂布をさっさとやっつけなさい！」

と麗羽は岩影に隠れて叫ぶのだった。

一刀「仕方ない、人間相手に使うのは嫌だが」

ガチャッ！パカッ！

一刀はデノオウベルトを巻き付けて開くと

一刀「相手が強ければ話は別だ！」

ポチッ！

ベルト『OVER』

パアッ！

そして一刀は仮面ライダー電王・プラットフォームに変身し、モモタロス達も実体化した。

モモタロス「ようし！最初は俺からいくぜ！」

スッ！

モモタロスは一刀に入ると

ベルト『SWORDFORM』

ガチャガチャンツ！

一刀の体は仮面ライダー電王・ソードフォームに変身した。

M電王「俺、参上！こいつは俺一人で片付けてやるぜ！」

ダツ！

M電王はデンガツシャー・ソードモードで呂布に迫る！

M電王「おらおらっ！」

M電王は呂布に次々と攻撃するが

呂布「…攻撃が単調すぎる」

スッ！

呂布はM電王の攻撃の隙を狙って

ズバツ！

手にした戟で切り裂いた。

M電王「うおっ！？」

パッ！

呂布の一撃にたまらずM電王は変身が解けてしまった。

ウラタロス「今は油断したセンパイのミスだよ！今度は僕がやる

！

」

スッ！

今度はウラタロスが一刀に入ると

ベルト『RODFORM』

ガチャガチャンッ！

一刀の体は仮面ライダー電王・ロッドフォームに変身した。

U電王「君を釣らせてもらっつよ！」

スッ！

U電王は呂布に迫ると

U電王「せいせいせいっ！」

目にも止まらぬ早さで攻撃するが

呂布「…早いけど威力がない」

U電王「えっ!?」

呂布はU電王の攻撃をすべて受けきると

ズバツ!

戟の一撃を食らわした。

U電王「ぐわっ!?」

パツ!

攻撃を食らったU電王の変身が解けてしまった。

キンタロス「次は俺がいくで!」

スツ!

そして次にキンタロスが入ると

ベルト『AXEFORM』

ガチャガチャンツ!

一刀の体は仮面ライダー電王・アックスフォームに変身した。

K電王「俺の強さにお前が泣いた!ほないくで!」

ブンツ!

K電王はデンガツシャー・アックスモードで呂布に迫るが

呂布「…威力が強いけど遅い」

ズバズババツ！

K電王に呂布の連撃が襲いかかった。

いくら防御に優れたK電王とはいえ強い攻撃を何度も食らえばダメージを受ける。

K電王「ぐわっ！？」

パツ！

K電王は体がダメージに耐えきれず変身が解けてしまった。

リュウタロス「残るは僕一人か！？負けないよ！」

スッ！

リュウタロスが一刀に入ると

ベルト『GUNFORM』

ガチャガチャンツ！

一刀の体は仮面ライダー電王ガンフォームに変身した。

R電王「お前、倒すけどいいよね？答えは聞いてない！」

ドカカカッ！

呂布に容赦なく弾丸を撃ちまくるR電王だが

呂布「…当たらなければ怖くない」

カカカカンッ！

呂布は戟を回転して銃撃を防いだ。

R電王「そんなのってありなの！？」

そしてR電王が驚いているうちに近付くと

ズバッ！

呂布は戟の一撃を食らわした。

R電王「ぐわっ！？」

パッ！

そしてR電王の変身も解けてしまった。

とうとう全員が倒されてしまった一刀達

モモタロス「俺はまだやれるぜ…！一刀、変身だ」

倒れたモモタロスが傷付きながらも一刀に近付くと

一刀「……………」

モモタロス「一刀…!?」

一刀の返事はかえってこなかった。

ウラタロス「そうか!? 僕達ですらボロボロなんだそれを四発も食らったらいくら一刀でも!?」

リュウタロス「まさか一刀、死んじゃったの!?」

キンタロス「アホぬかせや! 意識がないだけで死んでないで!？」

確かに一刀は死んではない、意識がないだけだ。だが命が危ないことは確かだった。

そんな時

ドドオーツ!

虎牢関から董卓軍が押し寄せてきた。

霞「敵の主力は恋つちが倒した! 残りを倒しに行くでー!」

援軍を見たモモタロスは

モモタロス「これが大ピンチってやつかよ、一刀は動けないし、俺

達はボロボロ、おまけに敵に援軍かよ！もうおしまいじゃねえか！

「

モモタロスが悔し涙を流すと

キンタロス「まだ諦めるのは早いでモモの字！」

スッ！

キンタロスがよろめきながらも立ち上がると

ウラタロス「まだ僕達は終わってないよね！」

リュウタロス「まだまだいけるもん」

キンタロスに続いてウラタロスとリュウタロスもよろめきながらも立ち上がった。

モモタロス「お前ら、何する気だ！？」

モモタロスが聞くと

キンタロス「殿はつとめたるからモモの字は一刀を背負って逃げてくれ！」

ウラタロス「それが僕達にできる仕事だしね」

リュウタロス「さつさといきなよ」

モモタロス「お前ら…」

モモタロスはウラタロス達の行動に涙を流すと

ガバッ！

すぐに立ち上がって一刀を背負うと

モモタロス「必ず助けにいくからそれまで生きてるよ！」

ダッ！

その場から走り去っていった。

#16「電王、敗れる」(後書き)

ウラタロスの台詞が違つのは相手が女だからです。決して間違いではありません。

#17 「戦う理由」

ウラタロス達の犠牲もあり、何とか一刀を連合軍本部まで連れ帰ったモモタロスは一刀を寝台に寝かせて側にいた。

デンライナー内

モモタロス「・・・」

いつもは暴れまくるモモタロスだが今回は静かにしていた。

ちなみにOVERボタンは一刀しか押せないためモモタロスはデンライナーの外に出ても実体化したままである。

大人しいモモタロスを見た張三姉妹は

天和「一刀大丈夫かな!？」

人和「ちよつと心配ね!？」

地和「ふんっ!ちい達に心配かけさせるなんて何を考えてるのかしら!」

と言いながらも地和もつすら涙を流していた。

そんな時

コンコンッ

外からデンライナーを叩く音が聞こえると

桃香「桃香です。お見舞いに来ました」

桃香が一刀の見舞いに来てくれたようだ。

ウィーンッ

天和達は扉を開けて桃香を中に入れる。

もちろん入ってきたのは桃香だけでなく

雪蓮「一刀の具合はどう？」

華琳「一応怪我薬を持ってきたけどね」

雪蓮と華琳までやって来ていた。

そして三人は寝台に眠る一刀を見ると

雪蓮「そういえば次の策が決まったそうよ」

回想

麗羽「わたくしの軍が負けたのはブ男さん達が弱いからですわ！」

あの戦いの時、なんとか逃げ帰った麗羽だった。

麗羽「というわけでわたくしに一切の責任はありませんの、みんなブ男さん達の責任ですわ！」

あきらかに麗羽のせいなのに一刀達のせいにする麗羽だった。

麗羽「次の虎牢関先陣は劉備さんにお願ひしますわおーほっほっほっ！
っ！」

回想終了

天和「ひっどーい！一刀達は自分達なりに頑張ってきたのに責任を押し付けるなんて！」

人和「袁紹に総大将の資格はないわね」

地和「文句いつてきてやる！」

地和が麗羽の天幕に行こうとすると

モモタロス「やめろ！んなことすれば逆賊扱いされちまうぞ！」

いつもは先に暴れまくるモモタロスが地和を止めた。

モモタロス「俺だつて本当はすぐさま袁紹を殴りたくてたまらないんだ！安心しろ、この戦いが終わったら一発殴つてやるからよ」

それはそれで問題があるのではと思う一同だった。

そんななか、

桃香「そういえば前から聞きたかったんですけどどうして優しい北郷さんが戦っているんですか？」

桃香の質問にモモタロスは

モモタロス「俺達は最初から一刀についていたわけじゃねえ、他のやつから一刀にうつったんだよ」

雪蓮「それってどういうことなの？」

雪蓮が聞くとモモタロスは

モモタロス「あれは今から約一年前の話だ」

ちなみに一刀達がこっちに来てから約三ヶ月が経っていた。

モモタロス「俺達は元々一刀のクラスメートの野上良太郎についていたんだ。この良太郎っていうのが運が悪くてよ、自転車で走っていたらいつの間にか木の上にいるわ、デンライナーで休んでいたら突然やって来たら才児の尻が顔に命中するという運がないやつだったんだ」

いずれもテレビ・テレビスペシャルを参照

モモタロス「だが弱いくせに強情で倒れている人をほっておけないほどのお人好しななさ。話は戻るが一年前、良太郎がイマジンを退治した帰りのこと」

一年前　デンライナー内

リュウタロス「今回の敵は楽勝だったね！」

モモタロス「俺の活躍のおかげだな！」

ウラタロス「よく言うよ、一番足を引つ張っていたくせにさ」

モモタロス「なんだとカメ公！」

キンタロス「グオーツ！」

デンライナー内が騒がしくなると

良太郎「みんなやめてよう！」

良太郎が止めに入ったが

つるっ！

良太郎「えっ！？」

足を滑らせて

ガラッ！

良太郎「あーっ！？」

そのままデンライナーから落ちてしまった。

モモタロス達「良太郎！？」

ちなみにデンライナーは空中を飛んでいたの

良太郎「僕はなんて運が悪いんだー!？」

キーンッ!

良太郎は落下しながら叫ぶのだった。

そんな時

一刀「んっ？」

たまたま近くを通っていた一刀が

一刀「あれは野上!？」

持ち前の動体視力で良太郎を発見すると

ザッ!

すぐさま良太郎の落下地点に走り出した。

しかし

ドスンッ!

一刀は間に合わなかったものの、幸い良太郎は木から木に落ちていた
ので大事には至らなかった。

そして良太郎の元に着いた一刀は良太郎を病院に連れていくのだ
た。

病院

医者「大事は避けましたが重症には変わりませんので入院に半年、
リハビリに三ヶ月、元通り歩くまでには更に三ヶ月必要ですね。そ
れまでは絶対安静でお願いしますよ」

一刀「わかりました。本人にも言っておきます」

医者「お願いしますよ」

バタンツ！

医者は出ていった。

そしてそれまで気を失っていた良太郎が目を覚ますと

良太郎「北郷君、久しぶりだね」

一刀「最後に会ったのは野上が高校中退した時だったよな」

良太郎は高校を中退しており、一刀は在学時のクラスメートなのだ。

一刀「医者がいうには約一年の入院生活だったよ」

一刀が良太郎に言うと

良太郎「約一年の入院だって！？冗談じゃないよ！？」

ガタガタッ

良太郎がベッドを降りようとする

一刀「何してるんだ！絶対安静だって言っただろ！」

ガシッ

一刀は良太郎を押さえつけた。

良太郎「だって僕がいかないとイマジンによって歴史が変わってしまつから！？」

一刀「イマジンって何だよ？」

普通の人がイマジンを知るはずがなかった。

そして壁に隠れていたモモタロス達は

モモタロス「じれったいやつだぜ！」

スッ！

ウラタロス「ちょっとセンパイにする気なの！？」

モモタロス「決まってるだろあいつの前に出るんだよ」

キンタロス「ムリやで、俺らは特異点の人間にしか見えへんのやから！」

この設定は小説の中の設定である。

モモタロス「構わねえよ！」

ダッ！

そしてモモタロスが一刀の前に出ると

一刀「あれっ？目の錯覚かな何だか砂のような化け物が見えるんだけど？」

一刀の言葉に

良太郎達「えっ！？」

良太郎達は驚いた。

つまり一刀も時間移動しても時の影響を受けない特異点なのである。

特異点ということがわかり、良太郎が説明すると

一刀「まさか野上が戦っていたなんてな！？…」

一刀は少し考えると

一刀「わかったよ！その特異点が電王になれるのならば俺が野上の

代わりになつてやるよ」

良太郎達「ハア？」

一刀の言葉に良太郎達が驚くと

一刀「だから野上は安心して怪我を治してくれ」

こうして無理矢理な形で一刀は電王として戦うのだった。

もちろんはじめからうまくいったわけではなく、厳しい修行の末に電王になれたのだった。

現在

モモタロス「そしてそれから一年後、良太郎の怪我が治ったと聞いて俺達が帰る途中でこの世界に来るといふ事故にあったわけさ、もしこのまま一刀が目覚まさなかったら良太郎に申し訳ないんだよ！」

モモタロスが涙を流しながら叫ぶと

一刀「勝手なこといなよモモタロス」

全員「えっ!？」

一刀「誰が目覚まさないなんて言ったよ！」

スッ!

寝ていた一刀が起き上がった。

桃香「体は大丈夫なんですか!？」

桃香が聞くと

一刀「俺は良太郎の分まで頑張らなくちゃならないんだ。これくらいでへばってたまるかよ！」

スッ!

一刀は立ち上がると

一刀「それにはやくウラタロス達を助けにいかないとな」

一刀が言うと

モモタロス「ふんっ!お前一人に助けられるもんか、やっぱりこの俺がいないとな！」

モモタロスもいく気満々だった。

一刀「それじゃあいくぜモモタロス！」

モモタロス「おうよっ！」

ウィーンッ

一刀達が出ようとして扉を開けると

愛紗「話はすべて聞かせてもらったぞ」

扉の外には愛紗が立っていた。

愛紗「一刀達には命を助けてもらった礼があるからな私も仲間を助けに向かわせてもらうぞ」

愛紗が言うと

雪蓮「だったら私も以前助けてもらった礼として仲間の救助を手伝わしてもらうわよ」

雪蓮も加わった。

華琳「私は何も礼はないけれど神速の張遼を仲間にするついでに協力してもいいわよ」

一刀「みんな…ありがとう」

モモタロス「待ってるよカメ公、クマ公、がきんちよ！」

各諸侯が力を合わせて頑張ろうとしている頃

袁紹軍本部

麗羽「おのれっ！このわたくしが呂布一人に散々やられるなんて悔しいですわ！それもこれもみんな北郷さんが弱いからですわ！」

麗羽が一人で騒いでいた。

麗羽「こつなつたら誰でもいいから呂布を殺してくださいな！」

麗羽が叫ぶと

？「その望み、叶えてやるよ」

麗羽「えっ!?!」

声のする方を麗羽が見てみると

ズウンツ!

鬼のような外見の化け物がいた。

アマノジャクイマジン「俺が呂布を殺してやるよ」

アマノジャクイマジンは言うが

麗羽「……………」

すでに麗羽は驚いて気を失っていた。

#17 「戦う理由」(後書き)

イマジンファイル

・アマノジャクイマジン

『つりこ姫とあまのじゃく』のあまのじゃくからイメージされたイマジン。力がものすごく強く、人の心を読む力がある。

#18 「呂布への再挑戦」

一刀達が虎牢関に向けて進んでいる頃、

虎牢関

？「恋殿」

緑の髪の小さな子が恋（呂布の真名）に近付いてきた。

呼び掛けられた恋は

恋「…ねね、何か用？」

ねねとは小さな子の真名であり名前を陳宮という。

235

ねね「先程捕まえた捕虜達を霞が尋問しておりますが口を割らなくて困っていると霞が言っておりますぞ」

結局、ウラタロス達は捕まってしまったのだ。

恋「…わかった。恋もいく」

虎牢関・牢屋

霞「だからもう一度聞くけど、連合軍はどれくらいの数がいて主要な将は誰や？」

霞が尋問すると

リュウタロス「僕知らないし」

キンタロス「グオーツ！」

ウラタロス「そんなことよりお姉さん、女の子がさらし袴はかまだなんて
みっともないよ、君の素肌を僕以外の人に見せたくないんだ」

さつきからこの調子である。

霞「あーっもうっ！こいつらと話しているとウチの頭が痛くなってく
るわー！」

これには霞でなくても頭が痛くなるのは当然である。

とそこへ

恋「…霞、来た」

恋がやって来た。

霞「ええとこに來たで恋、あんたが捕まえたんやからあんたが尋問
してや」

ダツ！

霞は尋問を恋に任せるとそのまま去っていった。

ねね「全く、霞も根性無さすぎなのです。恋殿、尋問ならばねねに任してください、こつみえてもねねが尋問して口を割らなかつた奴はいませんぞ」

そして恋に代わってねねが尋問することになったのだが

ねね「お前達の軍に兵はどのくらいいやがるのです！」

すると

リュウタロス「たくさ〜ん」

キンタロス「数えたことないから分からんわ」

ウラタロス「おちびちゃん、大人に聞くときには礼儀正しくしないとね」

と言ったものだった。

そして霞よりもキレやすいねねは

ねね「ムキーツ！こいつらは馬鹿なのですか！」

めちゃくちゃキレていた。

恋「…ねね、恋が代わる」

スッ！

代わりに恋が尋問することになり

ジッ

恋がウラタロス達を見つめると

ウラタロス「何だかわからないけれど妙な気を感じるよ!？」

キンタロス「これが無言の行むごんぎょうって奴かいな!？」

リュウタロス「なにそれ？」

無言の行：言葉を話さずに会話するようなもの

しかし、そうではなくただ恋は見つめているだけだった。

そんな時

兵「申し上げます!劉備・曹操・孫策・袁紹軍の旗がこちらに来了ます」

霞「なんやて!？」

ねね「劉備達はともかく何で馬鹿な袁紹まで来るのですか!？」

実は袁紹軍は来ていなく、勝手に一刀達が旗を持ってきただけである。

話を聞いた恋は

恋「…きつとこいつらを助けに来たに違いない。仮面の相手は恋がする」

方典画戟を片手に出撃するのだった。

ねね「恋殿がいくのならばねねも恋殿についていきますぞ！」

霞「ほなウチは他の奴らの相手をするで」

ダダッ

そして牢屋の見張りがいなくなると

ウラタロス「ようやくセンパイ達が来てくれたようだね」

キンタロス「絶対助けに来るって思ってたけどな」

リュウタロス「牢屋って退屈だし、さっさと出ちゃおうよ」

そしてウラタロス達は

ブチブチンッ！！

自分達に巻かれていた鎖を引きちぎると

キンタロス「ふんっ！」

バキンッ

牢屋をぶち壊して脱獄した。

実ははじめから脱獄できたのだがモモタロス達が来るのを待っていたのだ。

そして虎牢関前

虎牢関前には一刀とモモタロスが立っていた。

ねね「誰かと思ったら一度恋殿に負けた負け犬ではないのですか。また負けに来たのですか」

ねねは挑発するが

モモタロス「そんなんじゃない！今度は勝ちに来たんだよ！」

いつものモモタロスならば挑発にのるところをモモタロスは挑発にのらなかった。

恋「…何度でも来い、どうせ負けない」

ジャキンッ！

恋が方典画戟を構えると

一刀「悪いけど今度は負けるわけにはいかないよ」

カチャンッ

一刀はベルトを巻くと

「一刀「変身…」」

ポチッ

ベルトにあった赤いボタンを押した。それと同時に

モモタロス「そらよっ」

スッ！

モモタロスが一刀に入ると

ベルト『SWORDFORM』

カチャカチャンッ

一刀の体は仮面ライダー電王ソードフォームに変身した。

はじめからOVERボタンを押していたため今回は押す必要がなかったのだ。

M電王「俺、参上！。前はお前の強さも知らずにがむしゃらにやっ
たから負けたが今度はそうはいかないぜ」

恋「…確かにこの前と雰囲気が違う」

恋も納得したようだが

ねね「恋殿は無敵なのです！お前なんかに負ける恋殿ではないのです！」

ねねだけは納得していなかった。

M電王「うるせえんだよちび！俺は呂布と話してるんだ戦えない奴は引ッ込め！」

ねね「な…何ですと！！」

ねねがすぐにも飛び出そうとすると

スッ！

恋「…ねね下がってる。戦いにねねを巻き込みたくない」

恋がねねを止めると

ねね「恋殿、わかりましたのです」

タタッ

ねねはすぐさま後ろに下がっていった。

そしてねねが下がったあと

恋「…お前、名前は？恋は呂布。真名は恋」

M電王「真名まで教えてくれるのかよ!?俺の名は仮面ライダー電王だ」

恋「…電王、恋と殺る」

ジャキンッ!

恋は方典画戟を構えると

M電王「わかったよ!」

ジャキンッ!

M電王もデンガツシャー・ソードモードを構えた。

M電王「いくぜいくぜ!」

そして今、戦いが始まるうとしたとき、

ドッゴーン!!

近くから爆音がするので見てみると

アマノジャクイマジン「見つけたぜ呂布」

呂布を殺しに来たアマノジャクイマジンが現れた。

#19 「クライマックスに助太刀！」

虎牢関にて電王VS呂布の戦いが始まるうとしたとき、突然呂布を殺しに来たアマノジャクイマジンが乱入してきた。

M電王「おいこの野郎！人の戦いに割り込むんじゃないやねえよ」

M電王が怒ると

アマノジャクイマジン「お前」

ガシッ

アマノジャクイマジンはM電王を掴むと

アマノジャクイマジン「邪魔だ」

ポイツ

M電王「うおっ！？」

ドサッ

遠くに投げ飛ばした。

アマノジャクイマジン「呂布、殺してやるぜ！」

アマノジャクイマジンは顔を恋に向けると

恋「…戦いの邪魔するな」

ブンッ！

恋は戦いの邪魔をしたアマノジャクイマジンに対して方典画戟で斬りつけようとするが

パシッ

アマノジャクイマジン「これが本気かな？」

恋「…！？」

方典画戟はアマノジャクイマジンに軽く受け止められた。

そして

グイッ

方典画戟がアマノジャクイマジンの方に引っ張られると

アマノジャクイマジン「隙ありだぜ」

ドグボッ！！

アマノジャクイマジンは拳を恋の腹めがけて繰り出した。

恋「ゲホッ！？」

ズザーッ！！

さすがの恋も胃の中のものをすべて吐き出し、そのまま転がっていった。

アマノジャクイマジン「まだ殺さないぜじわじわといたぶってから殺してやるよ」

アマノジャクイマジンが恋に近付こうとすると

M電王「あぶねえ恋!？」

バツ

M電王が飛び出してきて

ブンッ!

デングァッシャーで斬りつけようとするが

パシッ

M電王「なにっ!？」

アマノジャクイマジンに受け止められてしまった。

アマノジャクイマジン「お前、邪魔だと言ってるだろうが!！」

ドグボッ!!

M電王「ぐほっ!？」

アマノジャクイマジンはM電王の腹めがけて拳を繰り出した。

パアーツ

ダメージが大きすぎて一刀とモモタロスは分離してしまった。

モモタロス「一刀、生きてるか？」

一刀「何とかね…」

二人は何とか生きていたものの、すぐには動けない重傷だった。

アマノジャクイマジン「さてと、そろそろ呂布を…」

アマノジャクイマジンが恋に近付こうとしたその時

ねね「ちんきゆうキーク!!」

ねねがアマノジャクイマジンめがけて蹴りを繰り出した。

ねね「恋殿をみすみす殺させるわけにはいかないのです！」

しかし、ねねの勇気を出した蹴りは

パシッ

ねね「なっ!？」

アマノジャクイマジンの死角から攻めたにもかかわらず、後ろ向き
の状態から受け止められてしまった。

アマノジャクイマジン「チビはすっこんでろっ」

ブンッ！

ねね「のわーっ!?!」

ねねは軽く投げ飛ばされてしまった。しかも投げ出された先には大
岩があり、このまま当たればねねの命が危ない!!

キーンッ

そしてねねが岩に当たりそうになったとき

ガシッ

一刀が飛んできたねねを受け止めた。

しかし、一刀はそのままねねごと飛ばされてしまい

ドガッ!!

一刀はねねをかばって岩に直撃した。

一刀「ぐほっ!!」

前の戦いの傷とさつき殴られた分とねねをかばった傷で一刀の体は常人ならば即死の状態だった。

モモタロス「一刀！？」

モモタロスが倒れた一刀に駆け寄る。

すると一刀は

一刀「モモタロス、もう一度変身だ」

しかしモモタロスは

モモタロス「馬鹿野郎！！テメエそんな体でもう一度攻撃を受けたら死ぬかもしれないんだぞ！？」

すると一刀は

一刀「俺の体はどうなっても構わない！今はイマジンを倒すことが先決だろ」

一刀が言うと

モモタロス「馬鹿野郎！！」

ドカッ！

モモタロスは一刀の頬を殴った。

モモタロス「イメージン退治が命より大事だと、ふざけるんじゃないよ！自分の命を何だと思ってやがるんだ！」

モモタロスが一刀に叱責すると

ウラタロス「センパイの言う通りだよ一刀」

と、声が聞こえてきたので声のする方を見てみると

バアンツ！！

そこにはウラタロス達がいた。

キンタロス「俺やったらイメージン退治より一刀の命を優先するで」

リュウタロス「だっていまや一刀は良太郎の代わりじゃなくて大事な仲間だしね」

一刀「大事な仲間……」

モモタロス「そう、今のお前は良太郎と同じくらい大事な仲間なんだよ。それだけは忘れるんじゃないぞ」

これを聞いた一刀は

一刀「すまないみんな！俺が馬鹿だったんだ」

するとモモタロス達は

モモタロス「謝らなくても別にいいんだよ」

キンタロス「ほなら俺らは呂布を助けに行くから」

リュウタロス「一刀は体を休んでてよ」

ウラタロス「今いくよ呂布ちゃん！」

ダッ！

モモタロス達は恋を助けに向かった。

そのころ恋は

アマノジャクイマジン「必死な抵抗も無駄なようだな」

恋「…くっ！？」

何とか恋は殺されないよう必死に抵抗していたがついに限界が来た。

アマノジャクイマジン「くだばりやがれっ」

ブンッ！

アマノジャクイマジンが拳を繰り出そうとすると

モモタロス「こっちだぜ」

ブンッ！

モモタロスが不意打ちを食らわそうとすると

アマノジャクイマジン「不意打ちするなら叫ぶんじゃないやねえよ馬鹿が

」

パシッ

モモタロスの繰り出したモモタロスオードは受け止められてしまっ
たが

モモタロス「馬鹿め、俺は困だよ」

アマノジャクイマジン「なにっ!？」

モモタロスの言う通りである。モモタロスがアマノジャクイマジン
を足止めしている間に

リュウタロス「バゝカ」

リュウタロスが恋を安全なところにつれてきた。

そしてアマノジャクイマジンが驚いているうちに

サッ

ウラタロス「（隙あり）」

キンタロス「（もろたで）」

ウラタロスとキンタロスがアマノジャクイマジンの隙を狙って攻撃する

が

アマノジャクイマジン「ふんっ！」

ブオンッ

モモタロス「なっ!？」

アマノジャクイマジンは掴んでいたモモタロスを

ウラタロス「えっ!？」

キンタロス「なっ!？」

ドカツ!

ウラタロスとキンタロスのいた方に投げ飛ばした。

モモタロス「ぐおっ!？」

ウラタロス「ぐえっ!？」

キンタロス「うおっ!？」

ドサッ

三人はそのまま飛ばされてしまった。

ウラタロス「そんな馬鹿な！？確かに死角を狙ったのに」

キンタロス「何で俺らに気付くねん！？」

アマノジャクイマジン「俺に死角はないんだよ」

アマノジャクイマジンは言うが

戦いを見ていた一刀は何か気づいた。

一刀「（もしかして）みんなこっちに来るんだ！」

一刀はみんなを呼び寄せる

モモタロス「何だよ一刀？」

ウラタロス「作戦会議？」

アマノジャクイマジンの足が遅いので何とか全員が一刀の元にたどり着くと

一刀「婆ちゃんから聞いたことがある。天の邪鬼ってのは人の心を読む神通力があるんだ！」

つまりアマノジャクイマジンは勘で防いだわけではなく、モモタロス達の心を読んで攻撃を防いでいたのだ。

キンタロス「成る程な」

リュウタロス「でもどうやってあいつを倒すの!？」

リュウタロスが悩んでいると

一刀「あれしかないだろう」

モモタロス達「あれだと!？」

一刀が言ったあれとは

一刀「みんなの心が一つにならないといけないあれだよ。今までの戦いならば変身できなかったけど、今なら心を一つにできるかもしれない！」

そういう一刀には根拠があった。

恋を助けるというみんなの思いを一つにすれば変身できるかもしれないのだ。

モモタロス「仕方ねえな」

ウラタロス「やるしかないよね」

キンタロス「ほないくで！」

リュウタロス「僕も頑張る！」

モモタロス達は決意を一つにすると

モモタロス「それじゃあいくぜ」

サッ

モモタロス達は一刀から四方に分かれると

モモタロス「いちっ！」

ウラタロス「につ！」

キンタロス「さんっ！」

リュウタロス「しっ！」

ダダッ

モモタロス達は一斉に一刀に向かっていくと同時に

一刀「変身！」

ポチッ

ベルト『CLIMAXFORM』

パーツ

一刀の体が光輝くと

カチャカチャンツ

バンツ！

一刀の体は仮面ライダー電王・クライマックスフォームに変身した。

クライマックス電王「俺達、参上！」

クライマックス電王が言うと

アマノジャクイマジン「お前、邪魔だ！」

ダツ！

アマノジャクイマジンがクライマックス電王に襲いかかる。

が

パシツ

クライマックス電王はアマノジャクイマジンの拳を軽く受け止めた。

クライマックスM電王「不思議だろうな、人の心を読むお前なら読めたはずだ俺が拳を受け止めるはずがないとな」

クライマックスU電王「でもひとつ間違いがあるんだよね」

クライマックスK電王「俺らは五人で一人の電王やからな」

クライマックスR電王「一人の心を読んでもあとの三人の心は読めないでしょ」

そして交互に話す電王だった。

アマノジャクイマジン「おのれー!!」

ググッ!!

アマノジャクイマジンは力を込めるが

クライマックスM電王「どうやら力でも負けてるみたいじゃねえか」

クライマックスK電王「さっき飛ばしたお返しに…どりゃあっ!!」

ブンッ!

クライマックス電王はアマノジャクイマジンを上に投げ飛ばした。

クライマックスM電王「それじゃあ決めるぜ」

ベルト『CHARGE AND UP』

クライマックスM電王「一刀から聞いたが天の邪鬼つてのは海老天に踏まれてるんだってな」

クライマックスU電王「毘沙門天でしょセンパイ」

毘沙門天：七福神の一人

クライマックスR電王「モモタロスのバカ」

クライマックスM電王「うるせえんだよ！！とにかくいくぜ」

ピョンッ

クライマックス電王が上空に飛んで足に力を込めると

ガシャンガシャンッ

右足にデンカメンが集まってきた。

クライマックスM電王「俺達の必殺技！！ボイスターズキック！！」

「

シュッ！ ドカッ！

クライマックス電王の蹴りがアマノジャクイマジンに命中すると

アマノジャクイマジン「ぐおーっ！？」

ドッカーン！！

アマノジャクイマジンは上空で爆発した。

ヒュッ ストンッ

そしてクライマックス電王が見事着地すると

パーッ

変身が解かれて

モモタロス達『疲れたッ』

バタンッ

その場に倒れた。

クライマックスフォームは確かに強いがその分反動が強いため疲れるのだった。

そして戦いを見ていた恋とねねは

ねね「今なのですぞ恋殿、奴らは疲れて動けませんから捕まえられますぞ」

ねねが言うと恋は

恋「…捕まえるのため、この人達は恋の命の恩人。それよりも休ませるために中に連れていく」

ねね「そんな〜!!」

こうして一刀達は虎牢関の中に連れてこられるのだった。

#20 「洛陽の真実」

一刀「ん…」

アマノジャクイマジンの戦いに勝利し、眠ってしまった一刀が目を開けてみると

恋「…じ…」

恋が上から一刀の顔を覗いていた。

一刀「こ…ここは!？」

慌てて飛び上がった一刀が聞いてみると

恋「…洛陽に向かう馬車の荷台…」

この言葉を聞いた一刀は驚いた。

なぜなら洛陽は董卓軍の本拠地だからである。

一刀「俺を連れて行っていいの!？」

一刀が聞くと

恋「…一刀達、恋の命の恩人だから構わない」

ギョッ

恋がそう言っつて一刀に抱きつくと

ねね「ちくんきゅ〜うキーツク!!!」

ドカツ!

一刀「ぐほっ!？」

後ろから繰り出したねねの蹴りが一刀に当たった。

ねね「目が覚めたのならさっさと恋殿から離れるのですこのへぼが!!!」

そんなねねに対して

ポカンッ

恋がねねにゲンコツをした。

恋「…一刀にそんなこと言っっちゃダメ」

ねね「恋殿〜!!!」

殴られたねねは痛さよりも恋に怒られたことに対して涙を流すのだった。

恋「…それより、一刀の仲間が消えてる」

さっきからモモタロス達が騒がないのでおかしいと思ったら姿が見

えないのだった。

一刀「心配ないよ、時間がきたから俺の体に眠っているだけだから」

実はモモタロス達が実体化できるのにも時間制限があり、それを過ぎると自動で一刀の体に戻るのだ。（再び実体化するには時間がかる）

そんな話が進み一行は洛陽にたどり着いた。

一刀「こ…これは!？」

一刀が見た洛陽の第一印象は

ぼろ〜ん

まさに廃墟というのにふさわしい町並みだった。

恋「…ここは前からこんなじゃなかった」

一刀の驚いた顔を見た恋が説明を شدした。

恋「…数週間前に白い奴らが現れて人を殺し、町をボロボロにしたのが原因。月と詠も人質にされた」

一刀「月と詠って誰？」

恋「…それは…」

恋が月と詠について話そうとするよ

ガササッ

辺り一面が騒ぎ出してきて

バババッ

白装束の怪しい奴らが現れた。

一刀「何だよこいつらは!？」

恋「…こいつらが言っていた白い奴ら」

ねね「恋殿!？」

いきなり現れた白装束達は

白装束「北郷一刀は悪魔なり、悪魔はさっさと殺すべし!北郷の身柄を渡せばお前達に危害は加えない」

白装束達の言葉に

ねね「恋殿、こんなへばなんて奴らに渡してやりましょう!」

ねねが言つと

恋「…ダメ、一刀は恋の命の恩人。奴らに渡すわけにはいかない」

ジャキンッ

恋は方天画戟を白装束達に向けた。

白装束「身柄を渡さないのならお前達も死すべし」

ダダッ

白装束達は一齐に一刀達に襲いかかってきた。

一刀「くっ!？」

スッ!

一刀は落ちていた木の棒で歯向かい、

恋「…みんなは恋が守る」

ズバズバッ!!

恋は方天画戟で次々と切り裂いていき、

ねね「ひえーっ!？」

ねねは必死で逃げていた。

しかし、

ガキンッ

「一刀「うおっ!？」」

恋「…くっ!？」」

先の戦いで疲れた一刀と恋は白装束の相手もできないほど弱っていた。

「一刀「くっ!？」恋、俺を引き渡せそうすれば恋達は助かるかもしれない」

恋「（ふるふるっ）…たとえ恋が死ぬことになってもそれは嫌だ」

ねね「恋殿!？」」

ついに追い込まれた三人は白装束達に囲まれると

「白装束「悪あがきも無駄のようだったな、三人まとめて殺してやる」

「ジャキンッ!

白装束の持っていた剣が三人に降り下ろされた。

「一刀「（ここまでか!？）」」

「一刀があきらめたその時

モモタロス「待たせたな一刀」

モモタロスの声がどこからか聞こえてきて

スッ！

白装束「死ねーっ！！」

同時に白装束の剣が迫るが

ガシッ

一刀は歯で剣を防いでいた。

M一刀「ほへはほんひよひよひんへんひははほひはは！（これがホントの真剣白歯取りだな！）」

一刀の体にはモモタロスが入っていた。

M一刀「ぺっ！俺達はもう回復したぜ後は任しときな」

一刀（精神体）「わかった頼むぜ」

一刀は体をモモタロスに任せて休むことにした。

M一刀「恋、お前の武器を貸してくれ！武器があるとやりやすい」

M一刀が言つと

ねね「何をいつているのです！恋殿が大事な武器をお前なんかには貸すはずが…」

恋「…いいよ」

スッ！

恋は簡単に方天画戟をM一刀に差し出した。

M一刀「ありがてえ、剣とは違うがまあ仕方ねえな」

パシッ

M一刀は恋から方天画戟を借りると

M一刀「俺は最初から最後までクライマックスだぜ！」

ダッ！

M一刀は白装束の群れに飛びかかっていった。

数時間後

M一刀「俺の必殺技、一刀version」

ズバッ！！

白装束「ぐはっ！？」

M一刀は最後の白装束を斬り倒すと

M「寝起きの準備運動にはちょうどよかったぜ！ほらよっありがとな」

パシッ

M「一刀は方天画戟を恋に返した。」

「一刀（精神体）」ありがとうモモタロス」

パッ！

「一刀の体は元に戻った。」

「一刀」それにしても何でこいつらは俺の命を？」

「一刀が白装束達を見ていると」

？「うーっ！？」

白装束達の持っていた麻袋から声が聞こえてきた。

「一刀」誰が入ってるのかな？」

「一刀が麻袋のひもを解くと」

？「ぷはっ！」

麻袋の中から人形のような女の子と眼鏡をかけた気の強い女の子が

出てきた。

その二人を見た恋は

恋「…月、詠!？」

と叫んだ。

そして袋から出された二人が恋の姿を確認すると

月「恋さん、生きていてよかったですね」

詠「何してるのよ恋、早くこいつらを倒しなさい」

眼鏡をかけた詠が恋に指示するが

恋「…嫌、一刀は恋の命の恩人」

恋は指示を聞かなかった。

一刀「ところで恋、この二人は誰なの？」

一刀が聞くと

恋「…董卓と賈馱」

恋は素直に答えた。

ウラタロス「これがあの魔王董卓！？魔王どころか妖精じゃん！？」

キンタロス「袁紹がでたらめ言ってたわけか！？」

リュウタロス「僕は始めからあのおばさんが胡散臭いって感じてたもんね」

ウラタロス達の姿は一刀以外見えないし、声も聞こえません

詠「ちよつと恋、ボク達の正体バラしてどうするのよ！こいつは連合軍の奴なのよ！ボク達の首を手土産に殺すに決まってるじゃない！」

詠が叫んでいると

月「詠ちゃん、これも運命さだめなんだよ。事情はどうあれ私達は大悪人なんだから。でも殺すなら私だけにして詠ちゃんは見逃してください」

月が言うと

詠「何言ってるのよ月、月のかわりにボクを殺しなよ！」

月「詠ちゃん、私が」

詠「ボクが」

二人が互いをかばいあっていると

「刀、何か勘違いしているようだけど、俺は君達を殺す気も引き渡す気もないからさ」

月・詠『えっ！？』

この一刀の発言に二人が驚いた。この二人を連合軍に引き渡せば莫大な恩賞がもらえるというのに変わった人だと二人は思っていた。

「刀、それよりここから逃げないと二人が殺されてしまうな」

ウラタロス「いっそのことつれて逃げちゃう？」

キンタロス「ええ考えやけども天和達はどないすんねん？」

モモタロス「連れていってもうるさいだけだしこの際置いとくか？」

「

モモタロス達が話し合っていると

ガサッ

茂みの中から何かが飛び出してきた。その正体は

天和「やっと見つけたよー！！」

地和「ちい達置いて先にいかないでよね！」

人和「その人達は誰ですか？」

そこにはデンライナーに置いてきたはずの張三姉妹がなぜかいた。

実は一刀達が虎牢関に向かうときにこっそりついてきたのだ。

一刀「それじゃあ全員揃ったところで逃げようか？」

今、ものすごい(?)脱走劇が始まるうとしていた。

#21 「洛陽脱出・黒幕あらわる」(前書き)

今回で反董卓連合編はおしまいです。

#21 「洛陽脱出・黒幕あらわる」

一刀達が洛陽で騒いでいる頃、

虎牢関にたどり着いた連合軍は

袁紹軍本部

華琳「ちよつと麗羽、あなたのところから怪物が出てきたって聞いたけどどういうことよ！」

雪蓮「怪物を暴れさせるなんて何考えてるのよ！」

自分も怪物を出して暴れさせたくせに

各諸侯が袁紹軍本部に詰め寄ってきていた。

理由は突然出てきた怪物アマノジャクイマジツについてである。

しかし責められている麗羽は

麗羽「怪物を出してるのはわたくしだけではありませんわよ！ブ男さんなんか四匹も怪物を出しているではありませんか！」

開き直って矛先を一刀に向けるように仕向けたが

桃香「でも北郷さんって今は袁紹さんの客将なんですよね、部下の責任は上司の袁紹さんの責任じゃないですか!？」

桃香に返されてしまった。

麗羽「あんな人はわたくしとはもう関係ありませんわ！」

麗羽がキシながら言つと

袁紹軍兵士「大変であります!？」

袁紹軍兵士が入ってきた。

袁紹軍兵士「軍義中ではありますが報告します!赤・青・黄・紫の怪物達が我が軍の兵糧じゆうりやうを盗んでいます！」

麗羽「何ですつて!？」

兵糧とは兵士のご飯である。

慌てて麗羽達が外に出てみると

モモタロス「おらよっ！」

ドカツ!

ウラタロス「ごめんなさいね」

キンタロス「食い物もらつていくで」

リュウタロス「もらつてもいいよね?答えは聞いてない！」

実体化したモモタロス達が袁紹軍の兵糧を盗んでいた。

麗羽「何してますのあなた達!!」

麗羽が怒鳴ると

モモタロス「さっきの話は聞かせてもらったぜ。俺達はもうお前の部下ではないのでね」

ウラタロス「そこでデンライナー使用料と今まで散々濃き使った迷惑料とみんなに嘘ついた罪として食糧もらっていくよ」

ドキッ!?

このウラタロスの嘘ついた罪という言葉に麗羽が反応した。

何故なら麗羽は董卓が皇帝のお気に入りなのが悔しくて董卓は悪人だと言いつらして周りを騙していたのだ。

しかし麗羽は

麗羽「何のことだか分かりませんわ!?それより皆さん何をしますの!こいつらは総大将であるわたくしに逆らった逆賊ですよ! さっさと殺しなさい!これは総大将命令ですわ!!」

しかし周りは

じつ〜

麗羽を白い目で見ていた。

とにかく今わかることは麗羽よりもモモタロス達の方が信用できるとみんなが思っていたからだ。

モモタロス「あっ！そうだ袁紹、一つ忘れていたことがあったぜ」
食糧を背負ったモモタロスが言って

麗羽「何を忘れましたの？」

スッ！

麗羽が不意に近付いた瞬間！？

ドカッ！

麗羽はモモタロスに殴られた。

モモタロス「一度テメエの顔を殴ってみたかったんだよな 連合軍は解体したらしいからもうお前は総大将じゃないんだしスカッとしたぜ」

スッ！

そしてモモタロスの姿が消えていった。

もちろんモモタロスだけでなく

ウラタロス「じゃあね桃香ちゃん達」

スッ！

キンタロス「また出会ったらよろしゅうな」

スッ！

リュウタロス「僕もおばさん殴りたかったな」

スッ！

ウラタロス達も消えていった。

そして兵糧を奪われたあげく、殴られた麗羽は

麗羽「キーツ！！ わたくしに恥をかかして覚えてらっしゃいよあな
なた達！！」

散々恥をかいたのだった。

しかし一部のものは気付いていた。

桃香・華琳・雪蓮『（そっいえば一刀がないけどどこなの？）』

その頃一刀は

「一刀」どうやらいいタイミングだったようだな」

「パーッ！」

丘の上で変身を解いていた。

ここで何が起きたのか説明しよう

まずモモタロス達が気体のまま連合軍本部に到着。

その後、一刀がOVERボタンを押すことでモモタロス達は実体化する。

モモタロス達が本部で大暴れし、その間に一刀が月達を洛陽から逃がす。

後は追い付いてこれない位置まで逃げたところで変身を解く。

これが全てだったのだ。

そして気体のままモモタロス達が戻ってくると

モモタロス「あのくるくるおばさんを殴れて気分がスカッとしたぜ

ウラタロス「ここまで来れば連合軍もすぐには来れないだろうしね

キンタロス「しかし、黄巾党首領に続いて魔王董卓までかくまうなんて俺はお尋ね者になるかもな」

リュウタロス「僕、別に気にしないし」

一刀達が話していると

一刀「それにしても君達もついてきてよかったのかい？」

実は月と詠以外についてきた人がいた。

恋「…行くところない」

ねね「ねねは恋殿についてきているだけなのです！」

恋とねねだった。

月「でもいいんですか？私達をかくまったせいで一刀さん達がお尋ね者になったら…」

月が言うと

一刀「別に気にしなくていいよ、俺達がお人好しなだけだからさ」

一刀はそう答えるのだった。

しかしその頃、

見知らぬ不気味な神殿では

？「北郷は反董卓連合に生き残ったようですよ」

眼鏡をかけた男と

？「今度こそ北郷を殺せると思ったのにこの外史の人間の望みが弱すぎるからあんな弱いイマジンしか生まれられないんだ！もつと強い望みさえあれば必ずや北郷を！！」

銀髪の男がイラついていた。

？「左慈、そんなにイラついていると血圧上がりますよ」

左慈「うるせえんだよ于吉！テメエはもう少しましな傀儡兵を用意しやがれ！」

于吉「はいはい」

恋姫世界での一刀の電王としての戦いは始まったばかりかもしれない

#21 「洛陽脱出・黒幕あらわる」(後書き)

次話からは展開がオリジナルになっていくかもしれません。

#22「デネブ登場」

一刀達が洛陽を脱出した後、

各諸侯はそれぞれ自分の領地に帰っていった。

袁紹軍

麗羽「キーツ！！ あのブ男さん達め、よくもこのわたくしを侮辱し、頬を殴ってくれましたわね！」

麗羽は反董卓連合にて一刀達に恥をかかされたことに腹を立てていた。

麗羽「こうなったら斗詩、紙と筆を持ってきなさい！」

斗詩「何する気ですか麗羽様？」

スッ！

斗詩が紙と筆を渡して質問すると

麗羽「決まってるではありませんの！ブ男さん達をお尋ね者にして回りの賊達に襲わせますのよ！！！」

ちなみに自分達でやらない理由は一刀達の実力が自分達をはるかに上回っているからである。

そしてこの数日後

麗羽はコピー機のないこの世界でたくさんの方名手配書を書き上げた。

・次の者達は悪人である。

捕縛・あるいは殺した証拠を持ってきた者には望むものを与える。

・天の御遣いと名乗る男、北郷一刀

・凶暴な赤鬼、モモタロス・詐欺師な青亀、ウラタロス

・剛力の黄熊、キンタロス・イタズラ好きな紫龍、リュウタロス

大將軍 袁紹本初

この手配書がおおやけになるのはその数日後だったという。

しかし、カメラのないこの時代に人相書きは難しく、また麗羽は絵が下手くそだったため全然似てない人相書きができてしまったので一刀達の行方はわからなかったという

その頃、一刀達はとある村に来ていた。

モモタロス「まったくもうあいつらめ！」

一刀「仕方ないだる月達にも護衛が必要なんだからさ」

モモタロス「クマ公はとかくカメ公とがきんちょは私的だろうが！」

ウラタロス達はデンライナーにて月達の護衛をしていた。

のだが、モモタロスのいう通り

デンライナー内

月「ウラタロスさんお茶が入りましたよ」

ウラタロス「うーん 月ちゃんの入れてくれるお茶は美味しそうだね」

スッ

ウラタロスが月の手を触ろうとすると

パシンッ

詠「月にきやすく触るんじゃないわよ！」

ウラタロスの手は詠に叩かれた。

ウラタロス「痛いけどことういうのもありかもね!？」

恋「…ZZZZ」

キンタロス「グオーッ！」

ねね「恋殿の昼寝の邪魔するななのです！」

ドカッ!

ねねはキンタロスに蹴りを繰り返すが

ねね「足を挫いた（くじいた）のです〜!？」

キンタロスの体は硬いため、逆にねねが足を痛めてしまった。

リュウタロス「セキトと張々かわい〜」

動物好きなリュウタロスはセキト達とじゃれあっていた。

キンタロス以外は私的で残っていた。

一刀「まあ何かあればすぐにでも呼べばいいしさ」

モモタロス「そういう問題じゃねえ!! 残るのは別に構わないんだが問題は…」

モモタロスが最後まで言う前に

天和「早く来てよ一刀〜!」

地和「荷物持ちが遅れてどうするのよ!!」

人和「次はあの店の装飾品を買いましょう」

一刀とモモタロスは張三姉妹の荷物持ちとなっていた。

モモタロス「なんで俺達がいいつらの荷物持ちしなきゃいけないんだよ!!!」

一刀「まあまあ、天和達だけじゃあイマジンが出た時危ないからな!?」

モモタロス「ム力つくぜ!こんなことになるならやっぱりあいつらを洛陽に置いてくればよかったぜ!」

モモタロスが愚痴を言っている

天和「これって何だろう?」

天和達はある一軒の小さな店を覗いていた。

?「お姉さん、よい目をしてるね!これは全自動竹箆編み機と言ってこのハンドルを回すと竹箆ができるんだよ」

手で回す時点で全自動ではない

?「では一つ実験を…」

男がハンドルを回そうとすると

ポキンッ

男の力が強すぎてハンドルが折れてしまった。

？「何てこつた！？売り物を壊してしまうなんて、また李典さんに怒られてしまう！？」

男が暴れていると

一刀「何があつたんだ？」

一刀が店に近寄ってきた。すると

男「んっ！？」

男は一刀を見つめると

男「モモタロスじゃないか久し振りだなあ」

ギョッ

一刀「えっ！？」

男は一刀に抱きついてきた。

モモタロス「お前、俺が見えるのかよ！？誰だ？」

モモタロスはデンライナーを出ているので気体の姿である。この状態では一刀と実体化したイマジン以外見ることはできない。

男「俺だよ！俺」

バサッ

男は変装を解くと

モモタロス「お前は…!?!?」

男の正体が明らかになると

モモタロス「おデブじゃねえか!?!?」

デネブ「俺の名前はおデブじゃなくてデネブだってば」

そこには黒ずくめの体にカラスのような仮面をつけたイメージンがいた。

このイメージンはモモタロス達の知り合いのデネブであった。

モモタロス「お前どうしてこんなところに!?!?」

デネブ「そっちこそどうしてここにいるんだ!?!?野上はどうしたんだよ!?!?」

モモタロスは事情を説明した。

デネブ「なるほど、野上の友人の一刀が電王になって、その時にこの世界に飛ばされたわけか」

モモタロス「おデブはどうしたんだよ?」

モモタロスが聞くと

デネブ「俺か、俺はなあ」

この会話にモモタロスの姿が見えない天和達は入れなかった。

天和「あのおじさん壁に話しかけてどうしたんだろう？」

地和「変人なんじゃないの？」

人和「多分あの壁の方にモモタロスがいると思うわね」

デネブは実体化しているので見えるがモモタロスは見えないので複雑な気持ちであった。

デネブ「実は侑斗と喧嘩してしまっ…」

侑斗とはデネブの契約者である桜井侑斗であり、仮面ライダーゼロノスなのだ。

デネブの話聞いてみると

時の道をゼロライナーで移動中

デネブ「侑斗、朝御飯ができたよ」

侑斗「気がきくじゃねえかデネブ」

しかし、侑斗は箸を持って朝御飯を見てみるとあることに気がついた。

侑斗「お前、椎茸入れたらう」

侑斗は椎茸が大の嫌いである。

デネブ「たまにはいいかなと思ってね」

デネブが浮かれながら言うと

侑斗「お前、俺が椎茸嫌いなのを知ってわざと入れたんだろっが！
」

ブンツ！

デネブ「わぁーっ!?!」

侑斗にともえ投げされたデネブはそのままゼロライナーから落とされてしまい、

ドスンッ！

落ちた先がこの店の真上だったのだ。

デネブ「いたた…侑斗も好き嫌いしないで椎茸食べればいいのに」

デネブが起き上がると

？「こちらお前!!」

デネブ「えっ!?!」

デネブが声のする方を見てみると

そこには上半身ビキニのような服を着た女の子が怒っていた。

？「お前、うちの竹箆壊しおってからに弁償せい！」

スッ！

女の子が手を差し出すと

デネブ「すいませんでした。これは少ないですが…」

スッ

もちろんデネブが出したのは日本円でありこの世界で通じるわけがなく

？「こんな金が使えるか！」

ポイツ

デネブの金は捨てられた。

？「金が払えないなら壊した竹箆代金分働いてもらおうで！」

デネブ「えっ!?!」

現在

デネブ「というわけなんだ。頼む、親友のよしみで竹箆一つ買ってくれ！」

必死になって頼むデネブだが

「刀「買ってあげたいけれどもお金ないし!？」

天和「そんな籠ほしくない」

拒否られてしまった。

デネブ「ああ…!?!?これではまた李典さんに怒られてしまう」

デネブが嘆いていると

?「こらっ!おデブ!」

デネブ「李典さん!？」

デネブの後ろに李典が立っていた。

李典「お前、竹籠売らんと油売るなんてなに考えてんねん!」

デネブ「うまいしゃれですね」

デネブが茶化すと

ガツンッ!

デネブは李典が取り出したドリルに叩かれた。

李典「怠けてたら飯抜きにするで！」

これを見てさすがにデネブがかわいそうだと思った一刀が李典を止めようとしたとき

人々『わあー！？わあー！？』

村の奥から人々の叫び声が聞こえてきた。

李典「あっちの方角には確か沙和が店を出していたはず！？待つとれや沙和」

ダッ！！

李典は村の奥めがけて走り出した。

一刀「もしかしてイマジン騒ぎかもしれない！？俺達も行くぞ！」

モモタロス「よし、俺はカメ公達を呼んでくるぜ」

デネブ「なんだか知らないけど俺もいくよ！？」

そして一刀達も李典の後についていった。

いち早く李典が村の奥にたどり着くと

李典「なんやねんあの化け物は！？」

李典の目の前には

パンプキンイマジン「買えーっ！
」

パンプキンイマジンが暴れていた。

#22 「デネブ登場」 (後書き)

イマジンファイル

・パンプキンイマジン

『シンデレラ』のカボチャをイメージしたイマジン。伸縮自在の蔓つるを伸ばして攻撃する。

#23 「掟やぶりのゼロノス見参」

李典が向かった先にはカボチャの姿をした化け物であるパンプキン
イマジンが暴れていた。

パンプキンイマジン「買えーっ！」

李典「なんやねんあの化け物は！？そんなことより沙和はどこにい
るんや！？」

李典が沙和を探していると

？「誰か助けてなの〜！」

どこからか泣き叫ぶ声が聞こえてきた。

李典「この声は沙和！？あっちの方やったな」

ダダッ

李典が声のする方へ走っていくと

？「もうやめてほしいなの〜！」

そこにはオレンジ色の髪で眼鏡をかけたそばかすの女の子がいた。

李典「沙和、無事やったんやな！？」

その眼鏡をかけた女の子は于禁といい、真名を沙和という李典の知

り合いだった。

沙和「真桜（李典の真名）ちゃん怖かったの〜！」

ガバツ

沙和は真桜に抱きついて泣き始めた。

真桜「落ち着きや、いったいどないしたっちゅうねん!？」

真桜が沙和を落ち着かせて話を聞いてみると

沙和「あのね、竹箆が全然売れないから悩んでいたらね」

数時間前

沙和が竹箆が全然売れないので休んでいると

沙和「あゝあ、竹箆全然売れないの〜！これじゃあ沙和が売り上げゼロで負けちゃうの〜！誰でもいいから竹箆を全部買ってほしいの〜！」

沙和が叫んでいると

？「その願い、俺が叶えてやるぜ」

ズズズツ

突然沙和の後ろからパンプキンイマジンが現れた。

沙和「ホントに買ってくれるの〜？」

買ってくれるときいて沙和が聞くと

「パンプキンイマジン」俺が買うんじゃない、他人に買わせるんだよ

「

そしてパンプキンイマジンは

「パンプキンイマジン」買えーっ！」

「シュルシュルッ

手当たり次第に蔓を伸ばして人をつかむと

「パンプキンイマジン」竹籠買え！」

強引に売り付けるのだった。

もし断ったのなら

「パンプキンイマジン」くたばれーっ！」

「ポイツ

つかんだ人を投げ飛ばす行為をしていた。

「沙和」というわけで沙和がやめてって言うてもあのお化けはやめな
いの〜！」

真桜「そういうわけやったんかいな!？」

まさか自分の親友が怪物を出してしまったことに真桜が驚いていると

シユルルッ!

真桜「なっ!?!」

真桜はパンプキンイマジンの蔓に巻き取られた。

パンプキンイマジン「竹箆買えーっ!」

真桜「アホぬかすなや!なんでウチが竹箆を買わなあかんねん!」

真桜が買うのを拒否すると

パンプキンイマジン「くたばれーっ!」

ブンッ

真桜「わあー!?!」

パンプキンイマジンは真桜を壁の方に投げ出した。

あわや真桜が壁に激突しようとしたその時、

ガシッ!

デネブ「なんとか間に合ったようだな」

デネブが現れて真桜を激突寸前で受け止めた。

真桜「おデブ、あんた…」

デネブ「貴様、李典さんを傷つけようとするとは許せん！俺が相手だ」

ドドドーッ！！

デネブは指先が銃口になっている手をパンプキンイマジンに向けるためちやくちやくに撃ち出した。

パンプキンイマジン「ちっ！カボチャモード」

スッ！

パンプキンイマジンは人型から巨大力ボチャに変身すると

カカカンッ！！

デネブが撃った弾丸を全て防いだ。

デネブ「くそっ！食物系のイマジンはああいうことができるから厄介だ」

食物系イマジンは食物に変身して大きくなったり、完全防御することができるとだ。

スッ！

パンプキンイマジンは再び人型に戻ると

パンプキンイマジン「食らいやがれ！」

シュルルッ！

蔓を伸ばしてデネブに襲いかかる。

ギョッ

デネブ「しまった！？」

デネブはまんまと捕まってしまった。

パンプキンイマジン「お前なんて一刺しだぜ」

ググッ！

パンプキンイマジンは蔓の先を鋭く尖らせると

パンプキンイマジン「くたばれーっ！」

シュルルッ！

蔓の先をデネブめがけて襲いかかった。

デネブ「動けない！？」

両手を縛られて動けないデネブに危機が訪れる!?

だが

一刀「はあ!」

ズバツ!

横から一刀が現れて蔓を斬った。

デネブ「北郷、来てくれたのか!？」

一刀「イマジン退治は俺も専門なんでね」

二人が話していると

パンプキンイマジン「おのれ貴様!!」

シュルルッ

パンプキンイマジンは蔓を一刀に向けて襲いかかった。

しかし一刀は慌てない。

一刀「そろそろかな?」

パカッ　　ポチッ

一刀はあらかじめ巻いていたデンオウベルトを開けてボタンを押すと

ベルト『OVER』

パーツ

一刀の体は仮面ライダー電王プラットフォームに変身した。

それと同時に

ズバツ！

モモタロス「俺、参上！」

ウラタロス「久し振りだねデネブ」

キンタロス「こうしてまたお前と会えるとはなあ！」

リュウタロス「わーい おデブちゃんだ」

気体として一刀の回りにいたモモタロス達が実体化した。

デネブ「カメラロス、クマゴロー、リュウタ！来てくれたのか！？

」

デネブはモモタロスと同じように名前を間違える癖があった。

パンプキンイマジン「貴様が電王だったとはな、そうだとわかれば
いでよ傀儡兵！」

ババツ！

パンプキンイマジンが言うと傀儡兵がたくさん出てきた。

モモタロス「ふんっ！こんなザコ共はクライマックスフォームで瞬殺しようぜ！」

一刀「いくぞみんな！」

モモタロス達「おうっ」

ババツ！

一刀が言うとモモタロス達は四方に散らばり

モモタロス「1」

ウラタロス「2」

キンタロス「のっ」

リュウタロス「3」

ダダッ！

モモタロス達はタイミングよく一刀に向かうが

シュルルツ　ガシッ！

モモタロス「のわっ!？」

パンプキンイマジンの蔓がモモタロスの足をつかんで

ドッシーン!!

モモタロス「いつてー!？」

モモタロスを転けさせた(こけさせた)。

その結果

ドッカーン!!

クライマックスフォームの変身に失敗してしまい、一刀の体は爆発した。

一刀「ケホケホッ!？」

しかし、爆発といってもバラエティー並みの爆発だったので一刀は無事だった。

しかし、一度クライマックスフォームの変身に失敗してしまうと次に変身するためには時間がかかるのだった。(その間、他のフォームへの変身も不可能)

ウラタロス「もうっ! センパイが転げるからいけないんだよ」

キンタロス「足を引っ張られたくらいで転げるなや!」

リュウタロス「モモタロスのバクカ！」

モモタロス「うるせえ！だったらお前らが捕まってみやがれ！」

一刀「みんな喧嘩するなつて！」

そして一刀達が喧嘩をしている隙に

シュルルッ

パンプキンイマジンの蔓が忍び寄ってきて

ギユッ！

一刀達を捕まえてしまった。

一刀「しまった！？」

モモタロス「俺としたことが油断したぜ！？」

ウラタロス「油断大敵だね！？」

キンタロス「俺の力でもこの蔓切れへんで！？」

リュウタロス「わく！？」

一刀達は捕まったあと、上空に上げられると

パンプキンイマジン「このまま離して落下させるのもいいがそれだとつまらないからな」

パカッ

パンプキンイマジンは大きく口を開けると

パンプキンイマジン「パンプキンシード！」

シュシュシュンッ

パンプキンイマジンの口からカボチャの種が飛び出してきて一刀達を襲う。

この時、デネブは戦えないことを悔やんでいた。

デネブ「くそっ！ゼロノスベルトはあるのに助けにいけないだなんて俺はなんて無力なんだ！」

そんなデネブの肩に

ぽんっ

と、手をおく人がいた。

デネブがそっちの方を見てみると

恋「…それ貸して、恋が変身する」

そこには恋がいた。

実はモモタロスがウラタロス達を呼んできた際に着いてきたのだ。

ゼロノスベルトを見た恋が変身すると言つと

デネブ「ホントにいいの!?」

そして改めてデネブが聞いてみると

恋「…恋も一刀達の役に立ちたいけどイマジン相手じゃ無理だから変身する」

さすがに三国最強といわれる恋もイマジン相手ではかなわなかった。

恋の言葉を聞いたデネブは

デネブ「わかった!このゼロノスベルトを君に託そう!」

スッ

ゼロノスベルトを恋に渡した。

恋「…ありがとう」

そして恋は一刀と同じように渡されたライダーチケットをベルトに当ててみると

ベルト『ALTAIRFORM』

カチャカチャンッ

そして恋の姿は

仮面ライダーゼロノス・アルティルフォームへと変身した。

#23 「掟やぶりのゼロノス見参」(後書き)

西森のちよつとした小話

実を言うとこの話は最初はオーズの董卓 で考えていましたが書き出した当初ではまだオーズに関する情報が少なく、途中でネタギレを起こしたため打ち切ったところ次の話を考えているときにふと話が浮かんだのが電王だったというわけです。

#24「ダブルライダー大暴れ！」

恋が仮面ライダーゼロノスに変身した。

これを見たパンプキンイマジンの夢に捕まった一刃達は

モモタロス「マジかよ!？」

ウラタロス「恋ちゃんの変身するなんて!？」

キンタロス「驚きやで!？」

リュウタロス「すつごーい!？」

一刃「あれがゼロノスか!？モモタロス達から話は聞いていたがすごいな!？」

みんなが驚いていた。

パンプキンイマジン「誰だ貴様は!？電王の仲間か!？」

言われた恋は

ビシッ!

指を立てて腕を上げると

ゼロノス恋「…最初に言う、恋はかゝなり…」

恋が最後まで言おうとする

グキョーッ！！

恋のお腹が盛大に鳴り響いた。

そして

ゼロノス恋「…お腹が空いている」

ズコッ！

この恋の言葉に敵味方がまわす回りのみんながずっこけた。

パンプキンイマジン「ふざけやがって！！傀儡兵ども、構わないからあいつも殺っちまえ！」

傀儡兵達『ギョーッ！』

ダダッ！

パンプキンイマジンの指示を聞いた傀儡兵達は一斉にゼロノス恋に向かってきた。

しかし、

サッ！サッ！サッ！

もともと身体能力の高い恋が仮面ライダーになったのだからその動

体視力は傀儡兵の攻撃を軽く避けてしまうほどすごいものであった。
もちろん上がったのは動体視力だけではなく、

スッ！

恋はゼロノスの武器であるゼロガツシャー・サーベルモードを取り出すと

ズババツ！

次々と傀儡兵達を切り刻んでいった。

デネブ「いいぞ！そこでゼロガツシャーをボウガンモードにチェンジして遠距離攻撃だ！」

ゼロノス恋「（…こくりっ）」

カチャカチャンツ

恋はデネブの指示通りゼロガツシャーをボウガンモードにチェンジして

ジャキンツ！

パンプキンイマジンに狙いを定めた。

ゼロノス恋「…くらえっ」

バシュンツ！

攻撃はパンプキンイマジンに放たれたが

チュンツ！

モモタロス「のわっ！？あぶねえ！？」

何故か攻撃はモモタロスを掠めて（かすめて）いった。

ゼロノス恋「…？」

恋は首を傾げて悩み

バシユンツ！バシユンツ！

続けて何発か撃ってみた結果、

チュンツ！

モモタロス「ひっ！？」

チュンツ！

モモタロス「のわっ！？」

何故か全弾モモタロスを掠めていった。

モモタロス「お前、俺に怨みでもあるのかよ！」

ゼロノス恋「(…ふるふる)」

恋は首を横に振る。

もちろん銃口が曲がっているわけでも、パンプキンイマジンがモモタロスに当てようとしているわけではなく

ただ恋は遠距離武器の扱いが下手なだけだった。

それを見て見兼ねたデネブは

デネブ「こうなったら仕方がないっ！とおっ！」

デネブは恋の後ろから飛び込むと

スッ！

そのままゼロノスの体の一部になり

ベルト『VEGA FORM』

パーッ！

恋は仮面ライダーゼロノス・ベガフォームに変身した。

ベガデネブ「最初に言っておく！…」

このときのゼロノスはデネブが主人格なのだ。

ベガデネブ「俺はかゝなり、優しい！」

シーン…

別にどうでもいいことだった。

パンプキンイマジン「ふざけやがって！！傀儡兵どもさっさとあいつを片付けちまえ！」

傀儡兵達『ギイーツ！』

傀儡兵達はゼロノスに向かっていった。

ベガデネブ「もうお前達なんて怖くないぞ！」

スッ！

ベガデネブはライダーパスを取り出すと

ベルト『フルチャージ』

キュイーンッ！！

パスをベルトに当てた後、ボウガンモードにエネルギーを溜めて傀儡兵達に向けた。

ベガデネブ「グランドストライク！」

チュドンッ！！

溜められたエネルギーが傀儡兵達をまとめて吹き飛ばした。

パンプキンイマジン「くそっ！！役に立たない奴等だぜ！こうなったら俺が相手だ！」

シュルルッ！

パンプキンイマジンはゼロノスに蔓を伸ばしてきた。

ベガデネブ「もうこんなものは怖くないぞ！」

ズババツ！

しかし、ゼロノスは蔓を次々と斬っていく

ベガデネブ「やはりそうか、この蔓はライダーにしか斬れないらしいな。でなければクマゴローの怪力でちぎれるはずだ」

パンプキンイマジンの蔓の秘密が明かされた。

パンプキンイマジン「おのれ〜！だったらモードチェンジだ！」

シュルルッ

パンプキンイマジンは巨大カボチャに変身した。

パンプキンイマジン「俺の防御は世界一だぜ」

ゴオッ！！

パンプキンイマジンが巨大力ボチャになってゼロノスに襲いかかってくるが

ベガデネブ「かかったな」

ニヤリと笑うベガデネブ

パンプキンイマジン「何がおかしいんだ!？」

パンプキンイマジンが聞くと

ベガデネブ「お前がカボチャになるには蔓に掴んだものを離さなければ変身できない。だから俺はわざとお前をカボチャに変身させたのさ、掴んでいた一刀達を離すために！」

ベガデネブの言う通りであった。

パンプキンイマジンが巨大力ボチャに変身するためには掴んでいたものをいったん離さなければならぬのだ。それによりさっきまでパンプキンイマジンに捕まっていた一刀達は

一刀「ありがとうデネブ！」

バツ!

蔓から解放された

パンプキンイマジン「しまったー！？貴様、最初からそれを狙って
！？」

ベガデネブ「それも理由の一つだがもう一つの理由は時間稼ぎさ」

そう、デネブは戦いが長引くように時間稼ぎをしていたのだ。その
理由は

モモタロス「俺達に変身できるようにするためだからだよ」

モモタロスの言う通りすでに電王に変身できる時間になっていた。

「刀」それじゃあいくぜみんな！」

モモタロス達『おうっ！』

ババツ！

モモタロス達は四方に散らばり、そしてまた同じ場所に走っていた。

モモタロス「いちっ」

ウラタロス「に」

キンタロス「のっ」

リュウタロス「さんっ」

ダダッ！

ガッ！

そしてモモタロス達のタイミングがうまく合つと

ベルト『CLIMAXFORM』

ガチャガチャンツ！

一刀の体は仮面ライダー電王・クライマックスフォームに変身した。

クライマックス電王「一気にいかせてもらつて！」

スッ！

クライマックス電王は拳を立てると

ベルト『フルチャージ』

バチバチッ

右腕に力がみなぎってきていた。

これを見たパンプキンイマジンは

パンプキンイマジン「やばい！？あれをくらつたらいくら俺でも殺られる！？」

ピューッ！

巨大カボチャのまま逃げようとするが逃げた先には

ベガデネブ「まてっ！お前も悪の者なら正義の技を食らって散りなさい」

ベガデネブがいた。

パンプキンイマジン「んなもんしるかー！！」

ゴオッ！！

パンプキンイマジンはベガデネブに突撃しようとするが

ベガデネブ「あわれなり」

スッ！

ベガデネブはベルトにパスを当てると

ベルト『フルチャージ』

バチバチッ！！

ベガデネブの持つゼロガツシャー・サーベルモードに力が溜まっていった。

そして

クライマックスK電王「ボイスタースパンチ!!!」

ブンッ!

ベガデネブ「スプレントッドエンド!」

ズババツ!

二人の技を同時に食らったパンプキンイマジンは

パンプキンイマジン「ギャーッ!?!」

ドッカーン!!

そのまま爆発していった。

そして

パツ!

デネブ「ありがとう恋」

ゼロノスの変身が解けてデネブが恋にお礼を言おうとすると

バタッ!

恋はその場に倒れてしまった。

デネブ「恋！？、大丈夫か！？」

スツ

デネブが倒れた恋を抱き起こすと

恋「…変身って以外と疲れるし、お腹空く」

グキユ〜ツ！！

恋はお腹が空いて倒れただけだった。

そしてしばらく時間がたち、

沙和「ごめんなさいなの〜！！沙和があんな怪物にお願いしたから町がめちゃくちゃになって！」

イマジンの出た理由が自分にあると知った沙和は一刀達に謝っていた。

一刀「もういいよ、それに俺に謝られても困るしさ」

一刀が言うと

真桜「せやかてアンタとおデブが助けくれへんかったら大変なことになってたんやしな。おデブ、さっきは助けてくれてありがとう

」

真桜がデネブに礼を言うと

デネブ「お礼だなんてそんな／＼それよりも李典さん…」

真桜「真桜や、わかっとなるそいつらと一緒にいきたいんやる。壊した竹籠代は命を救ってくれたということでチャラにしたるからさっさと行きや」

真桜が言うと

デネブ「ありがとう真桜さん。またどこかで！」

そしてデネブは一刀達と一緒に旅をすることになった。

一刀達が去って少しした後

？「真桜・沙和、無事だったのか!？」

真桜・沙和『ふた 呷!？』

そこに二人の親友である楽進（真名を呷）が現れた。

呷「町の奥の方で怪物が出たらしいが何かあったのか？」

呷は町外れにいたので現状を知らなかった。

真桜「何でもないんやってなあ沙和」

沙和「そうなの、何もなかったの、それより呷ちゃんの手にかがあるの」

沙和は話題を変えようと凧の持っていた紙に注目した。

凧「これか？これは手配書らしい。極悪人らしいのだが」

真桜「ほっつ、どれどれ？」

沙和「どんなすごい面してるの？」

二人が手配書を見ると

絵が下手くそだったがそれは一刀達に似ていた。

真桜「（あいつらそんな悪人やったんか！）」

沙和「（知ってたら差し出してお礼もらっておけばよかったの？）」

助けてくれた恩を忘れて袁紹に差し出そうと考える二人だった。

#25 「アルバイト大作戦」

新しく一刀達の旅にデネブが加わった。

これにより一層騒がしくなったデンライナーであった。

デンライナー内

恋「…パクパクッ。デネブのご飯美味しい」

デネブ「それはありがとう恋」

あの後、みんなから真名を許されたデネブだった。

ねね「悔しいですがホントに美味しいのです!？」

ねねは恋と合体したデネブの加入に不満を抱いていたが恋に言われて無理矢理納得したようだ。

月「はい、コーヒーですよ」

ウラタロス「うーん やっぱり月ちゃんが入れてくれるコーヒーが一番美味しいよ」

ガンツ!!

詠「調子にのるんじゃないわよこのバカ!」

詠はお盆でウラタロスを殴った。

リュウタロス「セキトと張々かわい」

相変わらず動物達と遊ぶリュウタロス

キンタロス「グオーツ！」

地和「ちよつと！ちいの話を最後まで聞きなさいよ！」

天和「またキンちゃん寝ちゃったね」

人和「ちなみに起こしても無駄だからね」

地和「ムキーツ！！」

最後まで話を聞いてくれないキンタロスに怒る地和

そしてみんなの様子を見ていたモモタロスと一刀は

モモタロス「いつの間にか人数が増えちまったな」

一刀「そうだよな」

最初是一刀達五人だけだったのが今では十三人に増えていた。
（張
三姉妹・月・詠・恋・ねね・デネブ）

人数が増えて心地好い気もするのだが、問題も発生していた。

その問題とは!?

「刀「お金がないから働こう！」

金銭面での問題であった。

現在持っているお金は張三姉妹の少ない貯金と月の財布の金だけである。

しかもその僅かな金さえも張三姉妹の私物（服や装飾品代）浪費、恋の食事代として消えてしまい、残りは数えられるほどしかないのであった。

「刀「ということどこかで働こうと思うんだけどどうかな？」

確かにいい案なのだが色々問題があった。

モモタロス「働くのは別に構わねえけどよ、俺達はデンライナーの外じゃあ人には見えないし、触ることもできないんだぜ」

ウラタロス「ずっとOVERボタンを押し続けるわけにはいかないしね」

キンタロス「おまけに実体化できても俺らの姿見たらみんな逃げるんとちゃうか？」

リュウタロス「それって無駄なんだよね」

正統派のモモタロス達に対し、

天和「働くのきらい！」

地和「ちい達を働かせる気なの！」

詠「月を働かせるなんて絶対反対よ！」

わがままを言うメンバーがいた。

一刀「かと言ってお金を稼がなくちゃいけないしどうしよう？」

一刀が悩んでいると

デネブ「ならモモタロス達は着ぐるみを着たらどうだろうか？俺が着ぐるみを作るからさ」

その手があった！

そしてデネブが着ぐるみを作った後で各自はお金を稼ぐために分かれていった。（もちろん、危険がないようにそれぞれにイマジンを護衛として付けていた）

一刀組

ウラタロス「はあ、なんで僕が一刀と一緒になの？」

一刀にはペンギンの着ぐるみを着たウラタロスが付いていた。

「刀「お前を女の子と一緒にしたら絶対デートするからだよ！」

月・詠組

詠「月に手を出したら容赦なく殴るからね！」

モモタロス「スケベ亀じゃあるまいし、誰が手を出すかよ！」

月「二人とも、喧嘩しないでください！」

月達には狼の着ぐるみを着たモモタロスが付いていた。

張三姉妹組

キンタロス「グオーッ！」

天和「こんな道端で寝ないですよ！」

地和「これじゃあどっちが護衛か分からないじゃない！」

人和「行く先が大変ね!？」

張三姉妹には象の着ぐるみを着たキンタロスが付いていた。

恋・ねね組

リュウタロス「恋ちゃんはどっやって稼ぐの？」

恋「…大食いか力比べ」

ねね「こらっ！あまり恋殿に近寄るななのです！」

恋達には龍の着ぐるみを着たりユウタロスが付いていた。

デネブ

デネブ「俺は一人でも大丈夫だから飯屋のアルバイトでも探すかな

」

かくしてそれぞれがアルバイト先を決めるのだった。

そんななか、左慈は

左慈の城

于吉「左慈、さっきから何してるんですか？」

左慈「今、遠くの方で暴れているあいつらを呼び戻してるんだよ。ライダーに勝つにはあいつらに頼るしかないからな」

于吉「あいつらというあまりの暴れっぷりに左慈が遠くの方に放したという三国兄弟ですか！？」

左慈「そうだよ。しかしライダー達に邪魔されても困るからこいつをライダー達の足止めに向かわせるさ」

スッ！ シュッ

左慈は懐から二枚のお札ふだを取り出してそれを投げると

ムクムクッ

お札がみるみるうちに怪物の姿になっていった。

ラクーンイマジン「ポンポコポンッ」

ラビットイマジン「ピョンッ！」

左慈「お前達は三国兄弟が来るまでの間、ライダー達の足止めをしておけ！」

左慈はイマジン達に命令し、送り出していった。

#25 「アルバイト大作戦」(後書き)

イマジンファイル

・ラクーンイマジン

・ラビットイマジン

昔話『かちかち山』の狸とウサギをイメージされたイマジン。ラクーンイマジンは背中から火を吹き、ラビットイマジンはしびれ薬を相手に塗りたがる。

#26「アルバイトの邪魔物払い」

一刃達はそれぞれに分かれてアルバイト作戦を開始した。

張三姉妹サイド

天和・地和・人和「前髪かすめた…」

張三姉妹は正体を隠してミニライブを開き、そこそこ稼いでいたが

キンタロス「グオーツ！」

歌の途中でキンタロスの躰が雑音として入り、ミニライブの邪魔をしなければもつと稼げたかもしれないが

ライブ終了後

地和「またちい達の邪魔してくれちゃって！ちよつと聞いているの！」

キンタロス「グオーツ！」

天和「あはっ！キンちゃんすっかり寝ちゃってるね」

人和「まあいくらかは稼げたから良しとしましょうよ」

張三姉妹達はその場を移動しようとする

チビ「よう、姉ちゃん達！」

デク「俺達と逢い引き（デート）しようなんだな」

アニキ「ちょうど三人だし、いいだろ？」

チンピラ達が張三姉妹に絡んできた。

地和「おあいにくさま、ちい達はあんた達のようなブサイクとは歩きたくないの！」

天和「ごめんなさいね〜」

人和「さっさと行きましょう」

スッ

張三姉妹は先を行こうとするが

ガシッ

アニキ「ちょっとかわいいからって舐めるなよ姉ちゃん達」

チビ「力で女が男に勝てるわけないだろうが！」

デク「だな〜！」

張三姉妹はチンピラ達に捕まってしまった。

天和「やだっ！、放してよー！」

人和「やめてください！」

地和「ちよつとキンタロス、ちい達が捕まってるんだから助けなさいよね！」

地和は叫ぶがキンタロスは

キンタロス「グオーツ！」

相変わらず寝ていた。

アニキ「へんつ！そんな変な動物に何ができるかは知らないが泣きたくなければこつちに来な！」

そのとき、

キンタロス「泣く…！」

パチッ

キンタロスは目を覚ました。

キンタロス「俺の強さにお前が泣いた！」

ガバツ！

キンタロスが立ち上がると

アニキ「何なんだよこいつ！？」

チンピラ達は驚いていた。

忘れていた人もいるかもしれないが現在キンタロス達はそれぞれ着ぐるみを着ているのだ。

キンタロス「この娘らには指一本触れさせへんで！」

そう言うとキンタロスは

キンタロス「そりゃっー！」

ポイツ！

アニキ「あつゝ！？」

キーンツ ミ

アニキを遠くの彼方に投げ飛ばした。

デク「アニキ！？」

チビ「くそっ！おぼえてるよ！」

ダダッ！

二人は捨て台詞を言ってアニキが飛ばされた方角に走っていった。

天和「キンちゃんやるゝ！」

人和「以外と頼りになりますね！」

地和「ふんっ！ちいがお礼いつてるんだから感謝しなさいよね！」

三人はそれぞれ言うがキンタロスは

キンタロス「グオーツ！」

立ったまま寝ていた。

月・詠サイド

月「いらっしやいませ、ご注文は何ですか？」

月達はメイド服を着て飲食店で店員をやっていた。

詠「席が詰まってるんだからさっさと食べなさいよね！」

詠のツンデレメイドもなかなか好評だった。

そしてモモタロスはどうと

モモタロス「お客さん、俺の前で無銭飲食とは上等じゃねえか！ちよっと店の裏に来てもらおうか！」

モモタロスの立ち振舞いはまるでバーに雇われているヤクザのような立場だった。

月「仕事って楽しいね詠ちゃん」

月は喜んでいるが

詠「ボクは別に楽しくないよ！」

詠はいまいちだったようだ。

そんなとき、

アニキ「いたたく！？あの野郎、おもいつきり投げやがっておかげでチビ達と完全にはぐれちまったじゃねえか！」

キンタロスに投げられたアニキが店に入ってきた。

月「いらっしやいませ」

月が普通に接客すると

アニキ「嬢ちゃん可愛いじゃねえか」

ガシツ！

月「きゃっ！？」

アニキは月の腕につかみかかってきた。

詠「ちよっと！月に何するのよ！」

詠はアニキに注意するが

アニキ「うるせえんだよ！こちとら客だぜ！」

アニキは聞く耳を持っていなかった。

月「あのう、お客さんあまり店内で暴れない方が…」

アニキ「俺のことより自分の身の心配をしたらどうなんだ！」

月が注意してなおも暴れるアニキに対して

ポンポンッ

アニキ「何だようるせえな！」

アニキの肩が叩かれたのでアニキが振り向くとそこには

モモタロス「お客さん」

ドーンッ！

そこには狼の着ぐるみを着た怒りのモモタロスが立っていた。

アニキ「ビックリさせやがって！何の用だよ！」

するとモモタロスは

モモタロス「さっきから店内で暴れるんじゃないやねえよ！営業妨害だから出ていきやがれ！」

ドカツ!!

アニキ「またかよ〜!？」

キラッツ ミ

アニキはモモタロスに蹴られて遠くの彼方に飛ばされてしまった。

月「ありがとうございますモモタロスさん」

月がお礼を言うと

モモタロス「気にすんな! 奴がうるさかったから追い出しただけだ
／／／」

モモタロスは赤い顔して照れるのだった。

恋・ねねサイド

町のとある広場

リュウタロス「さあ、チャーハンの大食い大会だよ! 参加料を払ってこの人に勝てばお金は返すよ」

マイクを片手に解説をするリュウタロスの後ろには

恋「…まだまだ食べられる」

すでにチャーハンを百皿食べた恋がいた。

このチャーハンはデンライナーから持ってきたもので無限にチャーハンを作ることが可能なのだった。

すでに対戦相手を十人も沈めた恋の前に

デク「俺がやるんだな！」

ズンツ

デクが立ちはだかった。

ねね「参加者は参加料を払うのです！」

スツ

ねねはお金入れをデクの前に出すと

デク「金は後で払うんだな」

デクは自信があつて後払いすることになった。（ホントはお金を持つていないため）

リュウタロス「まあいいや！それではチャーハンの大食い対決始め！」

ゴォーーンツ！

リュウタロスの合図で銅鑼が鳴り響いた。

デク「（アニキを探していたらこんな大会を開かれていたなんて、大食いなら女相手に負けないんだな）」

デクは自信があったのだが

数時間後

リュウタロス「恋ちゃんの勝ち」

結果は25皿VS30皿で恋の圧勝だった。

デク「もうチャーハンなんて食いたくないんだな!？」

バタンツ

デクはその場に倒れた。

ねね「さっさと参加費を払うのです!」

ねねが言うとデクは

デク「んなもん始めから払う気なんてないんだな!」

ねね「何を!」

ねねは怒ってちんきゅうキックを繰り出そうとするが

リュウタロス「それってタダ食いだよね、悪いことする奴は許さない!」

パチンッ

リュウタロスは着ぐるみ姿で指を弾くと

チャラッチャラッチャー

周りの人間が躍りながらデクの回りを囲っていた。

デク「なっ何する気なんだな!？」

デクが驚いていると

リュウタロス「タダ食いする悪い奴は飛ばしてもいいよね? 答えは聞いてない!」

ポーンッ!

周りの人は力を合わせてデクを遠くの彼方に投げ飛ばした。

デク「あゝ!？」

キラッ
ッ

ねね「それにしてもお前、どうやって着ぐるみ着ながら指を弾けるのですか?」

リュウタロス「ちょっとしたコツがあるんだよ」

恋「…まだまだ食べられる」

一刀サイド

一刀「お願いしまーす」

スッ

一刀は簡単にビラ配りのバイトをしていた。

一刀「それにしても!？」

一刀がウラタロスの方を見てみると

ウラタロス「はあい!そこの彼女、僕からのビラを受け取ってくれない?」

女A「受けとります〜／＼」

女B「素敵な声の殿方様、お顔を見せてください〜／＼」

ウラタロス「男の素顔は謎のままの方がいいんだよ」

女達「きゃーっ／＼」

ウラタロスは着ぐるみを着たままナンパしていた。

「刀「もはやあいつは素顔でない限りモテるかもな」

とても素顔が怪物とは思えない男の台詞である。

そんなとき、

チビ「その姉ちゃん、俺と遊ばない？」

チビがナンパしていた。

が

女「アンタとなんてあり得ないし〜！」

見事にふられていた。

チビ「なぜなんだ〜！？」

チビが叫んでいると

ウラタロス「当たり前だよ、エビで鯛を釣るなんて無理に決まっているじゃん」

チビ「何を！なんだか知らないが馬鹿にしゃがって！」

エビで鯛を釣る…小さな利益で大きなものを得るといふ意味である。

チビ「この野郎！」

バツ！

チビはウラタロスに飛びかかるが

ウラタロス「あらよつと！」

サッ

ウラタロスは軽く避けると

ウラタロス「一刀、こいつをお願いね」

スッ

チビ「おわっ！？」

ウラタロスはチビを一刀の前に押し出すと

一刀「わかったぜ！」

スッ

一刀は拳を構えて

一刀「ぶっ飛びやがれ！」

ドカツ！！

チビ「あれーっ!？」

キラッ ミ

チビは遠くの彼方に飛ばされてしまった。

そして同時に

キーンッ!!

キーンッ!!

飛ばされたチビは同じく飛ばされてきたアニキとデクと遭遇した。

アニキ「何だよ!？お前らまで飛ばされたのかよ!？」

デク「アニキ、また会えて嬉しいんだな」

チビ「おれら三人、いつでもどこでも一緒っすね」

キーンッ!!

友情を感じていた三人が

ドシンッ!!

落ちた場所は

デネブ「やっつ、こいつらはお尋ね者の三人組、早く届けなければ

」

デネブがアルバイトをしていた警邏隊の詰所だったという。

#27 「ひび割れる友情」

一刀達がアルバイトをしてお金を稼いでいる頃

女「きゃーっ!？」

男「うわーっ!？」

村の奥の方が騒がしくなってきた。

一刀「この騒ぎはもしかして!？」

ウラタロス「絶対イマジンの仕業だよね」

一刀はイマジンの気配を感じると

一刀「いくぞウラタロス！」

ダッ!

ウラタロス「待ってよ一刀、着ぐるみじゃあうまく走れないんだよ!？」

ペタペタ

一刀とウラタロスは村の奥に走っていった。

店主「ちょっとあんたら!？給金もらわなくていいのかい!？」

給金もらわずに

村の奥

ラクーンイマジン「ポンプコーツ！」

ゴオーツ！！

背中から炎を出すラクーンイマジンと

ラビットイマジン「しびれ薬をくらいやがれっ！」

バシヤツ！

人々にしびれ薬をかけまくるラビットイマジンが暴れていた。

ラクーンイマジン「電王とゼロノスよ出てこいポコツ！」

ラビットイマジン「早く出てこないと村が大変になるぞー！」

あきらかに電王を誘き出す気の二体に対して

一刀「暴れるのをやめろ！」

バツ！

駆けつけた一刀が現れた。

ラビットイマジン「来たな電王め」

ラクーンイマジン「お前の相手なんて傀儡兵で十分だポコッ

ポンッ

ラクーンイマジンが腹鼓はらこを叩くと

バツ！

傀儡兵「ギイーツ！」

傀儡兵がたくさん出てきた。

一刀「こつちもいくぜ！」

カチャッ

一刀はベルトをセットするが

ウラタロス「待ってよ一刀！センパイ達がまだ来てないよ！」

モモタロス達がまだ来ていなかった。

一刀「くっ！仕方がない、来るまでなんとか避けるぞ」

傀儡兵達「ギイーツ！」

しかし傀儡兵達は待ってはくれない

ババツ！

傀儡兵達はいっせいに一刀達に飛びかかってきた。

「一刀くっ！」

サッ！

ウラタロス「センパイ達何してるんだよ!?」

サッ！

一刀とウラタロスは必死で避けていた。

ラクーンイマジン「いつまでも避けられると思つなよポコッ！」

ゴオーッ!!

ラクーンイマジンは一刀達が逃げられないよう炎を繰り出してきた。

しかし、

傀儡兵達『ギイッ!?』

ゴオーッ!!

一刀達を困っていた傀儡兵達がラクーンイマジンの攻撃を食らってしまった。

ラクーンイマジン「傀儡兵のバカ共めポコッ！」

ラビットイマジン「こうなったら俺達が殺るしかないじゃん」
スッ

ラクーンイマジンとラビットイマジンは一刀達に迫り来ようとするが

モモタロス「遅くなっただな一刀！」

キンタロス「寝とつたら遅れたわ！？」

リュウタロス「恋ちゃん限界を知らないし」

ダダッ！

ようやくモモタロス達が駆けつけてきた。

しかし

ラクーンイマジン「おい、あいつらってあんな姿だったポコッ？」

ラビットイマジン「俺に聞くなよ！」

モモタロス達は着ぐるみを着たまま来ていたので敵は混乱していた。

なぜならそこに集結していたのは

モモタロス「そういえばおデブはどうしたんだ？」

狼の着ぐるみを着たモモタロス

ウラタロス「僕知らないよ、キンちゃん知らない？」

ペンギンの着ぐるみを着たウラタロス

キンタロス「俺はほとんど寝とったからなあ、リュウタはどないや？」

象の着ぐるみを着たキンタロス

リュウタロス「僕知らないし」

龍の着ぐるみを着たリュウタロスがいたのだ。これで電王一味だとわかる方がすごいものである。

一刀「ともかく、変身するぜ！」

ポチッ

ベルト『OVER』

一刀はすでに腰に巻いていたベルトのボタンを押して

カチャカチャッ！

一刀は仮面ライダー電王・プラットフォームに変身した。

そして

パーツ

実体化したモモタロス達は

モモタロス「ようやくこいつを脱げるんだな！」

ウラタロス「暑くてたまらなかったね」

ガバツ！

着ぐるみを脱ぎ捨てた。

モモタロス「それじゃあここは俺の出番だな…」

スッ

モモタロスが一刀に入ろうとすると

ウラタロス「抜け駆けはダメだよセンパイ！」

キンタロス「モモの字、それはずるいで！」

モモタロスの抜け駆けを止めようとするウラタロスとキンタロス

一刀「誰でもいいから早くしろ！」

一刀がそう叫ぶと

リュウタロス「じゃあ僕が入る」

スッ

モモタロス・ウラタロス・キンタロス『あつ!?』

リュウタロスが割り込んで一刀に入っていた。

ベルト『GUNFORM』

カチャカチャンツ!

そして一刀の体は仮面ライダー電王・ガンフォームに変身した。

R電王「お前、倒すけどいいよね? 答えは聞いてない!」

R電王が言つと

モモタロス「テメエがきんちょ、抜け駆けしやがって!」

ウラタロス「ひどいよリュウタ!」

キンタロス「悪いやつちゃで!」

みんながリュウタロスを責めていた。

R電王「遅すぎるみんなが悪いんじゃないか! 僕は悪くないもん!」

あくまでしらを切るリュウタロス

そしてモモタロス達がもめている間に

ラクーンイマジン「なんだか知らないが喧嘩している今がチャンス

ポコッ！
」

ラビットイマジン「それじゃあいくぜ！」

ババツ！

イマジン達はふたてに分かれると

ラクーンイマジン「くらえっポコッ！」

ゴオーツ！！

ラビットイマジン「死にやがれ！」

バシヤツ！

ラクーンイマジン達は炎を出し、ラビットイマジン達はモータロス達に油をまいた

その結果

全員『ぐわーっ！？』

ゴオーツ！！

油が炎に引火してしまいモータロス達は焼かれました。

#28 「絆の強さ」

「刀達が言い争いをしている間に一刀達はラクーンイマジンとラビットイマジンの攻撃を受けてしまった。」

モモタロス「あちーっ!？」

キンタロス「亀の字、お前水出されへんのかい!？」

ウラタロス「そんなのオー○じゃあるまいし無理に決まってるじゃん!？」

リュウタロス「熱いよー!？」

ライダーに変身しているとはいえ一刀とリュウタロスも熱がっていた。

「一刀」(このままでは全員やられてしまう!？いったいどうすれば!?)

「一刀は必死に考えるがなかなかいい案が浮かばない。」

ラクーンイマジン「電王なんて燃え尽きてしまえポコッ!」

ラビットイマジン「こんな奴らに今まで倒されてきたイマジンが情けなく感じるぜ。ではそろそろとどめを…」

「二体がとどめをさそうと構えると」

ドドドンッ！

ラビットイマジン「いたっ！？」

ラクーンイマジン「誰だポコッ！？」

突然後ろから撃たれたので振り向くとそこには

デネブ「大丈夫か一刀達、遅れてデネブ参上だ！」

ようやくやって来たデネブが弾丸を撃ちながら走ってきた。

ラビットイマジン「ちっ！邪魔が入ったか！？」

ラクーンイマジン「ここは一旦下がるポコッ」

スッ

そして二体は消えていった。

デネブ「ちっ！逃げられてしまったか！」

モモタロス「おデブ、今はイマジンよりこの炎を何とかしてくれよ
！？？」

デネブ「おおっ！？そうだった」

ジャキンッ！

ブシューッ！

デネブは指から消火弾を出して炎を消し止めた。

パッ

そしてリュウタロスが一刀から分離し、もとの姿に戻ると

モモタロス「おいがきんちよ！お前が割り込まなければあんなイマジンごときに苦戦するはずがなかったんだよ！」

ウラタロス「それって抜け駆けしようとしたセンパイが言える台詞なの？そもそもみんなが来るのが遅いから僕が苦戦してたんじゃないか！」

キンタロス「せやかて俺は現場から一番遠い場所におったわけやし、直前まで寝とったわけやしな」

リュウタロス「みんなが僕の邪魔するからいけないんじゃないか！」

ギャーギャー！　ワーワー！

モモタロス達が言い争いをしていると

一刀「静かにしてくれ！今、作戦を考えてるんだから！」

デネブ「（まずい！？みんなイライラして協力どころじゃなくなっている！？ここは俺が何とかしないと！）」

スッ

するとデネブは懐から

デネブ「イライラしているときは甘いものを食べればいいんだぞ」

ジャーンッ

デネブキャンディーを取り出してみんなに配るが

「刀達『いるか！んなもん！』」

受け取ってもらえなかった。

モモタロス「フンッ！こうなったら俺一人でイマジンを見つけて退治してやるぜ！」

ウラタロス「それは僕も同感だよ！」

リュウタロス「僕だって！」

キンタロス「グオーッ！」

ばらばらっ

そしてモモタロス達は寝ていたキンタロスと一刀を残してバラバラに散っていった。

デネブ「ああ！？みんなが喧嘩別れをしてしまった！？これでいいのか一刀！？」

心配するデネブをよそにして一刀は

一刀「いいんだよあんなやつら！」

サッ

一刀も怒って去っていった。

デネブ「ああ！？いつたい俺はどうすればいいんだ！？」

デネブが悩んでいる頃

町の高台

ラクーンイマジン「ここから一気に炎を出せば町が燃え尽きるポコッ！」

ラビットイマジン「それじゃあ油を撒くぜ」

ラビットイマジンが油を撒こうとしていると

ウラタロス「ねえお二人さん」

バツ

二体の後ろにはウラタロスがいた。ちなみにOVERボタンを解除していないので実体化したままである。

ラクーンイマジン「こいつは電王の仲間！？」

ラビットイマジン「一人で来るとは度胸あるじゃん！」

スッ！

二体がウラタロスに攻撃しようとする

ウラタロス「ちょっと待ってよ！僕は戦いに来たんじゃない、むしろ君達の仲間になりに来たんだ」

ラクーンイマジン・ラビットイマジン『はあっ？』

これにはさすがに二体も驚いた。

ウラタロス「だって一刀達と旅しているせいでこんな世界に来るわ、いつの間にか犯罪者を仲間に加えるわで大損してるんだよね！だからどうせなら君達の仲間になった方がいいと思っただよ。仲間にに入れてくれる？」

すると二体は

ラクーンイマジン「おい、どうするポコッ？」

ラビットイマジン「電王の仲間の一人を捕らえたとならば左慈様から褒美が貰えるかもしれんが、こいつが俺達を騙しているという可能性も…」

ウラタロス「騙してなんかいないよ！その証拠にこれをあげるからさ！」

スッ！

ウラタロスはライダーパスを二体に渡した。

ラクーンイマジン「これは電王にとって必要なアイテム!?」

ラビットイマジン「こりゃこいつの言っていることはホントかもな
!?!よし決めたぜ！」

パシッ

ラビットイマジンはウラタロスからライダーパスを奪い取ると

ラビットイマジン「ありがたく思えよ、特別にお前を仲間にしてやるぜ！」

ウラタロス「ホント!?!ありがとう!?!ところで仲間になったんだから君達についてよく知りたいんだけど」

ラクーンイマジン「それもそうだなポコッ」

そして二体はウラタロスにベラベラと話してしまった。黒幕である左慈のこと、左慈のいる場所のこと、そして自分達の技さえも

数時間後

ウラタロス「なるほどね!?!君達についてよくわかったよ」

ラクーンイマジン「それはよかったポコッ！」

ラビットイマジン「これからは俺達は仲間だしな」

ところが

ウラタロス「残念だけどそれは無理だよ」

ラビットイマジン「なにっ!?!?どういうことだ!?!」

ウラタロス「だって僕は一刀達の仲間だもの。みんな、出てきてい
いよ!」

ウラタロスが言うつと

スッ

柱のかげからデネブを除くみんなが出てきた。

「刀」ごくろつさんウラタロス」

モモタロス「やっぱりお前は詐欺師だな」

ラクーンイマジン「これはどういうことだポコッ!?!?お前達は喧嘩
していたはずじゃ!?!」

ラクーンイマジンが言うつと

キンタロス「お前らアホやな。喧嘩はお前らを騙すための芝居に
決まっとるやろ!」

リュウタロス「簡単に僕らを信用するなんてモモタロスより頭悪いよね」

モモタロス「なんだとがきんちよ！そもそもイマジン探知が鋭い俺がお前らを見逃すはずがないだろう！」

つまりモモタロス達は会話なしのアイコンタクトで喧嘩の芝居をしていたのだ。

一刀「演技がよかったおかげでお前達から一通り聞きたかったことは聞けたからな！それにライダーパスなら予備がたくさんあるから一つくらい奪われても平気だしな」

ウラタロス「そこんところ教えてくれてありがとうね」

話を聞いた二体は

ラクーンイマジン「ふざけるな！ポコッ！！」

ラビットイマジン「こうなったらもう一度焼き殺してやる！」

スッ

二体は構えるが

一刀「もうその手は効くかよ！いくぜみんな！」

モモタロス達「おうっ！！」

ダッ！

そしてモモタロス達は一刀の元にタイミングよく走り、

スツスツスツスツ！

ベルト『CLIMAXFORM』

カチャカチャンツ！！

バーンツ！

一刀の体は仮面ライダー電王・クライマックスフォームに変身した。

クライマックスM電王「俺達、参上！一気にいくぜ！」

サツ

電王はベルトにライダーパスを当てる。

ベルト『フルチャージ』

バチバチツ

クライマックスフォームの胸の部分であるガンフォームのデンカメラが光り出すと

クライマックス電王『ボイスターズシャウト！』

カパツ！

ドドドーッ！！

ガンフォームのデンカメンが開いて、中から無数のミサイルが飛んできた。

ラクーンイマジン「えっ！？」

ラビットイマジン「うそっ！？」

二人は技を出す途中だったのですぐに動いて避けることができずに

ドカカカーッ！！

ラビットイマジン「グギャーッ！？」

ラクーンイマジン「ポッコーツ！？」

技をまともに食らって消滅するのだった。

その後

デネブ「まったく！喧嘩が演技ならもっと早く教えてほしかったぜ！心配して損してしまった」

ウラタロス「まあまあ、敵を欺くにはまず味方からって言うしね」

デネブ「ブーッ！」

喧嘩の事情を聞いて仲間外れにされたことに対してふくれるデネブだった。

#29 「忍び寄る二人」

「刀達はイメージンから聞いた左慈のいる場所を目指して進んでいた。しかし」

天和「疲れたよ」

地和「もう歩けない」

これでもう三回目である。

デネブ「頑張ってくれよ、辛いのはみんな同じなんだからさ」

天和「やだやだー！おんぶしてー！」

地和「ちいは蜂蜜水が飲みた〜い！」

ワガママを言う二人である。

モモタロス「ハア〜！？金があれば少しはましになっただかもしれないのになあ〜！？」

モモタロスが呟く。先日一刀達はアルバイトをしてお金を稼いでいたのだがそのお金は今が無い！その理由は…

月達はイメージンを倒して爆破した場所が働いている場所の近くであり、店は戦いに巻き込まれてしまい全壊。優しい月がそんなところからお金をもらえるはずがなくアルバイトは無し

恋達はチャーハンばかりで飽きたと言うので肉まんを食べさせたところ、お金は全て肉まん代に消えてしまった。

「刀達はバイト料をもらう前に飛び出してしまいバイト料をもらうことができず

天和達は稼いだお金で服などを買いまくり残ったお金はわずかのみ、デネブは警邏の途中で出ていったことにより隊長に叱られてしまい、罰として給金無しになってしまった。

よってアルバイトで稼いだお金はほぼゼロなのである。

詠「月、大丈夫？」

月「大丈夫だよ詠ちゃん、私はこれくらいなら我慢できるもん」

と、言いながらもふらつく月

無理もない「刀達はここ数日の間、チャーハンとコーヒーだけの生活を送っていた。いくらなんでも飽きてきたうえに栄養バランスがとれていないのだ。

ふらつく月を見た「刀は

「刀「仕方がない、少し早いけどここで休むか」

デンライナーを呼び出して休むことにした。

そしてその日の夜

デンライナー内

モモタロス「ガガーッ！」

ウラタロス「スヤスヤ」

キンタロス「グオーッ！」

リュウタロス「グゥ」

ベットを女子達に占領され、一刀達が座席で寝ていると

？「なあ斗詩、あれってあいつらの乗り物じゃないか？」

？「確かにそうだよ文ちゃん、ようやく見つけることができたね！」

デンライナーの外から声が聞こえてきた。

ウィーンッ

？「開いちゃったね」

？「それじゃあ中に入るぜ」

スッ

外にいた二人がデンライナー内に入ろうとすると

デネブ「この強盗め！」

ドキュキュンッ！！

？「うわっ！？」

？「何が起きたんだ！？」

入ってきた二人に対していきなりデネブが発砲してきた。ちなみにモモタロス達は交代で夜の見張りをしているのだ。

そして

ガバッ

一刀「何だなんだ！？」

モモタロス「強盗だと！？」

恋「…強盗、倒す」

デネブの発砲音でみんなが目覚めました。

？「違いますよ〜！？」

？「アタイ達は強盗じゃ…！？」

二人は言おうとするが

一刀達『問答無用！』

ドタバタンッ！！

一刀達は一斉に二人に飛びかかってきた。

キンタロス「よし、押さえつけたで！」

ウラタロス「月ちゃん、明かりをつけて！」

月「はっはい！？」

パチンッ パツ！

飛びかからなかった月が明かりをつけると

斗詩「痛いです〜！」

猪々子「いい加減はなしてくれよ！」

そこには袁紹の側近である文醜（真名を猪々子）と顔良（真名を斗詩）がいた。

二人を発見したみんなは二人を解放すると

モモタロス「おいつ！オバサン（袁紹）の側近のお前らが何でこんなところにいるんだよ」

ギロリッ！

尋問を始めた。

斗詩「ひあつ!?!」

猪々子「食うならアタイより肉のある斗詩の方がうまいぞ!?!」

モモタロスに睨まれてびびる二人

ウラタロス「ダメだよセンパイは怖い顔してるんだからさ!何故ここに来たのか教えてくれない?」

今度はウラタロスが聞くと

斗詩「実は…」

ギューツ!!

猪々子「痛いってば斗詩!?!」

斗詩が猪々子の頬を引っ張りながら答える。

斗詩「反董卓連合であなた達と別れたあと…」

ここで話は数日前に遡る。

反董卓連合終了後

麗羽「きーっ!!ブ男さん達の行方はまだわかりませんの!」

二人の主君である袁紹(真名を麗羽)が一刀達の日撃情報がいつま

でたつても来ないのでイラついていた。

斗詩「とは言つてもあんな下手くそな似顔絵じゃねえ（ひそひそ）」

猪々子「しかも貼り紙はうちの領内にしか貼っていないから見つかるわけがないのにな（ひそひそ）」

麗羽「何か言いましてお二人さん」

麗羽が二人に怒ろうとしていると

兵士「大変です！？曹操が攻めてきました！？」

麗羽「何ですって！？あのくるくる小娘が！？」

麗羽が一刀達に気をとられている間にか曹操軍が攻めてきていたのだ。

そして結果は

急に攻めてきた曹操軍に何の準備もしていなかった袁紹軍が勝てるはずもなく、戦いは曹操軍の圧勝に終わった。

そして何とか城から脱出した麗羽達三人はというと

麗羽「こうなったのもみんなブ男さん達のせいですわ！こうなったらどんな手を使ってでも……」

と、麗羽が思った時

斗詩「ダメですよ麗羽様!?」

猪々子「んなこと考えたらダメですって!?」

ガバツ!

二人は麗羽を押さえつけた。

麗羽「あなた達!主君であるわたくしに対して何をしていますの!」

麗羽が怒鳴ると

斗詩「前にもそうやって考えて怪物を生み出したのを忘れたんですか!?」

猪々子「怪物が現れたらアタイ達じゃあ手におえませんよ!」

反董卓連合の時に麗羽は呂布を殺したいと考えてイメージを出現させたのだった。

麗羽「仕方がないでしょう!こうなったら怪物だろうが悪魔だろうがブ男さん達を倒せるのなら何だってします…」

麗羽が最後まで言おうとしたその時

スッ

麗羽の体に何かが入り込んだ。

そして麗羽は

麗羽「世もお供達をこらしめたいと思ってな。さっさとゆくぞ緑の、紫の！」

猪々子「世？」

斗詩「緑の、紫の？」

二人はすぐさま麗羽の様子がおかしいと気づいた。

そしてそれからの麗羽は

麗羽「世にこんな不味い飯を食わせる気か！」

ガチャンッ！

出された食事を放り投げ

麗羽「貴様、世の靴が汚れてしまったではないか！弁償しろ！」

何時もよりもおかしくなってきた。

そして猪々子達は

猪々子「絶対麗羽様おかしいぜ！？」

斗詩「こうなったら私達で北郷さん達を見つけて何とかしてもらおう

「しかないね」

そして二人は麗羽の目を盗んで一刀達を探す旅に出たのだった。

斗詩「と、言う訳なんです」

斗詩が話しを終えるとモモタロス達は

モモタロス「そんなことする奴なんてあいつしかいねえだろ!?(
ひそひそ)」

ウラタロス「センパイもそう思う、やっぱり彼しかいねえ!?(
ひそひそ)」

キンタロス「あいつしかおらんで!?(ひそひそ)」

リュウタロス「あの人しかいないよね〜(ひそひそ)」

「刀にも聞こえないようにひそひそ話していた。

斗詩「お願いです!麗羽を何とかしてください!」

猪々子「何とかしてくれたら褒美に何でもやるし、斗詩の胸も少しは揉んでいいからさ!」

ギューッ!

斗詩「文ちゃ〜ん」

猪々子「いたたっ！？冗談だっつてば斗詩！？」

二人の話を聞いた一刀は

「一刀「仕方がない、相手がイマジンならば俺達で引き受けるしかないからな」

引き受けることにした。

そしてそれを聞いたモモタロス達は

モモタロス・ウラタロス・キンタロス「ええーっ！？」

ものすごく驚いていた。

#30 「王子様の騒動」

一刀達は突然人が変わった麗羽の原因がイマジンにあると睨み、猪々子と斗詩の案内で麗羽の所に向かうのだった。

だが

モモタロス「なあ一刀、今回ばかりは手を引いた方がいいぜ!？」

ウラタロス「センパイの言う通りだよ!？大体あのオバサンがどうなったって構わないじゃんか!？」

キンタロス「その通りや!あんな悪党ほつといた方がええで!」

モモタロス達は最後までぶつぶつ言っていた。

一刀「どうしたんだよみんな、確かに袁紹は嫌みでババ臭くて、性格悪いやつだけどもさ、イマジン騒ぎならほっておけないだろ」

麗羽ファンの人にはすみません

一刀が言うと

リュウタロス「モモタロス達は誰の仕業かわかってるから行きたくないんだよね」

モモタロス「こらっ!がきんちよ!」

一刀「ホントかよ!？それで、誰の仕業なんだ!？」

一刀が聞くと

ウラタロス「たぶん取りついているイマジンはジークっていう奴だよ。彼は高貴な態度がうるさくてね」

キンタロス「少しわがままな奴やったからな」

リュウタロス「僕は鳥さん大好きだけどな」

モモタロス「お前は黙ってるよがきんちよ！まあとにかく俺達の仲間だったんだがいるだけでうざい奴だったんだよ」

モモタロス達の話聞いた一刀は

一刀「なんだ、仲間だっていうのなら話し合いで解決できるじゃん

」

ことの重大さを理解していなかった。

モモタロス「まあ一刀も一度出会えば手羽先^{ジーク}がどついう奴が分かるだろうしな」

モモタロスはそういうことにすることに決めた。

そして一刀を見ていた猪々子達は

猪々子「話には聞いていたけどアニキって他から見ると変わってるよな!？」

」

斗詩「私達にはモモタロスさん達が見えないから不思議だよね!？」

「

誰も近くにいないのに一人でぺちやくちや話す一刀を不思議に思っていた。

気体状態のモモタロス達はイメージか一刀にしか見えません

そうこうしている間に

猪々子「ここがアタイ達が暮らしている村だよ」

一刀達は村に到着したのだが

一刀「村だつてのに人が少ないんだな!？」

「

その村はさびれた様に人が少なかった。

ウラタロス「でもどうするのセンパイ、相手がジークならデネブ連れてくればよかったね」

ちなみにデネブは月達の護衛ということでデンライナーに残っている。というのも黄巾党の首領の天和達と魔王董卓として恐れられた月を麗羽の前に出すわけにはいかなかったからである。

そのためデネブを護衛として残させたのだ。

モモタロス「過ぎたことをガタガタ言うんじゃねえよ!こうなったら手羽先^{ジーク}に氣に入られてるがきんちよ(リュウウタロス)に頼るしか

ねえだろうが」

ところがリュウタロスは

リュウタロス「鳥さんに会えるの楽しみだな」

ジークとの再会を楽しみにしていた。

一刀達が話をしていると

わっしょい！わっしょい！

一刀「何の音だ？」

キンタロス「神輿の音みたいやけど祭りでもやっとなるんか？」

しかし、その正体は

麗羽「者共！世に従うがよい！」

わっしょい！わっしょい！

麗羽（中身はジーク）が村人が運んでいた神輿に乗っていた。

それを見たモモタロス達は

モモタロス「一刀、OVERボタンだけ押してくれ」

「一刀「わかったよ」

ポチッ

「一刀がOVERボタンを押すと

パーツ！

モモタロス達が実体化した。

猪々子「うわっ！？急に現れるなよ！？」

斗詩「慣れていないと驚きだね！？」

そして実体化したモモタロス達を発見した麗羽は

麗羽「おおっ！そこにいるのは世のお供1（モモタロス）、2（ウラタロス）、3（キンタロス）ではないか！？」

モモタロス「誰がお供だよ手羽先！」

ウラタロス「ちょっとジーク、そんなオバサンにとりついて何してるのさ！？」

ウラタロスの問いにジークは

麗羽「決まっているであろうっ、お主達を見つげるための仮の体だ！

」

スッ！

麗羽はモモタロス達に手を向けると

シュルシュルッ

モモタロス「うわっ！？」

キンタロス「しもうたで！？」

ウラタロス「またこの展開なの！？」

モモタロス達の体はコップのように小さくなってしまった。

一刀「みんな！？大丈夫か！？」

スッ

そして一刀がモモタロス達に近寄ろうとすると

麗羽「んっ！その者、誰かは知らぬがこのオバサンよりは体がマシであろう、その体を借りるぞ」

パッ

ジークは麗羽の体から離れると

スッ

今度は一刀の体に入っていった。

モモタロス「しまった!?大丈夫か一刀!？」

小さくなったモモタロスが叫ぶと

パララランツ

W一刀「降臨、満を持して」

バンツ!

完全に一刀の体はジークに乗っ取られてしまった。

麗羽「はっ!？」

一方、ジークが出ていったことで麗羽の意識が元に戻ると

麗羽「あなた達はブ男さん一行!?何でこんなところにいるのかは知りませんが飛んで火に入る夏の石ですわ!」

それをいうなら夏の虫である。

麗羽「者共、ブ男さん一行を捕らえなさい!」

村人達「うおーっ!」

村人達はまだ麗羽にジークがとりついていると思っているので麗羽の指示に従うのだった。

W 一刀「世に逆らうか無礼者め！」

スッ！ カチッ

W 一刀はデンオウベルトを腰に巻いてライダーパスを持つと

W 一刀「王子、華麗に変身」

スッ

ライダーパスをベルトにかざすが

シーンッ

W 一刀「あれっ？」

全然変身できていなかった。

W 一刀「こんなときに故障とは！？」

忘れている人もいると思うが故障ではなく、

デンオウベルトとライダーパスはオーナーの手によって改良され、
一刀が自分の意思でかざさない限り変身できないのだ。

そして変身できないジークは

村人達「うおーっ！」

ドッシリッ！

村人達に押さえつけられた。

W一刀「こらっ お前達！世にこんなことをしてただですむと思っ
ないぞ！」

そして一刀に続いて

村人「捕まえたぞ！」

ギユツ！

モモタロス「わあー！？」

小さくなったモモタロス達も捕まってしまった。

ギユツ！

モモタロス達「いてっ！」

そしてモモタロス達は瓶に入れられると

スッ

外から麗羽が瓶を眺めていた。

麗羽「赤いブ男さん！以前はよくも高貴なわたくしを殴ってくれま
したわね！あなた達はブ男さんをこらしめた後に痛い目に遭わし
てあげますから覚悟なさい！」

ウラタロス「ちょっとお嬢様！？悪いのはセンパイだけじゃないか
僕は助けてよ！？」

麗羽「今更お嬢様ですって！散々わたくしをオバサン呼ばわりした
くせに図々しいですわよ青いブ男さん！」

ガーンッ！？

この言葉にウラタロスはショックを受けた。

ウラタロス「この美形の僕がブ男さんだって…」

キンタロス「しっかりせいや亀の字！？」

モモタロス「くっそー！お前を助けに来て何で俺達がこんな目に遭
うんだよー！」

そして一刀とモモタロス達は連れていかれてしまった。

だが、全員捕まってしまったわけではなく

ひよこっ

ひよこっ

ひよこっ

柱の陰から三人の頭が飛び出してきた。

猪々子「アタイ達のせいでみんな捕まっちゃったな!?」

斗詩「こうなったらなにがなんでも助けるしかないよね!」

リュウタロス「みんな、僕らが必ず助けるからね!」

こうしてさらわれた一刀達を救うべく動く三人であった。

3 1 「救出大作戦」

こちらは麗羽^{ジーク}が村人達を働かせて無理矢理作った城

現在は麗羽（本人）のものとなっている。

玉座の間

麗羽「さてと、いままで散々わたくしをこけにしてくれたブ男さんにどんな重い罰を与えましょうかしら？」

玉座の間にて麗羽がふんぞり返っていた。

W一刃「このくるくるオバサンめ！世にこのようなことをしてただですむとおもうでないぞ！」

そしてW一刃は麗羽の前で縛られて身動きがとれないでいた。

麗羽「お黙りなさい！このアヒル！よくもわたくしの体を操ってくれましたわね」

そのおかげでこの城が手に入ったと思うのだが…

麗羽「お黙りなさい！このアヒルはわたくしが直々に北京ダックにしてあげますわ！」

この国に北京ダックはあるのやら？

そしてその頃、捕らわれたモモタロス達は

モモタロス「ちくしょー！ここから出しやがれー！」

瓶の中で騒いでいた。

ウラタロス「はあく、OVERボタンを押されたままだから気体になつて逃げることもできないからお手上げだね」

キンタロス「こうなつたらタイムリミットがくるまで待つしかないやろう」

キンタロスが気長に待っている

モモタロス「冗談じゃねえよ！んなもの待つてる間に一刀が殺されちまうだろうが！大体俺は最初からオバサンを助けるのには反対だったんだよ！たとえ助けたとしてもあのオバサンが素直にありがとうなんて言うと思うか？どうせ助けたところで捕まるのがオチだろうよ」

麗羽をよく知らなければ分からないことである。

ウラタロス「確かにセンパイの言う通りだよな」

キンタロス「相手があのおバサンやからなあ」

モモタロス「あくあく、お礼はもらえないし、捕まるし、まさに踏んだり蹴つたりだぜ」

モモタロスが愚痴を言う

兵士「顔良將軍、文醜將軍、何をするんですか！？ぐはっ」

バタッ

見張りの兵士が倒れた。

そして

ギィ

扉が開くと

猪々子「遅くなって悪かったな」

斗詩「助けに来ましたよ！」

猪々子と斗詩が助けに現れた。

ウラタロス「いいの君達？こんなことがオバサンにバレたらクビだよ」

斗詩「麗羽様を助けに来ていただいたのに恩を仇で返すなんてできませんよ」

猪々子「そういうことだ！アニキの方はリュウタロスが助けにいてるぜ」

キンタロス「そっか！リュウタがおったんやな」

ウラタロス「姿が見えないからどうしたかと思ったけれども」

モモタロス「でかしたぞがきんちよ」

パッ

そしてモモタロス達は瓶から脱出された。

一方、玉座の間では

麗羽「あなたはブ男さんの一味!?」

リュウタロス「また会ったねオバサン」

リュウタロスが一刀を助けに向かっていた。

W一刀「おおっ！お前は確かリュウタロス！世を助けにくるとは感謝いたすぞ」

リュウタロス「もうっ！鳥さんのせいでこうなったんだから反省してよね！」

リュウタロスがW一刀に気をとられている隙に

麗羽「おーほっほっほ！このわたくしから目を逸らすだなんておバカですわね！」

スッ！

麗羽はリュウタロスに剣を突き立てるが

リュウタロス「おバカなのはそっちの方だよ」

ズキユキユンツ！

麗羽「ひっ！？」

サツサツサツ

リュウタロスはリュウボルバーを麗羽の足元にぶっぱなし、それを見事に避ける麗羽

麗羽「ちょっと！飛び道具なんて卑怯とはおもいませんの！」

麗羽は文句を言うが

リュウタロス「いきなり剣を突き立ててきたオバサンだけには言われたくない台詞だし、さてともう二度と悪さができないようにどう懲らしめようかな？」

リュウタロスが麗羽に近寄ると

麗羽「きーっ！！もう怪物だろうが何だろうが構いませんわ！誰かこいつらを倒してくださいな！」

と、麗羽が叫ぶと

？「その願い、俺が叶えてやるよ」

又ッ

麗羽の後ろから黒い鳥型のイメージが現れた。

麗羽「頼みますわよ！カラスさん！」

？「俺はカラスなんかじゃねえ！スワローイメージ様だ！」

バシッ！

麗羽「ぐへっ！？」

バタッ

スワローイメージに殴られた麗羽は気絶してしまった。

リュウタロス「何だかヤバイかもね〜！？」

その頃、左慈の城では

于吉「左慈、何でまたあの女にイメージを送ったんですか？」

于吉が聞くと

左慈「決まってるだろうが！あの女は願いをためてる塊だからだよ。あの女ならいくらでもイメージを作れるぜ」

#31 「救出大作戦」(後書き)

イマジンファイル

・スワローイマジン

『おやゆび姫』のツバメをイメージされたイマジン。高速で空を飛ぶ他、真空波を出して攻撃してくる。

#32 「王子様の裁き」

麗羽の城内で捕らわれたモモタロス達を救出中追い詰められた麗羽は勝手な願いからまたイマジンを作り出してしまった。しかし、作り出したイマジンから張り倒される麗羽だった。

スワローイマジン「ヒャッホー！暴れるぜ」

キーンッ！

スワローイマジンは音速並みの速さで飛びまくる。

リュウタロス「不味いよ〜あんな奴僕だけじゃ手におえないよ〜」

リュウタロスが弱気になっていると

モモタロス「大丈夫かがきんちよ」

ダダッ！

猪々子と斗詩に運ばれてモモタロス達がやって来た。

ウラタロス「う〜ん、小さくなれば女の子の肩に乗れるから役得かもね」

キンタロス「んなこと言ってる場合かいな」

リュウタロス「そうだよ〜！大変なんだよまたあのオバサンがイマ

ジンを作っちゃったんだよ」

リュウタロスから話を聞くと

斗詩「また呼んじゃったんですか」

猪々子「あちゃ〜！これで麗羽様も悪人になっちゃまったな」

二人は呑気に言っているが

W一刀「そんなことより、はやく世の縄を解かぬか無礼者！」

W一刀の呼び掛けで二人は正気に戻った。

モモタロス「元はと言えばテメエが悪いんじゃないか！少しは反省して一刀の体から出やがれ！」

しかしW一刀は

W一刀「嫌だ。なぜ世がお供その1の言うことを聞かねばならぬのだ！たとえこの命が亡くなるうともそれだけは断る！」

W一刀は意外に頑固だった。

しかし、

斗詩「なんだかわからないけれども今までの麗羽様の振る舞いは謝りますからあの怪物を倒すためにも一刀さんから離れてください！」

」

女の子である斗詩が言つと

W 一刀「姫君の頼みとあらば仕方がない」

パッ

ジークは簡単に一刀の体から出ていった。

猪々子「斗詩が姫君ならアタイが王子かな？」

むにゅむにゅっ

そして隙を見れば猪々子が斗詩にスキンシップをする。

斗詩「ちよつとやめてよ文ちゃん／＼」

猪々子「赤くなるなんてかわいい奴め」

ウラタロス「これが百合なんだね」

リュウタロス「百合って何なの？」

キンタロス「リュウタにはまだ早い！」

ギャーギャー　ワーワー

そしてモモタロス達が騒いでいると

スワローイマジン「俺を無視するんじゃない」

シュンツ！

無視されたスワローイマジンが怒って真空波を撃ち出してきた。

ドカンッ！！

全員『うわっ！？』

撃ち出された真空波はモモタロス達の足元に命中し、爆発した。

そして

一刀「うん…」

爆風によりようやく一刀が目覚めました。

モモタロス「おっ！一刀が目覚めたようじゃねえか！これで一件落着だし帰るとしようぜ」

そう言うわけにもいかない

ウラタロス「ちょっとセンパイ、イマジンとオバサンはどうするの！？」

モモタロス「ほっときゃいいだろ、自業自得ってもんだぜ」

しかし

斗詩「そんな、なんとか助けてくださいよ！」

猪々子「お礼に金でも食べ物でもあるだけやるからさ！」

猪々子と斗詩の必死の呼び掛けに

モモタロス「わかったよ！助けりやいいんだろ！でも小さくなった俺達でどうやってイマジンを倒すんだよ！」

小さくなったままではモモタロス達は変身できない。ガンフォームでは相手の動きが素早くて攻撃が当たらないのだ。

一刀「こうなったらあいつしかいないだろ」

スッ

そう言って一刀が指をさしたイマジンは

ビシッ

ジーク「は？」

ジークだった。

一刀「俺が了承すれば変身できるからあんたにもこうなった責任とってもらっぜ」

ジーク「嫌だ！何で世がそんなことを…」

ジークが断ろうとすると

ウラタロス「そういえばデンライナーにはかわいい姫君がたくさんいたっけなあ、君が了承すれば紹介してあげても…」

ジーク「やむを得ん、世に任せるがよい！」

態度を180度かえるジークだった。

「刀」よし、いくぜ！」

サッ

「刀がライダーパスをデンオウベルトにかざすと

カチャカチャンツ

「刀の体は仮面ライダー電王・プラットフォームに変身した。

「刀」こいジーク！」

ジーク「うむっ！」

スッ

そしてジークが一刀に入ると

ベルト『WINGFORM』

カチャカチャンツ！

「刀の体は仮面ライダー電王・ウィングフォームに変身した。

W電王「降臨、満を持して！」

スワローイマジン「新たな電王のフォームかよ、まあいい誰であろうとぶち殺してやるぜ！」

キーンッ！！

スワローイマジンは音速並みの速さで襲いかかってくる。

だが

サッ

W電王はそれを簡単に避けてしまった。

W電王「これが音速並みとは片腹痛い、だったら世の速度は光速並みだな」

スワローイマジン「なにを馬鹿にしゃがって！」

決してスワローイマジンが遅いわけではない、W電王の動きが速すぎるのだった。

スワローイマジン「だったらこれならどうだ！」

シュンッ！！

怒ったスワローイマジンはW電王目掛けて真空波を飛ばしてきた。

W電王「だから遅いと言っているだろう」

サッ

しかしW電王は真空波をたやすく避ける。

スワローイマジン「おのれっ!!」

もはやスワローイマジンは頭に血がのぼって思考能力が低下していい考えが浮かべなかった。

W電王「ではこちらからいくぞ！」

シュンッ!

スワローイマジン「なっ!?!」

W電王は一瞬でスワローイマジンの懐に入り込むと

W電王「世の制裁を受けるがよい！」

ズババッ!

スワローイマジン「ぐはっ」

W電王はデンガッシャー・ブーメランモードでスワローイマジンを切り裂いていく

W電王「これでとどめだ！」

スッ

W電王はライダーパスをデンオウベルトにかざすと

ベルト『フルチャージ』

ビビビッ！

W電王「ロイヤルスマッシュ！」

ズバツ！

スワローイマジン「ぐはっ！」

ドッカーンッ！

W電王は力を溜めたデンガツシャーでスワローイマジンを切り裂いた。

W電王「世の力、思い知ったか！」

数時間後

斗詩「ホントに皆さんには迷惑かけましてすみませんでした」

猪々子「アニキ達ありがとな」

村の出口には猪々子、斗詩そして二人に担がれた麗羽がいた。

「刀、こっちこそこんなにお礼貰っちゃってわるいね」

ドォーンッ！

「刀達はお礼としてお金と食料を荷車一台分もらった。

ジーク「皆の者、世のおかげでこんなにお礼が貰えたのだから感謝するがいい！」

モモタロス「うるせえ！元はと言えば…」

ウラタロス「センパイ、それ以上言つとまた小さくされちゃうよ」

そして行く宛がないということでジークを引き取り、モモタロス達も元の大きさに戻してもらった。

「刀、それじゃあまたね」

ガラガラッ

そして荷車をキンタロスに引かせて「刀達は去っていった。

モモタロス「もうオバサン絡みで呼ぶんじゃねえぞ！」

ウラタロス「オバサンはともかく君達が危険になったらすぐ行くからね」

キンタロス「オバサンによろしゅうな！」

リュウタロス「文ちゃん、トッシーバイバイ」

最後までオバサン呼ばわりされる麗羽だった。

そして一刀達の姿が見えなくなると

麗羽「う…うん」

麗羽が目を覚ました。

麗羽「ここは城の外？ブ男さん一味はどうしましたの？」

麗羽が聞くと

斗詩「麗羽様、あの人は悪くありませんよ」

猪々子「いい加減逆恨みはやめましょうぜ」

二人の言葉に

麗羽「お黙りなさい！こうなったらもう一度お願いしますわ！ブ男さん一味を捕まえなさい！」

麗羽は空に向かって叫ぶが

シーン…

空は返事をしなかった。

左慈の城

于吉「左慈、もうあの人の願いは聞かないのですか？」

左慈「あいつには欲があっても望みがつまらなさすぎるんだよ。もう飽きたぜ」

左慈達にまで見捨てられた麗羽だった。

と、その時

？「左慈たちはいるか？」

城の入口から声が聞こえてきた。

左慈「来やがったな三国兄弟！」

一刀達に向かう新たな敵の登場であった。

#33 「新たなる強敵」

麗羽の一件を終えて、一刃達がジークを連れてデンライナーに帰ると

デンライナー内

ジーク「おおっ！お供その2の言う通りここには余好みの姫君がたくさんおるではないか！」

ジークはデンライナーにいる月達を見ると

天和「お姉ちゃん姫君だつてさ」

地和「ちいの魅力がわかるなんてアンタ女を見る目があるわね」

人和「ちよつとうれしいかも」

月「へう／＼／／」

詠「月に色目使うんじゃないわよ！」

恋「…恋も姫君？」

ねね「恋殿にちよつかい出すなですー！」

早速ジークは女達を眺めていた。

ジーク「これっ料理番、早く余の食事を作らんか！」

デネブ「はいはい、ただいま作ります！」

デネブもジークには頭があがらなかった。

ウラタロス「ジークってばもうみんなに好かれようとしてるね」

キンタロス「手が早いやつちゃで」

リュウタロス「僕は賑やか（にぎやか）でいいけどね」

モモタロス「まあ別にいいじゃねえか手羽先のことはよう、それよりもオバサンからもらった食料と金のおかげで珍しく豪遊できるわけだけ、次の村でギャンブルでもするか？」

この世界でギャンブルとはいっても競馬しかない。

「一刀」そんなに簡単にお金を使うとすぐに無くなってしまっただろ、金があるからってすぐに使わず少しずつ貯金すれば……」

「一刀が最後まで言おうとしたその時

ドッカーンッ！！

遠くの方で爆発音が聞こえてきた。

キンタロス「今の音はなんや！？」

ウラタロス「この先の村から聞こえてきたけど！？」

「刀「迷っている暇はない、いくぞ！」

ダダッ！

「刀はデンライナーを降りて爆発音が聞こえた村目掛けて駆け出した。

モモタロス「仕方ねえ、俺達も行くぜ！」

恋「…恋も行く」

ねね「恋殿が行くならねねも…」

デネブ「小さい子は待ってる！俺がついていく！」

ダダッ！

ねね「ねねを小さい子扱いするななのですー！」

怒りまくるねねを置いてデネブと恋は一刀が駆け出した方角に駆け出した。

リュウタロス「鳥さんは残って天和ちゃん達の護衛をよろしくね」

「

ジーク「わかった。余の命にかえても姫君達には指一本触れさせはせん！」

そしてモモタロス達もジークを残してデンライナーを飛び出していた。

村

「刀「これはひどい…」」

恋「…生きてる人が全くいないし、建物が全て壊されている」

ついた先の村はまさに死の村と化していた。

人々が死に、建物はボロボロ、なかには首をねじ切られた死体まであった。

デネブ「賊の襲撃にしては俺達が来るときに出会ってないからおかしいな」

モモタロス「じゃあイマジンの仕業かよ」

ウラタロス「でもそれにしては村人を全員殺せだなんて変わった願いだね」

「刀達が考えていると」

？「う…うん」

瓦礫に挟まれている生存者を発見した。

「刀「大丈夫ですか？今すぐ助けますから！」」

グイッ

一刀が瓦礫を持ち上げようとすると

村人「よしてくれ、生き残ったところであいつらに殺されるだけだからこのまま死なせてくれ」

デネブ「なにを言ってるんだ！」

恋「…教えて、この村に何がおこったの？」

恋が聞くと

村人「わかった最後の頼みとして話してやるよ、あれはほんの数分前のことだった。村の入口におかしな三人組が現れたんで村の自警団（警備隊）が尋問しようとしたらそいつらがいきなり襲いかかってきて村人は助けを呼びにいった一人を残して全員殺されちゃった」

一刀「それで、そいつらの特徴は分かるか？」

村人「確か…」

村人が話そうとした時

ヒュインッ！　　ブスッ！

村人「うっ！？」

ガクンッ

突然金色の棒が村人の脳天を貫いて村人は死んでしまった。

モモタロス「今、村人を殺つたのは誰だよ！」

シユルシユルッ

そして全員目が縮んでいく棒を見てみると棒の先には

？「やつとお出ましかよ電王一味」

？「待ちくたびれただドン」

？「HEY！来るの遅すぎJAN！」

バンッ

そこには三匹のイマジンがいた。

「刀」お前達か村人達を殺したのは、いったい何者なんだ？」

「刀が聞くと

ゴクウ「俺の名は三国兄弟の長兄・ゴクウ！」

ハツカイ「同じく次兄・ハツカイだドン！」

ゴジョウ「同じく三兄・ゴジョウだZe！」

ゴクウ「村人を殺した理由はお前達を誘き出すためさ！左慈の命令だ、この廃村がお前達の墓場になるぜ！」

一刀達「なっ…なんだった!?」

#33 「新たなる強敵」(後書き)

イマジンファイル

・ゴクウ

三国兄弟の長兄。自在に伸びる如意棒が武器。短気でキレやすい。毛針や分身の術をつかい、身が軽い。

・ハツカイ

三国兄弟の次兄。三ツ又の銚ほこが武器。パワーならばキンタロス以上の持ち主。語尾にドンをつける。

・ゴジョウ

三国兄弟の三兄。性格はラッパー(カツパとラッパーをかけた洒落)。半月形の槍が武器。水中戦ならば無敵。

『西遊記』の悟空・猪八戒・沙悟浄をイメージして作られたイマジン。三人ともあまりに乱暴者のため左慈が遠くの方に送った。だが、一刀達を倒させるために再び呼び戻された。

#34 「強敵、三国兄弟」

ある村にて爆発音が聞こえ、一刀達がそこに駆けつけると村は廃墟と化していた。そしてその村を破壊したのは三国兄弟という三匹のイマジンのせいであった。

一刀「俺達を誘き出すためになんの関係もない村を襲ったというのか」

一刀が聞くと

ゴクウ「その通りだよ。感謝しなお前らの近くに村があったことをよ」

ハツカイ「人殺しはやはり楽しいだドン！」

ゴジョウ「警備隊なんて俺達には無用だYOO！」

三匹が言い終えると

一刀「許さねえ！　いくぜみんな！」

モモタロス達「おうっ！」

恋「…恋もやる。あいつら許さない」

デネブ「ああ、許すわけにはいかないな！」

みんなは戦闘体制に入った。

スッ ポチッ

「一刀「変身！」

「一刀はベルトにパスをかざしてOVERボタンを押すと珍しく変身
を言っ

カチャカチャンッ！

「一刀の体は仮面ライダー電王・プラットフォームに変身し、

パァーッ！

モモタロス達は実体化した。

「一刀「こいつ！モモタロス！」

モモタロス「ご指名ありがとよ！」

スッ

そしてモモタロスが一刀に入り込むと

ベルト『SWORDFORM』

カチャカチャンッ！

「一刀の体はは久々に仮面ライダー電王・ソードフォームに変身した。

恋「…恋もやる」

カチャツ スツ

恋もパスをベルトにかざすと

ベルト『ALTAIRFORM』

カチャカチャンツ

恋の体は仮面ライダーゼロノス・アルタイルフォームに変身した。

M電王「俺、久々に参上！」

ゼロノス恋「…最初に言う、恋はかゝなり怒ってる！」

ビシツ

そして決めポーズを決める二人。

ゴクウ「俺達と殺るってのか、おもしろい！ゴジョウはゼロノスを、ハツカイは雑魚共を、電王は俺が殺る！」

ハツカイ「何で俺が雑魚の相手しなくちゃいけないだドン！」

ゴジョウ「いいじゃん別に、三匹も狩れるんだし結果オーライ」
A
N
「

M電王「そういうことなら恋、お前はハゲをカメ公達は豚を頼む！俺は猿をやるぜ」

ゼロノス恋「…わかった」

ウラタロス「仕方ないよね」

キンタロス「豚の相手は任せとき！」

リュウタロス「その代わり後で何かおごってよね」

そしてみんなは分かれて戦うことになった。

電王サイド

ゴクウ「どうしたどうしたお前の実力はそんなもんかよ！」

バシバシッ

ゴクウがM電王を圧倒していた。

M電王「くそっ！この猿野郎なめやがって！」

ゴクウ「お前みたいな奴を片付けるのに手間取るなんて左慈の実力も落ちたもんだぜ！」

シュシュシュッ

ゴクウは毛針を飛ばしてきた。

ブスブスッ

M電王「いてえ〜！この鬼太郎モドキが、あまり毛を飛ばすと禿げる（はげる）ぞ！」

ゴクウ「んなことお前に心配されなくてもわかってらい！」

ウラタロス達サイド

ハツカイ「どっせーいだドン！」

ブオンツ！！

ウラタロス「わあー！？」

リュウタロス「ひえー！？」

ハツカイの怪力に投げ飛ばされる二人

キンタロス「今度は俺が相手や！」

ハツカイ「かかってこい！投げ飛ばしてやるだドン！」

キンタロス「ほな、いくで！」

ドンツ！！

キンタロスはハツカイ目掛けてタツクルをかまし

キンタロス「どりゃーっ！！」

そのまま投げ飛ばそうとするが

ハツカイ「甘いだドン！」

ブオンツ！！

キンタロス「なっ！？」

ドッシン！！

逆に投げ飛ばされてしまった。

恋サイド

ゴジョウ「チエキラッ！チエキラッ！」

シュシュシュッ！

ゼロノス恋「くっ！」

相手の動きを見て対策を練る恋の戦い方は不規則な動きをするゴジョウには通じなく、さすがの恋も苦戦していた。

ゴジョウ「これが三国最強だなんて笑わせるなYOO！」

バシンツ！

ゼロノス恋「くっ！」

恋は弾かれてしまった。

バタタツ

M電王「テメエら大丈夫かよ!？」

ウラタロス「そういうセンパイこそ大丈夫？」

ゼロノス恋「…こいつら強い」

あっという間に全員が倒されてしまった。

ゴクウ「さてと、止めをさしてやるぜ！」

スッ

ゴクウが如意棒を構えると

ゴクウ「(しかし左慈もどつしたもんかね?こんな奴ら相手に苦戦するなんてさ。まさか…)」

M電王「ちくしょう!ここまでかよ！」

モモタロスでさえも諦めかけたその時

ヒュインッ

ザクッ

ゴクウ「なっ!？」

突然飛んできた矢がゴクウの右目に突き刺さった。

ゴジョウ「兄貴!?」

ハツカイ「一体どこから飛んできただドン!?」

ハツカイ達が探している間に

ヒュヒュインッ!

次々と矢が飛んできた。

ゴクウ「ちっ!人間の分際でイマジンの邪魔しやがって、おいハツカイ・ゴジョウ!ひとまずずらかるぞ」

ハツカイ「わかったただドン兄貴!」

ゴジョウ「またな電王!」

シュンッ

そしてゴクウ達は消えていった。

パアーツ

一刀達は変身を解くと

一刀「何とか助かったようだな」

モモタロス「ちくしょう！負けちまうなんて悔しいぜ！」

変身は解除してますがモモタロス達は実体化したままです。

ウラタロス「それにしても誰が助けてくれたんだろう？」

ウラタロスは矢が飛んできたと思われる方向を見てみると

ヒュヒュインッ！

ウラタロス「うわっ！？」

ドストドストッ！

矢が飛んできた。

？「わが領内に賊が侵入してきたと聞いて駆けつけてみれば…」

一刀「あれっ？この声どこかで聞いたことないか？」

モモタロス「そっぴやそっぴやだな」

一刀達は声の主に心当たりがあった。

カツンカツンッ！

やがて声の主が姿を確認できるくらい近くにやって来ると

華琳「まさかあなた達だったとはね」

パンツ！

一刀達『曹操！？』

恋「…誰？」

デネブ「知らない人だな？」

恋とデネブは華琳に会うのははじめてだったので知らなかった。

一刀「ありがとう曹操、助けに来てくれたんだな」

一刀が礼を言うと

華琳「助けに来た？何を言っているのよ、私は賊を成敗しに来たのよ。でもまさかその賊があなた達だったなんてね」

一刀達『へっ？』

そして華琳は

華琳「この者達を一人残らず捕らえなさい！抵抗するなら殺しても構わないわ！」

モモタロス「なんでこうなるんだよー！」

その頃、左慈の城では

ハツカイ「兄貴、右目は大丈夫かだドン？」

ゴクウ「心配すんな！傷跡は残っても数時間すれば治るからな。それよりお前ら考えたことあるか？」

ゴジョウ「何を？」

ゴクウ「実はよ…」

ゴニョゴニョ

ゴクウはハツカイとゴジョウにそっと耳打ちするのだった。

#34 「強敵、三国兄弟」(後書き)

モモタロス「劇場版仮面ライダーオーズ見てくれたか？俺も活躍してるからちゃんと見ろよ！」

ウラタロス「嘘だよ。センパイは出てないから本気にしないでね」

キンタロス「俺は映画館で寝てもうたからDVD借りるで！」

リュウタロス「僕なんて二回も見ちゃったもんね」

この話の投稿日は8/6です。

#35 「牢屋での騒動」

左慈の城

左慈「……」

左慈が書齋にて本を読んでいると

又ツ 又ツ 又ツ

三つの影が左慈を見ていた。

ハツカイ「兄貴、ホントにやるのかだドン？」

ゴジョウ「左慈に歯向かったりしたらどうなるかわからないYOー
」

影の正体は三国兄弟だった。

ゴクウ「今さら何を言ってるんだ！左慈の奴があんな弱い奴ら（電
王達）に苦戦するなんて左慈の力が弱まってるに違いない！左慈さ
え殺れば俺達は自由になれるんだぜ！」

どうやら三国兄弟は左慈の闇討ちを企んでいるようだ。

そして左慈が油断しているうちに

ゴクウ「お命もらったぜ左慈！」

バツ

ハツカイ「こうなったらやけくそだドン！」

ゴジョウ「死にやがれ！」

ババツ

三国兄弟は左慈に飛びかかるつもりだが

左慈「フツ！愚か者めが」

ジャキンツ！

左慈は戦闘体制をとる。そして数分後、その場には

ゴジョウ「ガハッ！」

ハツカイ「グホッ！」

電王をも圧倒した三国兄弟が傷だらけで倒れていた。

左慈「雑魚が、俺に歯向かうなんて10年早いんだよ」

一方の左慈は無傷である。

ゴクウ「て…テメエ…」

しかしそんななか、ゴクウはボロボロになりながらも立ち上がりつつとしていた。

左慈「俺に齒向かうなんてバカなやつだ」

カチャッ

左慈は見知らぬベルトを腰に巻くと

左慈「変し…」

左慈は変身しようとするが

于吉「まちなさい左慈！」

于吉が左慈を止めた。

于吉「こいつらはまだまだ利用価値がありますから殺すのは惜しいですよ」

于吉が言つと

左慈「確かに于吉の言う通りだな、いいかお前ら今回だけは許してやる二度と闇討ちなんて考えるんじゃないぞ！」

バタンッ！

そして左慈は于吉と共に書斎から出ていった。

ゴクウ「ちくしょう！電王が弱いくせに左慈が苦戦するってことは左慈の力が弱まっていると思ったのによっ！」

ゴクウは悔しがっていた。

ハツカイ「兄貴、もしかしたら電王達はホントに弱いんじゃないかだドン？」

ゴジョウ「それじゃあ俺達が行ってくるぜ！あんな奴ら相手にゴクウ兄貴の手を煩わせる（わずらわせる）わけにはいかないしNa」

ゴクウ「わかったぜ。ハツカイ、ゴジョウあいつらを血祭りにあげてきな！」

ハツカイ・ゴジョウ「がってんだ！」

シュンッ

そして二人は消えていった。

一方その頃、曹操に捕まってしまった一刀達はどうと

曹操軍牢屋

モモタロス「くそっ！俺達は何も悪いことしてないのに何で牢屋に入れられたんだ？あーもうっ！退屈で死んでしまっぜ！」

ちなみに恋とデネブは別の部屋に入れられている。そして一刀のベルトも奪われている。

リュウタロス「こうなったらクマちゃん、突撃してこんな扉ぶち壊

してよ
」

キンタロス「よしっ！わかったで！」

スッ

キンタロスが扉に突撃しようとする

一刀「止めとけ！脱獄なんてしたら余計に罪が重くなるぞ！今は曹操を信じるんだ」

モモタロス「あいつを信じろだって！？あんなチビでわからず屋でわがままそうなやつはどこを信じろって言うんだよ！」

華琳ファンの人にはごめんなさい

モモタロスが華琳の悪口を言う

華琳「チビでわからず屋でわがままそうで悪かったわね！」

バタンッ！

いきなり華琳が扉を開けて怒鳴ってきた。

華琳「あんた達の無実は呂布から聞いたから出してあげようかと思っただけれど当分牢屋にいたいそうね」

華琳が言う

グイッ

ウラタロス「いいえ、めっそもありませんよ曹操様!？」

キンタロス「ほらモモの字もこうして頭を下げとるんやから許したつてえな!？」

ウラタロスとキンタロスはモモタロスの頭を無理矢理下げさせた。

モモタロス「お前ら…後で覚えてろよ」

一刀「そんなことよりも曹操、ベルトを返してくれよ!あれはとても大事なものなんだ」

一刀は言うが

華琳「ダメよ!一応あなた達は我が軍の捕虜なのよ、あれはしばらく預らせてもらうわ!」

モモタロス「おいテメエ!もしぶっ壊しでもしたら承知しねえぞこら!」

モモタロスが華琳に怒鳴ると

ジャキンッ! シュンッ!

モモタロス「なっ!？」

突然モモタロスの目の前には大剣、足下には矢が突き刺さった。

夏侯惇「貴様、黙って見ていれば華琳様をバカにしおつて！」

夏侯淵「助けたのは間違いだったようだな」

ズウンツッ！

モモタロスの目の前には華琳の側近である夏侯姉妹が立ち並んだ。

ウラタロス「その弓つてもしかして君が助けてくれたの？」

夏侯淵「そうだが……」

夏侯淵が言つと

ガシッ

ウラタロス「美しいお姉さん、命を助けてくれてありがとうございます。あなたの心の矢は僕の心さえも貫いたようですね」

夏侯淵「は……はあ？」

久々にウラタロスのガールハントが始まってしまい驚く夏侯淵

モモタロス「この野郎が！よくもいきなり剣を向けやがったな！」

夏侯惇「何を！やる気か化け物め！」

似た者同士のモモタロスと夏侯惇

桂花「ちよつと静かにしなさいよ！うるさくて仕事できないでしょ
う！」

程イク「おやおやく、やけに牢屋が賑やかですね」

そこに軍師の桂花と程イクが現れると

リュウタロス「わーい 猫耳だあ」

桂花「ちよつと、男はさわらないでよ！」

桂花の猫耳フードにじゃれあうリュウタロス

キンタロス「グオーツ！」

程イク「すぴ」

こんな状況にも関わらず眠るキンタロスと程イク

華琳「あなた達って騒がしいのね…」

一刀「そつちもね…」

仲間の騒動にあっけにとられる二人だった。

一方その頃、

技術開発室

真桜「ほほう、この腹巻きにはこんな機能があったんやな」

この部屋で以前会った真桜がデノオウベルトを解析していた。

真桜「こいつはこの前見つけた小さな赤い計算機と同じものかもしれないへんなあ」

スツ

そして真桜の手には赤い携帯電話が握られていた。

#36 「魏城での戦い」

モモタロス達はイマジンを退治しようと村に来たが、イマジンにやられてしまったうえに華琳の軍に捕まってしまった。

牢屋

モモタロス「疑いが晴れたのならばさっさと出しやがれ！」

ウラタロス「センパイ、そんな乱暴な言い方じゃあ一生出してくれないよ」

キンタロス「もっと大人しく『出してくださいよ曹操さん』とでも言わなあかんで！」

リュウタロス「アハハハッ！モモタロスがそんなこと言うわけないじゃん、たとえば天地がひっくり返っても無理だよ」

モモタロス「なんだとがきんちよ！」

牢屋で騒ぐイマジン達に対して

「一刀「少しは静かにしろ！騒げば余計に腹が減るだろうが」

「一刀がその場を静めた。

と、そんなとき

ドッカーンッ！！

城のどこからか爆発音が聞こえてきた。

モモタロス「また爆発音かよ！あれに関わるとろくなことがないぜ
！」

モモタロスは無視しようとするが

一刀「どこからか煙の臭いがする！？キントロス、牢屋の扉をぶち
壊すんだ！」

キントロス「よっしゃ！任しとき！」

スッ

キントロスは少し後ろに下がって助走をつける距離に行く

キントロス「おりゃーっ！」

ドドドッ！

キントロスは扉を破壊しようとして扉に突撃を仕掛ける。だがその時

ギイッ！

扉が勝手に開いて

キントロス「なにっ！？」

ドッコーンッ！！

キンタロスは扉にぶつからずに壁をぶち抜いてしまった。

デネブ「危なかったなあ！？」

扉を開けたのはデネブであった。

デネブ「城が騒いでいる今がチャンスだ。さっさと逃げ出さずぞ」

ウラタロス「なるほど！一刀もそれを狙って脱獄しようとするわけだね」

しかし一刀は

一刀「それもあるが本音を言うなら曹操を助けるんだよ」

一刀の言葉に

モモタロス「はあ！？何で俺達を捕まえた奴を助けなきゃいけないんだよ！」

モモタロスが言うと

一刀「ここで曹操に恩を売っておけば曹操の性格から考えていつの日か必ず借りを返すに違いない。だから今のうちに恩を売っておくのだ」

キンタロス「なるほどなあ」

ウラタロス「そこまで曹操を理解しているなんて一刀もなかなかやるね」

モモタロス「あのチビに恩を売るってわけかいアイデアじゃねえかよ」

リュウタロス「僕も賛成」

デネブ「えっ!? せっかく助けにきたのに脱走しないの?」

恋「…恋も一刀の意見に賛成する」

こうして一刀達は曹操軍の手助けをすることにした。

魏の城内

ハツカイ「兄貴の目に傷をつけたやつはどこだドンツ!」

ゴジヨウ「そいつの目も兄貴と同じようにしてやるZee! 傀儡兵共、しっかりと探しNA」

傀儡兵達「ギーーツ!」

突然現れたハツカイ、ゴジヨウ、傀儡兵達に魏軍はなんとか被害を食い止めるのがやっとだった。

華琳「全兵士達よ、一斉に矢を放ちなさい! それと真桜の作った投石器の準備を早くしなさい!」

華琳は突然の状況にも関わらず冷静に各兵士達に的確な指示をする。

だが、それも長くは続かなく

ハツカイ「もらったただドン！」

ブオンツ！！

華琳「しまった！？」

春蘭達が離れた隙を狙ってハツカイが華琳に近づいてきていた。

春蘭「華琳様！？ええい、きさまら邪魔だ！」

すぐ華琳の元に急ぐ春蘭だが行き先を傀儡兵達に邪魔されてうまく進めない。

ハツカイ「くたばれだドン！」

ブオンツ！！

ハツカイの鉾が華琳に迫る！

華琳「くっ」

さすがの華琳も死という恐怖に怯えて動けなかったその時

K電王「うおりゃ！」

ドンツ！

ハツカイ「グホッ！」

ドザザッ！

ハツカイが華琳を狙おうとしている間にK電王がハツカイの隙を狙ってタツクルをかまし、ハツカイをぶっ飛ばした。

K電王「この間投げ飛ばしてくれたお礼や！」

華琳「えっ！？」

華琳は何故電王が助けてくれたのか不思議に思っていたが回りを見つみると

モモタロス「俺の必殺技、モモタロスversion！」

ズバッ！

ウラタロス「お前達、僕に釣られてみる？」

ドカッ！

リュウタロス「お前達倒すけどいいよね？答えは聞いてない！」

ドカカッ！

傀儡兵達「ギイーツ！？」

いつの間にか苦戦していた魏軍は一刀達の助太刀により形勢が逆転していた。

ハツカイ「おのれっ！よくもオイラをぶっ飛ばしてくれただドンね
！」

ゴジョウ「今度こそ殺してやるYO！」

スッ

二人は構えだした。

K電王「この間のようにはいかへんで！」

モモタロス「猿がないお前らなんて楽勝なんだよ！」

ハツカイ「お前達ごときに兄貴なんて必要ないんだよだドン！」

ゴジョウ「むしろ俺達が相手をしてやってるんだZe！」

スッ

電王達とハツカイ・ゴジョウが対峙しあった。

その頃、魏の城内では

傀儡兵達『ギイーツ！』

真桜「うわあー！？」

真桜が赤い携帯電話を片手に傀儡兵から逃げ回っていた。

真桜「こいつらこの間の南瓜ナンキンの仲間かいな？けれども何でうちだけ狙ってくんねーん！？」

実は傀儡兵は真桜を追いかけけているわけではなく、真桜の持つ赤い携帯電話を狙っているのだ。

真桜「うわっ！？行き止まりやんけ」

逃げ場のない真桜に傀儡兵達が迫る！

傀儡兵達『ギーツ！』

ババツ！

そして傀儡兵達は真桜めがけて飛びかかってきた。

真桜「誰か助けてえなあー！」

真桜が叫ぶと

ドカカッ！

傀儡兵達『ギーツ！？』

バタバタッ

傀儡兵達は次々と倒れていく

真桜「何が起きたんや？」

真桜が驚いていると

スッ

ベガデネブ「李典さん、無事のようだな」

バンツ！

真桜の目の前には仮面ライダーゼロノス・ベガフォームがいた。

真桜「お前はおデブ！？助けに来てくれたんやな」

ギョ〜！

真桜はゼロノスを抱き締める。

ベガデネブ「(少しだけくるし〜!)んっ」

真桜に抱き締められたデネブは真桜の持つ赤い携帯電話が目に入っ
た。

ベガデネブ「それはケータロス！？李典さん、どこでそれを？」

デネブが聞くと抱き締めていた真桜は離れて

真桜「こいつはケータロスっていうんかいな！？うちは単なる計算
機かと思っただけだ」

ケータロスの電卓機能を見てそう思った真桜だった。

真桜「こいつはこの前市場で偶然見かけたもんやけどもこれがどんな役に立つん？」

真桜が聞くと

ベガデネブ「こいつがあれば電王は更に強くなれるのさ！」

真桜には訳がわからなかった。

#37 「秘策の電車男」

魏の城外

K電王「ぐほっ！」

ドサッ

モモタロス達「ぐわっ！」

バタタッ！

ハツカイ「やっぱりこいつら弱いだドン」

ゴジョウ「兄貴が手を出すまでもないYO」

ハツカイ・ゴジョウの強さに一刀達は苦戦していた。

K電王「あかな、やっぱりあいつら強いで！？」

モモタロス「こうなったらクライマックスフォームしか手はないだろっ」

モモタロスは散ろうとするが

ウラタロス「ダメだよセンパイ、あれは一度失敗すると変身するのに時間がかかる、奴らが合体を待ってくれるとでも思っの」

モモタロス「ちっ！わかったよ！」

ウラタロスはそう言ってモモタロスを静めた。

リュウタロス「そついえば恋ちゃんはどうしたの？」

ウラタロス「確か城に入つて中にいる人を助けに行つたよ」

モモタロス「ちつ！こんなときに他人の心配かよ」

K電王「まあ恋のことやから仕方ないやろ。それよりこの状況を何とかせにゃあかんで！？」

確かに今は人の心配をしている暇はない、目の前にはハツカイとゴジョウが迫ってきた。

ハツカイ「兄貴には悪いが電王はここで始末してやるだドン！」

ゴジョウ「なあに、こいつらの首を持っていけば兄貴も許してくれるだろうZe」

ジャキンッ！

二人は武器を構えて迫ってくる。

モモタロス「こうなつたら…おいつ、くるくるチビ（華琳）！」

華琳「誰がチビよ！私を誰だと思つてるの！」

チビ呼ばわりされて怒る華琳だがモモタロスは気にせずに

ベガデネブがゼロガツシャー・ボーガンモードをハツカイ目掛けて
撃ちながら駆けてきた。

ハツカイ「グホッ！」

ゴジョウ「ガハッ！」

そして二人が怯んだ隙に

ベガデネブ「一刀、これを受けとれっ！」

ビュンッ！

パシッ！

ベガデネブはK電王にケータロスを渡した。

ベガデネブ「この城にいた李典さんが持ってたんだ。それで変身するんだ！」

ケータロスはクライマックスフォームに変身するためのアイテムである。今まではケータロスが無くてぶつかり合うような形で変身していたがこれを使えばその必要がなくなるのだ。

モモタロス「でかしたぞおデブ！クマ公、とっとと変身しやがれ！」

K電王「分かつとるわ！」

パカッ　　ピツポツパッ

K電王はケータロスを開いてボタンを押していく

ケータロス『モモ・ウラ・キン・リュウ』

バチバチッ！

そして火花が立ち、K電王の体はクライマックスフォームに変身しようとするが

バキンッ！

全員『へっ！？』

突然デンオウベルトが外れてしまい

シュンッ！

一刀の体はK電王からもとに戻ってしまった。

パッ

キンタロス『うおっ！？』

それと同時にキンタロスは一刀から弾かれた。

一刀『もとに戻ってしまっただけど、何がどうなってるんだよ！？』

モモタロス「俺が知るかよ！こんなこと、俺だって初めてだ！」

戸惑っているみんなに

ハツカイ「なんだか知らんがチャンスだドン！」

ゴジョウ「さつさと殺してやるYO！」

サツサツ！

ハツカイとゴジョウが無防備な一刀に迫ってくる。

ベガデネブ「しまった！？」

不意をつかれてしまいベガデネブは一刀に駆け出すが間に合わない。

一刀「うわっ！？」

一刀もハツカイ達が迫ってきたので避けよつとすると

ガチャンッ！

一刀「へっ！？」

ケータロスが一刀の腰につき

ケータロス『LINERFORM』

カチャカチャンッ

「一刀「何なのこれ!？」」

ケータロスは勝手に一刀の体を仮面ライダー電王・プラットフォームさせる

カチャカチャンツ!

更に一刀の体を変身させ

ジャーンツ!

一刀の体は仮面ライダー電王・ライナーフォームに変身した。

モモタロス「マジかよ!？」

これにはさすがのモモタロスも驚いた。

ゴジョウ「変身がなんだYO!」

ハツカイ「元が人間なら倒すのはたやすいだドン!」

バツ

二人は一刀に向かうが

サツ!

ハツカイ「なにっ!？」

ゴジョウ「避けただなんて!？」

「刀は二人の攻撃を軽く避けると

スッ

手に持っていたデンカメンソードを構えて

ズバツ!

ハツカイ「グホッ!」

ハツカイを切り裂いた。

ウラタロス「どうなってるの!？」

キンタロス「一刀の奴、強いやんけ!？」

テレビでライナーフォームが弱く見えるのは装着者が弱いからであり装着者が強い場合ライナーフォームの身体能力はクライマックスフォームさえも越えるのだった。

電王一刀「なんだか力がみなぎるぜ!」

元々高い身体能力を持つ一刀はこの世界に来てからも修行して強くなったからこそできることである。

ゴジョウ「おのれっ!よくも兄貴やったNa!」

バツ

ゴジョウはハツカイをやられた怒りから一刀に連撃を仕掛けるが

サササツ！

一刀はそれを全て避けきった。

電王一刀「遊びはこれまでにしてやるぜ」

スツ

一刀はデンカメンソードを構えて力を溜め込むと

グインツ！

ゴジョウ「な…なんだよこれは！？」

突然地面にレールが敷かれ、ゴジョウは動けなくなった。

一刀「たった今考えた必殺技で倒してやるぜ」

キインツ！！

そして一刀はレールを高速で進んでいき

ゴジョウ「ば…馬鹿Na!？」

電王一刀「電車斬り！」

ズバツ！

必殺技でゴジョウを切り裂いた。

ゴジョウ「この俺がここで散るなんて！？兄貴、あとは頼むぞ…

」

ドッカーンッ！！

ハツカイ「ゴジョウー！」

ゴジョウは爆発して死んでしまった。

ハツカイ「ちっ！覚えてろだドン！」

スッ

ハツカイは逃げるように消えていった。

そしてイマジンが去ったあと

パアーツ

一刀の変身が解けると

モモタロス「やるじゃねえか一刀！」

リュウタロス「すごい変身だったね」

モモタロス達が一刀に駆け寄るが

「一刀「いててーっ!？」」

「一刀は傷をおっていないのに急に痛みだした。」

「キントロス「これってどういうことや？」」

「ウラタロス「たぶん体が慣れていないことによる筋肉痛かもね」」

「やはりいきなりの変身は一刀では痛みを伴うらしい。その後一刀は数日間この痛みに苦しむのだった。」

#37 「秘策の電車男」 (後書き)

本来のライナーフォームとは変身の仕方が違いますが小説の設定です。

なので、『変身の仕方が違うぞ!』という突っ込みは勘弁してください。

#38 「ゼロノスの危険性」

曹操の所から一刀達はデンライナーに帰ってきた。(ちなみに一刀達が出掛けてからすでに3日が経っている)

デンライナー内

ズキズキンッ！

一刀「体中が痛いよ」

一刀は前回のライナーフォームに変身したときの後遺症により全身筋肉痛になっていた。

そして今の一刀はデンライナーのベットにて横になっている。

地和「ったくもー！いきなり出ていったと思ったら傷ついて帰ってくるんだもん心配かけさせないでよね」

パシンッ

筋肉痛の一刀を地和が叩く

もちろんそんなことをすれば…

一刀「ギエーッ！」

一刀が痛がるのも無理もない。

デンライナー内は一刀の絶叫で響き渡った。

モモタロス「やっぱり一刀にはまだライナーフォームは早かったよ
うだな」

ウラタロス「まさかケータロスで変身するなんて驚いたよ」

キンタロス「まあまだ一刀も体が慣れてないから痛むわけやし直じきに
慣れてくるやる」

リュウタロス「僕達も負けずに特訓しないとね！」

モモタロス「がきんちよの言う通りだな！いつちょやるか！」

モモタロス達が気合いを入れていると

ジーク「どうでもよいが、早く余の食事を作らんか」

モモタロス「この手羽先が！気合い無くすようなこと言うんじゃない
えよ！」

ウラタロス「食事当番はデネブのはずだけどいなね」

リュウタロス「そういえば恋ちゃんとねねちゃんの姿も見えないよ
ね」

その頃、心配されている三人はデンライナーの外にいた。

恋「…デネブ、恋に話があるってなんのよう？」

ねね「恋殿は忙しいのです！だから手身近に話すのです！」

ちなみにねねは呼んでもいないのに勝手についてきた。

デネブ「はっきり言わせてもらおう！恋、ゼロノスを捨てるんだ！

」

バンッ！

はっきり言うデネブに

ねね「何を言うのですかー！恋殿の力がへボ達（一刀達）に劣るといのですかー！恋殿の力は三国一なのですぞ！」

恋「…ねね、うるさい」

ポカンッ

恋はねねを殴った。

デネブ「恋の力がすごいのは俺も知っている！だがゼロノスに変身するのは危険なんだ！」

恋「…どういうこと？」

恋が事情を聞くと

デネブ「最初にいっておけばよかったがゼロノスは変身するたびに使用者の記憶が他人から消えてしまう。つまり、恋の思い出や記憶

がみんなから消えてしまっただよ！」

バンツ！

恋「…でも一刀達も月も詠も天和達もねねもデネブも恋のことを知ってる」

デネブ「それはまだ変身回数が少ないからだ。だが、使ったびにいずれ俺やねねからも恋に関する記憶が…」

デネブが最後まで言おうとすると

ねね「ちんきゅうキック！」

ドカンツ！

デネブ「ぐほっ!?」

ねねはデネブにちんきゅうキックを繰り返した。

ねね「お前は何をいつているのですか！たとえみんなから恋殿の記憶が消えたとしてもねねだけは忘れないのです！それでもねねから恋殿の記憶が消えると言っつのならば…」

ダツ！

パシツ！

恋「…あっ」

ねねは恋からゼロノスカードとベルトを奪い取ると

ねね「ねねが変身するのですー！」

ダダッ！

カードとベルトを持って走り去っていった。

デネブ「いたた…。待ってくれよねね！」

恋「…ねね待っ」

タタターッ！

しかしねねは話を聞かない。

ねね「いくら恋殿の頼みでもこれだけは聞けないのです！」

タタターッ！

ねねは話を聞かずに走りまくるが

ふわりっ

ねね「へっ!？」

いつの間にか自分の体が宙に浮いていることに気がついた。

ねね「何故なのですか!？」

くるっ

そしてねねが後ろを見てみると

ジャーンッ！

イマジンがねねの服を掴んで飛んでいた。

スパロウイマジン「左慈様に言われて辺りの偵察に来たがゼロノスカードを見つけないなんて大手がらだぜ！」

ねね「こらっ！放すのです！」

じたばた

ねねは必死に暴れるが

スパロウイマジン「うるさいぞ！その舌をちょん切るぞ！」

ジャキンッ！

スパロウイマジンはハサミを取り出してねねを驚かせる

ねね「ひっ！？」

とたんに大人しくなるねね

ドドドッ！

デネブ「こらっ！ねねを返せ！」

ようやく追い付いたデネブがスパロウイマジンめがけて発砲するが距離がありすぎて届かない。

恋「…ねねを返す！」

スパロウイマジン「このチビを返してほしけりゃデンオウベルトとパスを持ってこの先の岩山に來い！このチビと交換だ。ただし日が沈む前に來なければこのチビの命はないぜ！」

バサバサッ！

ねね「恋殿〜！？おデブ〜！？」

そしてスパロウイマジンはねねを連れ去ってしまった。

#38 「ゼロノスの危険性」(後書き)

イメージファイル

・スパロウイマジン

『舌切り雀』の雀をイメージされたイマジン。大きなハサミを使い敵を切り裂く。

#39 「ねねを救え！」

デンライナー内

「刀、いててっ痛いってば！もっと優しくしてくれよ」

地和「何いつてるのよアイドルの地和ちゃんが手当てしてあげてるんだから感謝しなさいよね！」

ギューッ！！

地和は包帯で一刀を締め付ける。

月「あもう、私が代わりましょうか？」

天和「面白そうだから私もやる」

人和「姉さんダメでしょ遊びじゃないんだから」

詠「ふんっ！痛い目に遭っていいきみよ！」

「一刀達がまだ騒いでいた。」

モモタロス「止めなくていいのか？」

ウラタロス「女の子を止めるなんて僕にはできないよ」

キンタロス「グオーッ！」

リュウタロス「見てて面白そうだしほっとけば」

ジーク「どうでもよいが、余の飯はまだか！」

モモタロス達も騒ぎを静かに見ていると

スツ　　パシツ

何者かがデンオウベルトとライダーパスを奪っていった。

デネブ「すまないみんな、これもねねを助けるためなんだ」

ダダツ！

そしてデネブはデンオウベルトとライダーパスを持ってデンライナーから降りていった。

岩山

ねね「このー！さっさと放すのです！」

ねねは岩山にてミノムシのようにぐるぐる巻きにされていた。

スパロウイマジン「うるさい静かにしやがれさもないとその舌をちよん切るぞ！」

キラリッ！

スパロウイマジンはハサミを持ってねねをびびらせる。

スパロウイマジン「しかしこの俺がデンオウベルトとライダーパスを持ち帰ったとならば俺は幹部に昇進できるかもしれないな！にひっ

スパロウイマジンが不気味に笑っていると

ねね「残念だが恋殿は来ないですよ！勝手にゼロノスカードとベルトを持っていったねねを助けに来るはずがないのです！そんなこともわからないなんてお前はすごい大馬鹿者なのです！」

スパロウイマジン「何をっ！　だったらお前のようなチビなんてすぐぶっ殺してやるぜ！」

ジャキンッ！

スパロウイマジンはハサミをねねに向ける

ねね「（これでいいのですよ。戦場において捕虜はまさに足手まといのような存在、自害した方が恋殿のためにもなるのです。さよならでした恋殿、おデブ…）」

ねねがさよならの言葉を言っていると

デネブ「ちよっと待ったー！」

バンッ！

岩山の入り口にデネブが現れた。

ねね「おデブ!?」

スパロウイマジン「やっと来たようだな。それでライダーパスとベルトはどうした?」

スパロウイマジンが聞くと

スッ

デネブ「それならばここにゑるぞ!」

バンツ!

デネブはデンオウベルトとライダーパスをスパロウイマジンに見えるように見せた。

スパロウイマジン「本物だろうな?もし偽物だったらすぐこのチビをぶつ殺すぞ!」

以前別のイマジンが騙されたこともあってスパロウイマジンは用心深かった。

デネブ「最初に言っておく!俺は嘘をついたことがない、正真正銘本物だ!」

スパロウイマジン「ならさっさとこっちに投げな、そしたらこのチビを返してやるよ!」

スパロウイマジンが言つと

デネブ「良いだろう。それっ！」

ポイツ

デネブはスパロウイマジンにデンオウベルトとライダーパスを投げつけた。

スパロウイマジン「キャッチ！どうやらマジで本物らしいな」

スパロウイマジンが受け取ったのを確認すると

デネブ「約束だ！そっちもねねを返せ！」

しかしスパロウイマジンは

スパロウイマジン「バカ！素直に返すわけないだろうが」

スパロウイマジンは人質であるねねを返さなかった。

デネブ「卑怯だぞ！嘘をついたら閻魔大王に舌を抜かれるんだぞ！」

スパロウイマジン「んなもんするか！騙される方が悪いんだよ！」

バサッ！

スパロウイマジンがねねをつれて飛び立とうとすると

恋「…卑怯はダメ」

スパロウイマジン「へっ？」

ザクッ！

スパロウイマジン「ギャーッ！！」

パッ

突然後ろから現れた恋の一撃を食らいスパロウイマジンはおもわずねねから手を離すと

パシッ！

恋「…人質救出」

ねね「恋殿」

人質であるねねを恋に奪われてしまった。

デネブ「ハハハッ馬鹿者め！お前が人質を返さないとおもって恋をこっそりとお前の後ろに潜ましておいたのさ！」

恋「…ついでにこれも貰っておいた」

ジャーンッ

恋の手にはデンオウベルトとゼロノスカード、ライダーパス、ゼロノスベルトが握られていた。

スパロウイマジン「なっ！？いつの間に！」

恋「…それじゃあさらば」

ビュンッ！ スタンッ

そして恋はひとつとびでデネブの元に飛んでいった。

スパロウイマジン「待てよ！このまま逃がしたら俺が左慈に殺されちまうんだ。だから貴様らはここで俺が始末してやるぜ！」

バサッ

スパロウイマジンは羽を広げて向かってきた。

恋「…だったら恋もお前を許さない」

カチャンッ

恋はゼロノスベルトをセツトする。

デネブ「やめろ恋！それ以上使えばみんなから恋の記憶が…」

デネブは恋に叫ぶが

恋「…大丈夫。たとえ一刀や月達、ねねの記憶から恋が消えたとしても恋は構わない！恋が恋のことを覚えているから！」

スッ

ベルト『ALTAIRFORM』

カチャカチャンツ！

そして恋の姿は仮面ライダーゼロノス・アルタイルフォームに変身した。

デネブ「恋…」

ねね「恋殿、ねねは絶対に恋殿の事は忘れませんぞ！」

恋の決意を聞いて感動する二人

ビシッ！

ゼロノス恋「…最初にいう、恋はかゝなり強い！」

バンツ！

そして恋はスパロウイマジンに決め台詞をいった。

スパロウイマジン「何が強いだよ！お前の欠点はわかってるんだぜ！」

バササツ

スパロウイマジンはさっきよりも高く飛んだ。

ゼロノス恋「…逃がさない」

ジャキンッ！

恋はゼロガツシャーをサーベルモードからボーガンモードに変えると
バシユバシユンッ

スパロウイマジンめがけて撃ったが

スカッ スカッ

スパロウイマジンには一発も当たらなかった。

スパロウイマジン「やっぱりだ。お前は遠距離武器が苦手という欠
点は直ってなかったようだな。

実は恋は弓の類いは苦手であった。

スパロウイマジン「もうお前なんて怖くないぜ！」

バササッー！

スパロウイマジンはハサミを持って猛スピードで恋に迫り

ズバッ

ゼロノス恋「…くっ！？」

恋を切りつけていった。

デネブ「恋！？今行くからな！」

ダダッ

デネブは恋と合体しようとして近寄るが

スパロウイマジン「お前は黙ってる！」

ズバッ！

デネブ「ぐほっ！？」

ガラッ…ガララーッ！

デネブ「うわっ！？」

スパロウイマジンに切りつけられてよろけたデネブは足を滑らして落ちてしまった。

ゼロノス恋「…よくもデネブを！」

ブオンッ！

恋は怒りで切りつけようとするが

スパロウイマジン「うるせえんだよ！」

ドカッ！

ゼロノス恋「…ぐほっ！？」

最初の一撃を食らった恋の速度は大分落ちてしまい恋はスパロウイ
マジンに殴られた。

ゼロノス恋「…くっ、体が動かない…」

ねね「恋殿!？」

恋の絶体絶命のピンチの時に

デネブ「恋!一つだけこの状況を破る策がある!」

岩山の下からデネブの声が聞こえてきた。

実はデネブは下まで落ちてなくて途中で引っ掛かったのである。

デネブ「ゼロノスカードを二枚重ねてセットするんだ!そうすれば
この状況は打破できる!ただし、使えばみんなから恋の記憶が消え
る確率がぐっと高くなる!」

果たして恋はデネブの言う策を使うのだろうか、それとも記憶を大
事にするのか

#40「赤く燃えるゼロ」

スパロウイマジンに人質にされたねねを助けるため黙ってデンオウベルトとライダーパスを持っていった恋とデネブ

そしてスパロウイマジンの隙についてねねを救出したものの、遠距離武器が使えないゼロノス恋は空を飛ぶスパロウイマジンに苦戦する。

頼みの綱であるデネブとの合体もデネブが岩山から落ちてしまいデネブは危機に陥る。

だが、岩山からの落下の途中で引っ掛かったデネブは起死回生の策を恋に言うのだった。

デネブ「恋、ゼロノスカードを二枚重ねてセットするんだ！そうすればこの状況は打破できる。けれどもそれを使えばみんなから恋の記憶が消える確率がぐっと高くなる」

デネブから言われた恋は少し迷ってしまふ。

いくらお気楽的な恋とはいえどもやはり記憶から消されることに迷いがあるようだ。

ゼロノス恋「…恋は」

恋がすごく迷っていたとき

ねね「ちんきゅうキーック！」

ドカッ！

ねねのちんきゅうキックが恋に炸裂した。

ねね「何を迷っているのですか！そんな恋殿は恋殿ではないのです！ねねの知っている恋殿は豪快で時には大胆で愛らしい感じなのです！迷ってるなんて恋殿ではないのです！」

ねねに言われた恋は

ゼロノス恋「…ごめんねね、恋が間違っていた。みんなから恋の記憶が消えることを恐れるなんて恋らしくない！」

シュッ！

恋はゼロノスカードを一気に二枚取り出すと

シューッ！

重なりあったゼロノスカードが緑から赤色に変わり

ゼロノス恋「…変身！」

スッ

恋は赤いゼロノスカードをゼロノスベルトにかざした。

ベルト『ZERIFORM』

ババツ

カードをかざしたゼロノス恋の体は錆びたように緑色から赤色に変化した。

ゼロ恋「…何だか前より強い力を感じる」

急に体が変わった恋を見たスパロウイマジンは

スパロウイマジン「体の色が変わったところでお前が遠距離武器が苦手なのは変わらないんだよ！」

ホントは強くなった恋に少しびびっていた。

デネブ「それはどうかな？」

そしてデネブは

カチャカチャンツ！

恋が変身した後、体を変形させ

デネブ「変形、デネビックバスター！」

銃に姿を変えると

スッ

そのまま恋の手元にやって来た。

デネブ「さあ恋、俺が軌道を修正してやるから遠慮なく撃ちまくってくれ！」

コクリッ

ゼロ恋「…わかった」

スパロウイマジン「ひっ!?」

もはやスパロウイマジンに勝ち目はなかった。ただでさえ強い恋がさらに強くなった上に遠距離攻撃までできるようになったのだ。

そしてスパロウイマジンがとった行動は…

スパロウイマジン「今日はこれくらいで勘弁してやるぜ！」

バササーッ

戦略的撤退（逃げる）しかなかった。

だが、恋はスパロウイマジンを逃がさなかった。

ゼロ恋「…最初にいう、恋はかゝなり、撃ちたい！」

ゴゴゴッ…!!

そしてデネビツクバスターを威力MAXモードにした恋は

ゼロ恋「…バスターノヴァ！」

ドキューンッ！！

デネビックバスターをスパロウイマジンめがけて撃ちはなった。
(デネブによる修正付き)

スパロウイマジン「ひいつ!?」

バササッ!

スパロウイマジンは必死に逃げようとするが

ズキューンッ!

逃げ切れるはずもなく

スパロウイマジン「ギャーッ!?」

ドッカーンッ!!

恋の攻撃が当たり、スパロウイマジンは爆発した。

スッ

そして恋は元の姿に戻ると

ねね「恋殿〜!」

ギユッ!

ねねが恋に抱きついてきた。

ねね「お許してください！恋殿を本気にさせるためにちんきゅうキックを繰り出したことを！」

すると恋は

恋「…別に構わない。それよりありがとうね」

ねね「恋殿」

デネブ「仲良きことは美しきかな」

恋とねねの友情に涙するデネブだった。

そしてデンライナー内

デネブ「すまないみんな！勝手にデンオウベルトを持っていきますまない！」

恋「…ご免なさい」

ねね「恋殿とおデブは悪くないのです！人質となったねねが悪いのです」

三人はデンライナーに帰宅後、勝手にデンオウベルトを持っていったことをみんなに謝るが

モモタロス「持っていったのかよ!？」

ウラタロス「全然気付かなかったけどね」

キンタロス「グオーツ！」

リュウタロス「みんな一刀の絶叫に夢中だったからね」

みんなはデンオウベルトが無くなっていたことに全然気付いてなかった。

ジーク「どうしてもよいが、早く私の料理を作らんか！」

デネブ「はいはいっ」

ねね「お気楽な奴らなのです。謝って損したのですよ」

恋「…でもこれが一刀達らしいから好き」

その頃、左慈の城では

ゴクウ「ちくしょう！」

ドカツ！

ゴクウが暴れまくっていた。

ハツカイ「兄貴、少しは落ち着くんかドン！？」

ハツカイが暴れるゴクウを静めようとするが

ゴクウ「これが落ちて着いてられるかよ！ゴジョウを殺られちゃった

んだぜ！奴ら全員バラバラにしないと俺の気がすまないんだよ！

「

ハツカイ「兄貴、ところで奴らの仲間の赤髪の女の名前はなんだっけかだドン？」

ゴクウ「んなこと知るか！」

ゼロノスカードの影響で恋の記憶が消えた二人だった。

左慈「ゴクウ、そんなに暴れたいのならついてくるか？」

ゴクウが暴れていると左慈が現れて

ゴクウ「こうなったら地獄だろうが修羅の道だろうが奴らを倒せるのならどこだっていくぜ！」

ハツカイ「兄貴が行くなら俺も行くだドン！」

二人がついていくことが決まると

左慈「なら行くぞ決戦の地、赤壁せきへきにな」

ズオンツ！！

左慈一行の次なる目的地は赤壁に決定した。

#40「赤く燃えるゼロ」(後書き)

物語もついに終盤を迎えてしまいそうです。

4 1 「赤壁の戦い」

一刀達がいろいろな出来事に出くわしている頃、大陸では大きな戦いが始まるうとしていた。

強大なる魏を倒すために蜀と呉が同盟を組んで魏と戦争を起すことになった。

これがいわゆる後に名を残す『赤壁の戦い』の幕開けである。

赤壁・呉蜀連合サイド

桃香「雪蓮さん、どうしても魏とは戦わなくてはダメなんですか？」

「

最後の決戦を前にして桃香が言うと

雪蓮「桃香、戦いを前にしてびびる気持ちもわかるけどいつかはやらないといけないのよ。あなたはまだ王として新米だからわからないだろうけどね」

王としても年齢からして…

ドカッ！

失礼、王として先輩である雪蓮は桃香を落ち着かせた。

桃香「北郷さんがいればどうにかなったかもしれないね」

雪蓮「言わないでよ桃香、確かに彼がいれば魏なんて軽く倒せちゃうけどさ」

赤壁・魏サイド

桂花「華琳様、出撃準備は整いました。いつでも出撃可能です」

華琳「わかったわ桂花」

決戦を前にしてさすがの華琳も少しばかり落ち着きがなかった。

華琳「北郷がいれば必ず勝てた戦いだっただのにね」

桂花「何をいつてるのですか華琳様、あんな汚らしい男の手を借りなくとも魏は無敵なのですよ！」

そついうが桂花も一刀の手があれば楽に勝てることはわかっていた。

そして互いの噂のもとになっている一刀達はというと

赤壁から少し離れたところに一台のデンライナーがあった。

デンライナー内

モモタロス「何だか大陸が騒がしいんじゃないか？」

ウラタロス「どうやら戦争が起きようとしているらしいね」

キンタロス「手助けせんでええんか？」

リュウタロス「やめた方がいいんじゃない 別にイマジンも絡んで無さそうだからさ」

デネブ「それに恋達ならともかくこの世界の住人でない俺達が戦争に参加するわけにはいかないからな」

ジーク「料理番の言う通りだ。この世界のことはこの世界の住人に任せればよい。余はただ待っていればよいのだ」

確かに理屈にあっている気がするが

一刀「しかし、これほど大きな戦いだ。左慈達が何かを仕掛けないわけがないよな」

この一刀の考えは当たっていた。

ドタドタッ

と、そこへ

バタンッ！

詠「大変よ！？赤壁の方で黒い雲が漂ってるわ！」

詠が慌てて入ってきた。

モモタロス「おいおい黒い雲くらいで驚くんじゃねえよ。どうせ近

々雷でも落ちるんだろ」

モモタロスが言うと

詠「馬鹿じゃないの！！赤壁だけが黒い雲で覆われてるのよ！雷だけならボクだって慌てないわよ！」

モモタロス「誰が馬鹿だと！！」

ウラタロス「詠ちゃん、センパイが馬鹿なのは前からだよ」

一刀「んなこといつてる場合か！もし黒い雲を出しているのが左慈達ならば赤壁にいる桃香達が危ない！イマジン騒ぎならほっておけないし、行くぞ！」

ダッ！

そして一刀はデンライナーを飛び出していった。

モモタロス「仕方ねえな、俺達も行くぞ」

ウラタロス「その方が良さそうだね」

キンタロス「いっちょ暴れたるで！」

リュウタロス「僕も行くー」

デネブ「わかった。俺は寝ている恋を起こしてから行くぜ」

ジーク「好きにしる、余は関係ないからな」

ダダッ！

そしてモモタロス達も一刀の後に続いた。（一部除く）

赤壁

桃香「黒い雲だなんて不気味ですね」

雪蓮「おかしいわね、今日は雲一つ無い空のはずだと思ったのに」

華琳「何だか嫌な気を感じるわ」

三人が舌戦をするために集まったときに黒い雲が現れて不思議がっている

ゴゴゴッ…！！

黒い雲がゴロゴロ鳴り響き

ドッカーンッ！！

雷と同時に

傀儡兵達『ギイーツ！』

空から大量の傀儡兵が舞い降りてきた。

桃香「何でこんなところに！？」

華琳「こうなった以上戦争なんてしている場合じゃないわね」

雪蓮「ならば一時休戦ね」

三人は一時休戦して力を合わせて傀儡兵を撃破しようとするが外では更に大変なことが起きていた。

愛紗「こやつは前に倒されたはず!?」

ドッグイマジン「会いたかったぜ関羽！」

タイガーイマジン「大暴れしてやるぜ！」

オニギリイマジン「ゴロゴロッ！」

ドンキーイマジン「我が美声を聞くがよい！」

アマノジャクイマジン「そこのお前、『俺達は全滅してしまう』と
思ってるだろう？」

兵士「大当たり！」

傀儡兵だけならともかく黒い雲から一刀達が今まで倒してきたイマジンまで現れたのだ。

鈴々「敵が多すぎて体力がなくなるのだ!?」

夏侯惇「ええい！邪魔だぞ貴様ら！」

三国の将達がイマジン達の進行を食い止めようとするが敵の数が多く、三国側は数が減るばかりだった。

桃香「もうだめですー！」

雪蓮「桃香！あなたも王なら弱音はくんじゃないわよ！」

華琳「でもさすがにこの数は多すぎよ!？」

そして三国側が全滅しそうになったとき

ドカカンッ！

突然何者かの攻撃が当たり傀儡兵は絶命した。

桃香「これってもしかして!？」

桃香が慌てて目を開けると

ライナー「危なかったようだね」

バンッ！

そこにはケータロスによって変身した仮面ライダー電王・ライナーフォームの一刀がいた。

モモタロス「一刀の奴、筋肉痛は起きないようだな」

ウラタロス「一生懸命修行したからね」

キンタロス「そして俺らも修行したから」

リュウタロス「電王にならなくても下級イマジンなら倒せちゃうもんね」

そして一刀の側には実体化したモモタロス達もいた。

ライナー一刀「しかし懐かしい奴ら揃いだな」

一刀がイマジンに懐かしんでいると

ゴクウ「電王！」

バツ！

黒い雲からゴクウが現れた。

ガキンツ！

ゴクウ「ゴジョウの敵討ちだ。お前は俺が倒してやるぜ！」

ライナー一刀「お前って案外執念深いんだね」

一刀はゴクウと対峙し

ハツカイ「お前らは俺がやってやるだドン！」

モモタロス「またかよこの豚！」

キンタロス「鍛えたから今度こそ倒したるで」

ハツカイの相手はモモタロス達がすることになった。

そしてその頃、赤壁のはるか上空では

左慈「さつさと殺り合いやがれ！どっちが勝っても俺が得をするのだからな」

于吉「恐ろしいですね左慈は、でもそこが魅力的なんですけどね」

左慈「うるさいぞ于吉、さつさと戦いを終わらせるために俺達も出向くとするか」

于吉「その方が良さそうですね」

スウーッ

そして左慈達はゆっくりと下に降りていった。

#41 「赤壁の戦い」 (後書き)

次回、左慈の企みが明らかになり！ (なる予定)

4 2 「闇の仮面ライダー」

赤壁にて呉蜀連合VS魏との戦いが始まるうとした時、突然赤壁を黒い雲が覆いだして黒い雲からイマジンや傀儡兵がやって来た。

三国の将達は一時休戦ということので力を合わせてイマジン達と戦うが相手の数が多すぎて苦戦する。

だがそこへ現れたのは仮面ライダー電王こと北郷一刀と仲間のモモタロス達

一刀が現れたことで戦況は一変し、段々と三国側が押し始めた。

だが赤壁の上空では左慈達が何かを企んでいた。

赤壁

ゴクウ「あらよっ！」

ライナー「ふんっ！」

ガキンツ！

一刀とゴクウは互角の戦いを繰り広げていた。

ゴクウ「お前みたい強い奴は左慈以来だぜ、出会いが変わっていたら良き戦友になっていたかもな。だがそれとは関係なくゴジョウの敵討ちさせてもらっぜ」

ライナー「一刀」お前もなかなか強いじゃないか仲間じゃなくて残念だぜ」

二人は戦いながらも楽しく笑っているように見えた。

そしてこちらでは

ガキンツ！

ハツカイ「おのれっ！チヨロチヨロするなだドン！」

ぐらぐら揺れる船の上ではハツカイはまともに動けなかった。

モモタロス「へんっ！ブタの奴動きが鈍いじゃないかよ！」

ウラタロス「どうやら船の上での戦いは初めてみたいだね」

リュウタロス「地形は僕達に味方しているね」

だが動きにくいのはハツカイだけではなく

キンタロス「俺も揺れまくってるがな！？」

同じく重量級のキンタロスも動けずにいた。

そしてイマジン達の相手は

愛紗「一刀達が頑張っているのだ！我々が頑張らなくてどうするんだ！」

夏侯惇「確かにその通りだ！よそ者に負けてたまるか！」

雪蓮「さあみんな暴れるわよ！」

一刀達の頑張りを見て三国の将達はやる気を取り戻し、イマジン達相手にものすごい勢いで戦っていた。

だがそんなとき

ゴゴゴツ…！！

黒い雲から二人の人影が降りてきた。

ライナー一刀「人間が空から降りてる！？」

モモタロス「つか人間なのかよ！？」

一刀達が驚いていると

ゴクウ「何でだよ！？何で左慈がここにいるんだよ！？」

ゴクウ達が驚いていた。

ウラタロス「左慈って確かイマジン達の大ボスだったよね！？」

キンタロス「そんな奴が何で来てるんや？」

リュウタロス「僕知らなーい」

ウラタロス達が騒いでいる間に

ゴクウ「何で来たんだよ左慈！赤壁の征服は俺達に任せるって言ったじゃないか！」

ゴクウが叫ぶと

左慈「貴様らが手ぬるいから俺が直々に来てやったんじゃないか。そんな奴らごときに苦戦するなんて俺は少々貴様らイマジンの力を高く評価しすぎていたみたいだな」

左慈「もうお前達は用済みなんだよ！とっとと消える役立たずどもが！」

ビシッ！

左慈がゴクウに向かって言うと

ゴクウ「ふざけるなよ左慈！」

バツ！

ゴクウは怒りながら左慈に突っ込んでいった。

ライナー「一刀「仲間割れか？」

モモタロス「どうやらそうみたいだな」

一刀達が言っていると

左慈「だがまあ、貴様らイマジンでも役に立つことといえば…この

世界の奴らを皆殺しにすることだよ！于吉！

于吉「わかりましたよ」

スッ！

于吉は懐から一枚の札を取り出すと

ポイツ！

それを上空に投げて

于吉「イマジンフュージョン怪物合体術！」

と叫ぶと

ズズズ…！

ゴクウ「なっ…何！？」

ドッグイマジン「体が！？」

ドンキーイマジン「吸い寄せられていく！？」

ズゴオーツ…！

ゴクウ、ハツカイ、そして再生イマジン達は于吉の投げたお札に残らず吸い込まれてしまった。

そして

ビリリッ！

札がひとりでに破れると

？「フーツ！フーツ！」

札の中から大きな怪物が生まれた。

左慈「名付けてキメライマジン！俺の最高傑作だぜ！」

于吉「我々が産み出したイマジンはとても強いですよ」

キメライマジン「フガーツ！」

確かにキメライマジンからは恐ろしい殺気が漂っていた。

リュウタロス「あれってありなの！？」

モモタロス「落ち着けよがきんちよ、合体なら俺達だってできるだろうが」

カチャリッ！

そしていつの間にかモモタロスにはデンオウベルトが巻かれていた。

モモタロス「一刀が変身できない以上、俺がやるしかないだろうが！構わないから俺に突撃しやがれ」

モモタロスが言うと

ウラタロス「わかったよセンパイ！」

ダッ！

キンタロス「モモの字は男の中の男やで！」

ダッ！

リュウタロス「少しはモモタロスのことを見直しちゃった」

ダッ！

そして三人がモモタロスに突撃するために走ってくる

モモタロス「3！」

ウラタロス「2！」

キンタロス「1！」

リュウタロス「0！」

ガッッ！

そして三人が同時に激突すると

ベルト『CLIMAXFORM』

カチャカチャンッ！

モモタロスの体は仮面ライダー電王・クライマックスフォームに変身した。

クライマックスM電王「意外と思い付きでできるもんだな」

クライマックスU電王「センパイ思い付きだったの!？」

クライマックスK電王「後先考えへんかったな」

クライマックスR電王「見直して損しちゃったよ」

モモタロス達がクライマックスフォームに変身すると

左慈「変身ならこつちだって負けないぜ、于吉変身しな！」

于吉「わかりましたよ左慈」

スッ!

なんと二人もライダーベルトを持っていたのだ。そして

スッ! スッ!

ベルト『HIGHJACKFORM』

ベルト『GAOUFORM』

カチャカチャンッ!

そして左慈は仮面ライダー・幽汽に、于吉は仮面ライダー牙王に変身した。

変身の仕方が違うぞー！というツッコミは控えてください。

ライナー一刀「あいつも仮面ライダーになれるのかよ!?」

クライマックスM電王「あいつは仮面ライダーといっても悪のライダーなんだよ!」

幽汽左慈「この姿になるのも久しぶりだな」

牙王于吉「左慈、その姿凛々しいですよ」

そして変身した二人は

幽汽左慈「これでこの世界も終わりだ!」

牙王于吉「全てを食らいつくしてあげますよ!」

ガッ!

変身した二人が手を重ね合つと

ゴゴゴッ…!!

突然赤壁に地震が起こり、

ズズズッ…

黒い塊に包まれた扉が出現した。

ライナー「何だよあれは!？」

幽汽左慈「教えてやるよ！我が一族にはこんな言い伝えがあつてな
！『邪の仮面をつけし二者、聖の仮面をつけし者と出会いし時、赤
き海にて手を合わせるべしされば世界を自由にできる道が開けるで
ある』』とな！俺はあの扉を通つてこの世界を破壊してやるのさ！

「

シュツ！

牙王于吉「それでは皆さんごきげんよう」

シュツ！

二人は空を飛んで扉に向かっていった。

ライナー「一刀」世界を破壊するだと、そんなことさせるもんか！」

クライマックスM電王「俺達も行くぞぜ！」

クライマックスU電王「世界を破壊されたら女の子まで消えちゃう
よ！」

クライマックスK電王「破壊されたらゆっくり寝られへんからなあ

「

クライマックスR電王「破壊されたくないよね？答えは聞いてない
！」

シュツ！

電王達も扉に向かおうとするが

キメライマジン「フガーッ！」

バツ！

キメライマジンに行く手を塞がれた。

ライナー「早くしないと扉が閉じちまうのに！」

クライマックスM電王「どきやがれデカブツが！」

そして一刀達が苦戦している頃、恋達はというと

デンライナー内

デネブ「恋！いい加減だから起きてくれよ！」

恋「…ZZZZ」

ねね「うるさいのです！恋殿は今食後のお昼寝をしているのですぞ！」

ジーク「どうでもよいが、お供達の帰りが遅いな」

デンライナーの外が大変な騒ぎになっているにもかかわらず、のんびりムードであった。

#42 「闇の仮面ライダー」 (後書き)

イメージファイル

・キメライメージ

ゴクウ、ハツカイ、そして一刀達に倒された。ドッグイメージ、タイガーイメージ、ドンキーイメージ、オニギリイメージ、アマノジヤクイマジ、パンプキンイメージ、ラクーンイメージ、ラビットイメージ、スワローイメージが于吉の術によって合体した姿。とても強く大きい。

#43 「鬼の助っ人」

赤壁にて三国連合& a m p ;一刀達VSイマジン達が戦っている時突然上空から左慈と于吉が現れて仮面ライダーへと変身し、野望を叶えるため黒い塊に包まれた扉を予言通り無理矢理出現させて二人は扉に向かっていった。

一刀達も後を追おうとするが

キメライマジン「ブシューッ！」

左慈達が用意したキメライマジンに道を塞がれていた。

ライナー一刀「くそっ！邪魔な奴め！」

クライマックスM電王「こうなったらさっさとこいつをやっつけようぜ！」

クライマックスU電王「ダメだよセンパイ、無駄な体力削りは極力避けないとさ」

クライマックスK電王「亀の字の言う通りや！あいつらはたぶん全力で戦わないと勝てられへんで」

クライマックスR電王「無駄な体力使いたくないしね」

ライナー一刀「けどあいつは簡単には通してくれなさそうだぜ」

一刀が言うように

キメライマジン「グルルーツ！」

キメライマジンは一刀達を通さないように叫んでいた。

ライナー「一刀」でも早く行かないと扉が閉まってしまうな」

ゴゴゴツ…！！

一刀が言うように扉は少しずつ閉まってきていて後五分もすれば完全に閉じてしまう。

扉の開き方を知らない一刀達は急ぐしか道はなかったのだ。

一刀達がどうしようか考えていると

ゴゴゴツ…！！

突然上空に時空の歪みが発生し、

ヒュンツ！

そこから人が飛び出してきた。

そして飛び出された人は

ゴツチーンツ！

キメライマジンに頭からぶつかってしまい

バタリッ

その場に倒れてしまった。

クライマックスM電王「誰だよあいつは？」

ライナー「一刀「大丈夫ですか!？」」

一刀が倒れた人を心配すると

ムクリッ!

倒れた人は急に起き上がり

？「大丈夫!鍛えてますから」

ドクドク

頭から血を流しながら笑顔で言っていた。

クライマックスM電王「何だよあいつは!？」

クライマックスR電王「あれっ、あの人どこかで見たとかな？」

その人はリュウタロスだけでなくみんなにも見覚えがあった。

何故ならその人物は…

ライナー「一刀「俺じゃないか!？」」

パンツ！

なんと！飛び出された人は一刀であった。

一刀「電王世界の俺、はじめましてね。俺はある人に頼まれて別の世界から来た一刀なんだよ」

一刀がのんきに言うと

クライマックスM電王「ふざけるなよ！一刀が二人も三人もいてたまるかよ！」

一刀「まあモモタロスくん、俺と口喧嘩していいのかな？」

スッ！

一刀が指をさした方には黒い塊に包まれた扉がまさに閉じようとしていた。

ライナー「一刀「早くしないと世界がめちゃくちゃになってしまう！」？」

クライマックスK電王「でも行くにはあいつを倒さなあかんしな」

キメライマジン「ブシューッ！」

三人の前にキメライマジンが立ちはだかる。

「一刀「だからさ、あいつの相手は俺がしとくからあんたらは扉に向
かってくれよ」

「一刀が言うと

ライナー「一刀「何いつてるんだよ！相手は怪物なんだぞ生身の人間
が勝てるかよ！」

クライマックスM電王「そうだぜせめて仮面ライダーが相手をしな
いとな」

話を聞いた一刀は

「一刀「心配しなくてもいいよ、だって俺だって」

スッ

「一刀は懐から音叉（おんさ・鋼鉄の棒をU字に曲げて中央に柄のつ
いた発音体）を取り出すと

「キーンッ！」

どこかにぶつけて音を鳴らし、それを額に近づけると

「グワッ！」

「一刀の額から鬼の面が出現し、

「一刀「変身……」

一刀が言うと

ポオッ！！

突然一刀の体から炎が出てきた。

クライマックスM電王「大丈夫かよあいつ!?」

クライマックスR電王「熱くないのかな?」

しかし一刀は

ブオンッ!

炎を振り払うように右腕を振ると

一刀「全然平気だからさ」

バンッ!

一刀の体は仮面ライダー響鬼へと変化していた。

変身方法が違うぞ!というツッコミは控えてください。

響鬼一刀「わかっただろ、俺も仮面ライダーだからさあいつの相手は俺に任せて扉に向かっていいよ」

響鬼一刀が言うと

ライナー一刀「わかった頼むぞ!」

クライマックスM電王「この借りはいずれ返すからな！」

ダッ！

電王達は扉に向かっていった。

キメライマジン「グルルーツ！」

キメライマジンはそれを阻止しようとするが

響鬼一刀「おっと、あんたの相手は俺だぜ！」

スッ

響鬼一刀は背中にある二本の音撃棒を取り出すと

響鬼一刀「魔化魍まかもつじゃないから食らうかわからんが清めの音をくらえっ！」

ドンッ！

響鬼一刀はキメライマジンに一撃を食らわした。

キメライマジン「グエーッ！！」

キメライマジンに痛い一撃を食らわした。

キメライマジン「グルルーツ！」

くるっ

だが、キメライマジンの攻撃の矛先は電王一刃達から響鬼一刃に代わった。

キメライマジン「ゴワーツ！！」

シュシュンツッ！

キメライマジンは吸収したイマジンの力が使えるので吸収したスワローイマジンの真空波を繰り出した。

ササツッ！

響鬼一刃「ちっ！飛び道具とは危ない奴め！」

響鬼一刃がなんとか避けると

響鬼一刃「だったらこっちも飛び道具でいくぜ」

スツ

響鬼一刃は懐から笛を取り出した。

そして

ピーーツッ！

笛を吹いて鳴らすと

ビューッ！

響鬼一刀の回りを風が纏い

ブオンッ！

響鬼一刀が風を振り払うと

バンッ！

響鬼一刀の体は仮面ライダー威吹鬼に変わった。

威吹鬼一刀「飛び道具ならこつちだって負けないぜ！」

ドキュキュンッ！

キメライマジン「グギャーッ！」

威吹鬼一刀が撃ち出した弾丸にキメライマジンが怯んだ隙に

威吹鬼一刀「止めといくか！」

ポオッ！

炎に包まれて威吹鬼一刀が響鬼に戻ると

響鬼一刀「ほらよっ！」

カチャリッ！

響鬼一刀はキメライマジンに音撃鼓を取り付けると

響鬼一刀「ハァーッ！」

二本の音撃棒を構えて

響鬼一刀「音撃打 火炎連打！」

ドドドドンッ！

音撃鼓めがけて連打を繰り返した。

キメライマジン「グググッ！！」

連打することにキメライマジンは苦しみだし、

響鬼一刀「せいやっ！」

ドンッ！

響鬼一刀が止めの一撃を食らわせると

キメライマジン「ゲギャーッ！！」

ドッカーンッ！！

キメライマジンは耐えきれず爆発した。

シュンッ

響鬼一刀は顔だけ変身を解くと

「一刀「魔化魍以外にも清めの音って効くもんだな。さてと俺もあの扉に行きますかな」

一刀が扉に向かおうとすると

ギャピーッ！

一体の機械でできた小型の鷹が一刀めがけて飛んできた。

「一刀「あれはアカネタカ、なんだろな？」

アカネタカと呼ばれる小型の鷹は

カチャカチャンッ

変形して一枚のディスクになり

パチリッ！

一刀はディスクを音叉にセットすると

『このバー刀！ ライヴが始まるというのにどこか行ってるのよ！
すぐに帰ってこないとお仕置きだからね！』

ディスクから声が流れてきた。

ディスクを聞いた一刀は

「一刀「やべっ！？早く帰らないと殺されるかもしれないな」

そして一刀は扉に入らずに時空の裂け目に入ろうとする。

一刀「この世界を救えるのはお前達だけなんだから頼むぜ電王一刀！」

スッ

一刀が裂け目に入ると裂け目は消えてしまった。

#43 「鬼の助っ人」 (後書き)

この響鬼一刀については後に明らかになります。

#44 「消滅を阻止せよ！」 (前書き)

今回はかなり短めです。

#44 「消滅を阻止せよ！」

キメライマジンの相手を突然現れた響鬼一刀に任せて電王一刀達は左慈達を追うため黒い塊に包まれた扉に入ってしまった。

クライマックスU電王「ところでさ、あの一刀は何者なんだろうね？」

こんな会話が出てくると

クライマックスM電王「たぶんあれだろうよ、最近仮面ライダーの劇場版で名物になった新ライダーが現ライダーを助けに来るってやつじゃないか？」

案外モモタロスの勘は当たっているのかもしれない

ライナー一刀「どちらにしろ早く左慈達を追いかけないとこの世界が破壊されてしまう恐れがあるぜ」

クライマックスK電王「ほなもうちょい急がなあかな」

クライマックスR電王「それ行けーっ！」

キーンッ！

一刀達は左慈達に追い付くべく更に速度をあげた。

そして奥に進んでいくと

ヴォンツ！

クライマックスM電王「どうやら奥にたどり着いたようだが何にも無いな」

ライナー一刀「ホントだぜ部屋の中に椅子やテーブルすら無いなんて」

クライマックスR電王「よほど貧乏なのかな？」

一刀達が辺りを探っていると

シュシュンツ！

クライマックスM電王「あぶねえ！みんなよけるっ！」

シュシュンツ！

ライナー一刀「うわっ！？」

サツ！

部屋を探っていた一刀達に何処からか独楽コマが飛んできて一刀達に襲いかかってきた。

幽汽左慈「ちっ！まさか邪魔が入るとはな！」

牙王于吉「なかなかしぶとい奴らですね」

バツ！

そして何も無い部屋から左慈と于吉が現れた。

クライマックスM電王「テメエら！ようやく見つけたぜ」

ライナー一刀「お前達にこの世界を破壊なんてさせるものか！」

一刀達が言うと

幽汽左慈「何も知らないお前らに何がわかる！この世界は狂っている。だから神に選ばれたこの俺様が世界を修正するんだよ！」

牙王于吉「もちろん、世界が滅んだ時にはこの世界の人は無と化しますけどね。だけでも別の世界から来たあなた達には影響がありませんから生き残るのですよそれのどこに不服に思うというのですか？」

于吉が言うと

ライナー一刀「ふざけるな！この世界はもはや俺達に関係ないはずがない！天和達に月達、桃香達、雪蓮達、曹操達、文醜、顔良、袁術達はこの世界で出会った大事な仲間なんだ！」

出会いの少ない袁術が入っているのに対し、麗羽が入っていないのは一刀らしい。

一刀が叫ぶと

クライマックスM電王「一刀の言う通りだぜ！」

クライマックスU電王「彼女達を消すなんてそんなことはさせないよ！」

クライマックスK電王「お前が神に選ばれたなんてふざけたこと言うなや！」

クライマックスR電王「お前なんか神様が選ぶわけないだろ！」

モモタロス達が言うと

幽汽左慈「ふっ！貴様らだけは助けてやろうと思ったが止めにしてやるぜ。恨むなら自分を恨みな！」

牙王于吉「我々に逆らう者は食らいつくしてあげますよ！」

ジャキンッ！

左慈と于吉は武器を構えた。

ライナー「一刀「いよいよ最後の戦いだな」

クライマックスM電王「それはどうだか知らないがクライマックスなのは間違いないぜ」

いよいよ最後の戦いが始まる。

#45「この世界を救え！」

ライナー「刀「せいやっ！」

幽汽左慈「フンッ！」

ガキンッ！

左慈と一刀は互角の戦いを繰り広げていた。

クライマックスM電王「おらよっ！」

牙王于吉「くっ！？」

そしてこちらは力の差がありすぎるのかクライマックスM電王が牙王于吉を倒そうとしていた。

クライマックスU電王「どうやらこいつの相手は楽だね」

クライマックスK電王「このまま押したるで！」

クライマックスR電王「やっつけてやるー！」

クライマックス電王が調子にのっていると

牙王于吉「くそっ！調子にはのらせませんよ！」

スッ

于吉は三枚の札を飛ばした。

牙王于吉「甦りなさい悪の同士達よ！」

于吉が叫ぶと

ズモモツ！

投げられた札が人型に変化していき、

ネガ電王「復活だぜ！」

シルバラ「暴れてやるか！」

ゴルドラ「そうしようぜ！」

バンツ！

投げられた札はネガ電王、シルバラ、ゴルドラに変化した。

クライマックスM電王「くそっ！よりもよって悪の電王劇場ライダーが揃い踏みかよ！？」

まだ他にもいるかもしれないが西森は他の映画を見ていませんのでこれだけです。

牙王于吉「皆さん殺っちゃってください！」

ビシッ！

于吉が命令すると

悪の三人ライダー『うおーっ！』

ダダッ！

三人は同時にクライマックス電王に襲いかかってきた。

クライマックスM電王「ちくしょう！」

いくらクライマックス電王とはいえども三対一では徐々におされていき

ネガ電王「食らいやがれ！」

ズバッ！

クライマックスM電王「ぐわっ！」

パアッ！

重い一撃を食らってクライマックスフォームの変身が解けてしまった。

ライナー「刀「みんな!？」」

そして一刀が倒れるみんなの方を向いた直後

幽汽左慈「戦闘中によそ見をするとは愚か者め！」

ズバツ！

ライナー「一刀ぐわっ！」

パアツ！

「一刀も左慈の重い一撃を食らってしまい変身が解けてしまった。

ゴロリッ

その場に転がってしまう「一刀達

幽汽左慈「無様なやつらめ！結局俺達を止めることなんて誰にもでき
るわけがないのにな」

牙王于吉「無様に恥をさらしに来ただけのようですね」

左慈達が一刀達をバカにすると

「一刀「まだ諦めてたまるかよ…」

よろりっ

変身が解けながらもなおも立ち上がる「一刀

モモタロス「俺の力をなめるんじゃねえぞ…」

ウラタロス「彼女達を消させはしないよ…」

キンタロス「この戦いは絶対負けるわけにはいかんのか…」

リュウタロス「立ち上がったってもいいよね？ 答えは聞いていない…」

よろよろっ

そして傷つきながらもモモタロス達も起き上がろうとすると

幽汽左慈「どうせなら貴様らに消えることを知らずに戦う愚か者ども最後の見せてやるぜ」

パチンッ！

左慈が指を弾くと

ヴォンッ！

テレビのようなものが出現して外の様子が映し出された。

扉の外・外の様子

傀儡兵達『ギイーツ！』

兵士「ぐわーっ！？」

傀儡兵達が次々と兵士達を襲っていた。

兵士「もう無理だ。こんなやつらに勝てるわけがない！」

兵士「この国はもうお終いだー！」

次々と弱音を吐く兵士達

扉の中

幽汽左慈「どうだ！簡単に弱音を吐くこいつらに救われる価値なんてあるのか？こいつらだってこんな恐ろしい世界は消えればいいと思ってるんだよ！」

一刀達『・・・』

この反応に一刀達は何も言えなかった。

だが

愛紗「馬鹿者共が！そう簡単に弱音を吐くのではないわ！大きな怪物イマジン（響鬼）が倒してくれたし、一刀達だって扉の中で頑張っているのだぞ！外史が何なのかは分からないが別の世界から来た一刀達がこの世界を守るために戦っているのに我々が諦めてどうするのだ！」

愛紗の叫びは赤壁中に響き渡り

夏侯惇「関羽の言う通りではないか！この程度の敵に怯むでないわ！」

雪蓮「さあみんな頑張るわよ！」

このみんなの頑張りを聞いてさっきまでやる気がなかった兵士達は

兵士「そつだよな！よそ者の北郷に負けてたまるかよ！」

兵士「俺達の世界は俺達を守るんだ！」

ウォーッ！！

やる気を取り戻して傀儡兵に立ち向かっていった。

扉の中

モモタロス「けっ！雑魚兵士達まで頑張ってるんじゃないやあ」

ウラタロス「僕らが倒れるわけにはいかないよね」

スクッ！

更に喜ばしきことに

ドドドッ！！

傀儡兵達『ギイッ！？』

ゼロ恋「…最初にいう、遅れてごめんなさい」

ねね「恋殿が救援に来たからにはこの戦いは勝ったも同然なのです
！」

天和「心配になって来ちゃったよ！」

地和「一刀が死んだら誰がちい達の面倒見るのよ！」

人和「今こそ恩を返すときですね！」

月「私だって戦います！」

詠「月は絶対僕が守るんだからね！」

ジーク「まったく、世話がやけるお供をもって余は迷惑だ」

デンライナーに残っていた恋やジーク達も現れた。

リュウタロス「恋ちゃんや鳥さんもいるね」

キンタロス「ほな俺らももう少し頑張らなあかな」

一刀「ああ、みんなのためにも絶対勝つぜ！」

ガバツ！

そして一刀達は立ち上がった。

牙王于吉「まさか逆にやる気を出させるなんて!？」

さすがにこれは左慈達も計算していなかった。

幽汽左慈「ちっ！だが、やる気を取り戻したところでもう遅い！」

パチンツ！

左慈が指を弾くと

ゴゴゴッ…!!

壁の中からスイッチレバーが現れた。

幽汽左慈「このレバーを下げたら最後、この世界は崩壊するぜ！」

一刀「そんなことさせるもんか！」

バツ！

一刀達はレバーに向かうが

牙王于吉「そうはさせませんよ！」

ババツ！

于吉達がそれを阻止する。

幽汽左慈「これでこの世界は終わりだ！」

一刀「やめろーっ！」

一刀は叫ぶが

グイッ！

レバーは下げられてしまった。

#46 「驚きの展開」

ガタンッ！

「刀「やめろーっ!？」」

左慈の手によってこの世界を消すことができるレバーが下げられてしまった。

幽汽左慈「これでこの外史は消滅だぜ！」

そして左慈の言う通りこの世界は消されてしまった。

、かに思えたが

「刀「あれっ？」

モモタロス「外の様子が変わってないぞ!？」

外の様子はレバーが下げられる前と何一つ変わっていなかった。

幽汽左慈「どういうことだこれは!？」

そしてそのことに左慈が一番驚いていると

?「残念でしたね左慈君」

何処からか人の声が聞こえてきた。

ウラタロス「誰の声なの？」

キンタロス「なんかどこかで聞いたことある声やで!？」

リュウタロス「僕もそう感じるよ!？」

そして

ヴォンツ!

何もないところから誰かが現れた。

その人物とは…

オーナー「久しぶりですね北郷君達」

バンツ！

「一刀達『オーナー！？』」

何と！？そこに現れたのは石丸け…ではなく、デンライナーのオーナーだった。そしてオーナーの姿を見た左慈は

幽汽左慈「貴様は管理王！？なぜ貴様がここに！？」

「一刀『管理王？』」

左慈がオーナーのことを管理王と呼ぶと

オーナー「北郷君達には黙っていましたが実は私は外史を見守る管理人をたばねる管理王なのですよ」

つまりオーナーは外史の管理人である左慈達の上司なのだ。

オーナー「私がここに来た理由は左慈君、君の野望を阻止するためですよ！君の野望は貂蝉君から聞きましたからねえ、しかし管理王である私は直接外史に介入することは許されませんから北郷君達をこの世界に送ったのですよ」

オーナーが言うと

モモタロス「ということは、あの事故（#1参照）はオーナーの仕業だったのかよ！？」

オーナー「モモタロス君にしては鋭い勘ですね。その通りですよ。ちなみにデンライナーからマシンデンバードを外しといたのも私な

んですよ」

ずっ！

一刀達はオーナーの話聞いて大いにずっこけた。

オーナー「すみませんねえ、君達に話しておく面白くないではなく、壁に耳あり障子に目あり（どこで聞かれているか分からない）なのでねえ」

オーナーは星以上にいたずらっ子なのかもしれない。

モモタロス「あのおっさん後でぶん殴ってやる」

ウラタロス「まあまあセンパイ、そのいたずらのおかげで桃香ちゃん達に会えたからいいじゃない」

キンタロス「一刀とも長く旅ができたからな」

リュウタロス「結果オーライ？」

モモタロス達が話をしていると

一刀「それより、今俺達がやるべきことは…」

モモタロス「あいつらをぶつつぶすことだろ！」

ギンツ！

一刀達は左慈達を睨み付ける。

幽汽左慈「フンッ！世界を消すのは邪魔されたが貴様らに何ができる！」

牙王于吉「我々に勝つことなんて不可能なんですよ！」

ズラリッ

幽汽左慈率いるネガ電王、シルバラ、ゴルドラが一刀達の回りに並び立つ

オーナー「ふふふつ、確かに2対5ならば不利ですが5対5ならどうですかねえ？」

ジャンッ！

するとオーナーはどこから出したのか分からないが電王の変身に必要なデンオウベルトとライダーパスを三つ取り出すと

オーナー「予備の道具です！受け取ってください」

ポイツ！

ウラタロス達に投げ出した。

ガシッ！

ウラタロス「気が利くじゃないのオーナー」

キンタロス「最後にええとこ横取りは気に食わへんけどな！」

リュウタロス「結果良好だから許しちゃうけどね」

見事受け取ったウラタロス達をモモタロスが見ると

モモタロス「それじゃあホントのクライマックスといこうぜ！」

一刀「いくぞみんな！」

モモタロス達「おうっ！」

ガチャンッ！

一刀はケータロスを、モモタロス達はデンオウベルトを腰に巻き付けて

一刀達「変身！」

ポチッ！ スッ！

一刀はボタンを押し、モモタロス達はパスをベルトにかざすと

ベルト「SWORDFORM」

「RODFORM」

「AXEFORM」

「GUNFORM」

ケータロス『LINEFORM』

カチャカチャンツ！

同時に変身し、そして！

R電王「お前達、殺つてもいいよね？答えは聞いてない！」

K電王「俺の強さにお前らが泣いた！」

U電王「お前達、僕に釣られてみる？」

M電王「俺、参上！」

ライナー「刀、準備はいいかみんな？」

ジャキンツ！

そこには五人の電王がいた。

そして一刀が叫ぶと

電王達「ああ、もちろんだぜ！」

バンツ！

盛大に叫ぶ電王達だった。

#47 「最後の戦い・前編」

外史の世界を消すレバーが左慈によって下ろされたが事前に左慈の企みを知っていたオーナーによって外史消滅は阻止された。

そして怒り狂う左慈は悪のライダー達と共に一刀率いる電王軍団に戦いを挑んできた。

ゴルドラ「ちっ！」

シュルルーツ！

ゴルドラは伸縮自在の錫杖しやくじょうでR電王を攻撃するが

R電王「そんなの全然怖くないもんね」

ドキュキュンツ！

R電王の撃った弾丸にすべて防がれていた。

ゴルドラ「ちくしょうが！だったら力なら負けないぞ！」

バツ！

錫杖が通じないとわかったゴルドラはR電王に肉弾戦を挑んできたが

R電王「お前、バカじゃないの？せつかくそんな役に立ちそうな武器持っているくせに全然使いこなしてないじゃん！」

ドキュキュンッ！

ゴルドラ「ぐががつ！？」

武器を使わずに立ち向かっていったゴルドラはR電王の弾丸をみすみす食らってしまった。

R電王「お前、もう飽きたから倒してもいいよね？」

スッ

R電王はベルトにパスをかざすと

ベルト『フルチャージ』

バチバチッ

デングツシャー・ガンモードに力がたまつて

R電王「答えは聞いてない！ワイルドショット」

ドキュンッ！！

必殺の一撃をゴルドラに放った。

ゴルドラ「ぐおおっ！？」

ドッカーンッ！！

必殺技をもろに食らったゴルドラは爆発し、消滅した。

シルバラ「ゴルドラの馬鹿者め！こんなやつら程度に油断するから負けるんだ！だが、俺はそうはいかんぞ！」

ググッ！

シルバラは得意の怪力でK電王を押さえつけようとするが

K電王「フンツ！お前の強さがそんなもんやとしたらまだハツカイの方が強かったで！」

ググッ！

シルバラ「なにっ！？」

K電王は逆に力でシルバラを押し始めた。

シルバラ「貴様、どこにこんな力が！？」

シルバラがK電王の力に驚いていると

K電王「俺達はな、守りたいもんがあれば無限の力が出るんや！どっせーいっ！」

ブオンツ！！

シルバラ「ぐほっ！？」

K電王はシルバラを上空に放り投げると

K電王「こいつで終わらしたるで！」

スッ

K電王はベルトにパスをかざして

ベルト『フルチャージ』

バチバチッ！

デンガツシャー・アックスモードに力が溜まり

K電王「せいやっ！」

ピョンッ！

高く翔んでシルバラを追い越すと

K電王「ダイナミックチョップ！」

ズバッ！

シルバラ「ぐおおっ！？」

ドッカーンッ！！

シルバラに一撃を食らわして勝利した。

ネガ電王「ちっ！馬鹿野郎共が！」

ネガ電王が言うと

U電王「君ももうすぐその馬鹿の一人になるけどね」

ネガ電王「ふざけるな！俺は貴様より強いんだよ！」

ブオンツ！！

ネガ電王は怒りで我を忘れて冷静さを失っていた。

U電王「確かに僕らもこの世界に来るまでは自分達が一番強いと思っていたけど…『井の中の蛙大海を知らず』ってね」

世の中には自分よりすごい奴がいるということ

ササツ！

U電王はネガ電王の攻撃を軽く避け続けていると

U電王「そろそろ君の相手も飽きたからくたばってもらおうとするか」

サツ！

シュツ！

U電王はネガ電王と距離をとってデンガツシャー・ロッドモードをネガ電王に投げつけると

バチッ！

ネガ電王「ぐほっ！？」

ロッドがネガ電王に突き刺さってネガ電王の動きを封じた。

U電王「ほら、油断してるから簡単に捕まっちゃうんだよ」

スッ

U電王はベルトにパスをかざすと

ベルト『フルチャージ』

U電王「バイバイ偽者の電王くん」

ビョーンッ！

U電王は高く飛び上がると

U電王「ソリッドアタック！」

キーンッ！

U電王の必殺の蹴りがネガ電王に迫る。

ネガ電王「くっそー！！この俺があんな奴ごときに！？」

ドカッ！！

ドッカーンッ！！

U電王の必殺技が炸裂してネガ電王は爆発していった。

そして

R電王「どうやらそっちもうまくいったようだね」

K電王「俺らもほんまに強くなったもんやで、どないする？モモの字と一刀の助太刀にいくか？」

それぞれの戦いを終えたR電王とK電王がU電王の元に駆け寄ると

U電王「やめた方がいいよ、センパイってば戦いを邪魔されるとすぐに怒るからね」

R電王「そうだよね、モモタロスって短気だしね」

K電王「触らぬ神に祟りなしやで」

手を出さない方がいいという意味

U電王「後は任せたよセンパイ、一刀絶対に左慈達を倒してよね！

」

48 「最後の戦い・後編」

一刀率いる電王軍団と左慈率いる悪の軍団が戦いを始め、次々と仲間達がやられているのを見た左慈は

幽汽左慈「ちっ！何の役にも立たない馬鹿野郎共が！こんなやつら相手に何を手間取ってやがる！」

ライナー一刀「左慈、お前は人間の力を甘く見すぎて、愛紗達のように仮面ライダーでなくても頑張ればイメージを相手にできるんだよ！」

ガキンツ！

ライナー一刀はデンカメンソードで幽汽左慈を振り払う

幽汽左慈「馬鹿なことをほざくんじゃねえよ！人間なんて所詮は虫けら以下の存在、何匹集まろうが何の役にも立たないんだよ！」

ガンツ！

幽汽左慈は負けじとライナー一刀に迫る。

幽汽左慈「その証拠に貴様の相方は俺の相方に苦戦してるじゃねえか！」

ちらっ

幽汽左慈はM電王と戦っている牙王于吉を見ると

M電王「じはっ!？」

ドンッ!

M電王は牙王于吉に苦戦していた。

牙王于吉「往生際が悪いですね、仲間と合体しない君なんてもはや私の敵ではないのですよ。それがわからないようでは君は相当なお馬鹿さんのようですね」

牙王于吉が言うと

スッ

M電王は傷つきながらも立ち上がり

M電王「そくだよ確かに俺は大馬鹿だよ!だかな、負けるとわかっていて立ち向かうのが馬鹿だというのなら俺はむしろ馬鹿になる方がいいんだよ!」

ドンッ!

M電王が叫ぶと

牙王于吉「そうですね、ならば馬鹿は馬鹿らしく無様に散りなさい!」

ジャキンッ!

于吉はガオウガツシャーを取り出すと

牙王于吉「タイラントクラッシュ！」

ギーンッ！！

M電王を攻撃しようと迫ると

M電王「俺をなめるんじゃないぞ！」

サッ！

ベルト『フルチャージ』

ジャキンッ！

ビビビッ！

M電王「俺の必殺技…」

M電王はデンオウベルトにパスをかざすとデンガツシャー・ソード
モードに力が溜まり

M電王「part15！」

ガキンッ！

M電王は一太刀目で牙王于吉の攻撃を防ぐと

牙王于吉「ばっ…馬鹿な！？こんなあり得ないことが起きるなんて！？」

M電王「おらおらっ！」

ズバズババツ！！

連続で牙王于吉に斬りかかっていった。

バチバチッ！

切りつけられた于吉の体からバチバチッと火花が飛び散ると

牙王于吉「まさかこの私が負けるなんて！？左慈、後は頼みましたよ」

ドッカーンッ！！

そして于吉は爆発してしまった。

これを見た左慈は于吉の敵討ちとして燃えるどころか

幽汽左慈「ちっ！役立たずが、少しは役に立ちそうだと思ったから側近として側に置いてやったのに期待はずれな奴だぜ」

于吉を馬鹿にするような発言をしていた。

ライナー「一刀」どういうことだ？あいつはお前の仲間だったはずだろっ！」

一刀が言うと

幽汽左慈「仲間？ふざけるなよ、あいつはイメージを作れる能力があったから利用したまでさ、俺がこの世で信用できるのは俺自身だけなのさ！」

ビシッ！

幽汽左慈は叫びまくる

ライナー一刀「ふざけるなよ！仲間を仲間だと思わないお前なんて俺が絶対に倒してやるぜ！」

ぐぐっ！

一刀はデンカメンソードに力を強くこめると

幽汽左慈「フンッ！綺麗事ばかりほざきやがってうぜえんだよ！」

ドカッ！！

ライナー一刀「ぐわっ！」

幽汽左慈はライナー一刀を蹴り飛ばした。

幽汽左慈「仲間を大事にするってのがお前らの流儀ならば何故自分の戦いが終わったにもかかわらずお前がボロボロに傷ついていると、いうのに貴様の仲間はお前を助けに来ないんだ！俺は貴様らのように矛盾な行動する奴が一番大嫌いなんだよ！」

ジャキンッ！

幽汽左慈はサヴェジガツシャーを構えると

幽汽左慈「タイミネイトフラッシュ！」

ズババツ！

ライナー一刀に攻撃を仕掛けてきた。

ライナー一刀「なっ！？…」

チュドーンッ！！

いきなり蹴り飛ばされたせいで受け身をとれなかった一刀はもろに幽汽左慈の攻撃を受けてしまった。

幽汽左慈「フンッ！ようやく邪魔物が消えたか、あいつさえいなければ残りの雑魚は始末できる。レバーが使えなくても俺が全力を出せばこの世界は破壊でき…」

左慈が最後まで言おうとすると

ライナー一刀「んなことさせるかよ！」

幽汽左慈「！？」

くるっ

驚いた左慈が一刀の方を見てみると

ライナー一刀「俺一人の命が消せないようじゃお前なんか世界を消すことは無理だな」

シューシューッ！！

そこには左慈の攻撃によって顔のマスクが少し欠けて顔が少し見えていたライナー一刀がいた。

ライナー一刀「それと一つ言ってやるよ、俺の仲間は助けに来ないんじゃない、俺の勝利を信じているから待っているだけだ！」

スッ

ライナー一刀はデнкаメンソードを構える。

幽汽左慈「ほざくんじゃねえぞ！お前は俺が必ず殺してやるぜ！」

ジャキンッ！

左慈もサヴェジガツシャーを構えた。

ライナー一刀「たぁーっ！」

幽汽左慈「おりゃーっ！」

ダダッ！

互いに得物を構えながら二人は突っ込んでいった。

ライナー一刀「電車斬り！」

幽汽左慈「タイミネイトフラッシュ！」

ガッキーンッ！

二人の必殺技は互いに交差するようにぶつかり合い

シーン…

二人がそのまま立っていると

幽汽左慈「馬鹿な！？この俺がこんなところで！？」

バチバチッ！

ドッカーンッ！！

幽汽左慈は爆発していき

ライナー一刀「なんとか勝てたようだ…」

グラリッ　　バタンッ！

一刀はその場で倒れてしまった。

だが

ヒョイッ

一刀の体が上げられると

M電王「やったじゃねえかよ一刀！」

U電王「僕は信じてたけどね」

K電王「ものすごい一撃やったで！」

R電王「一刀はよく頑張ったよね」

倒れた一刀の体を上げるモモタロス達だった。

ライナー「みんな、ありが…」

一刀がお礼を言おうとすると

ゴゴゴッ…！！

突然空間に歪みが発生した。

オーナー「どうやら左慈君が爆発したことにより空間が保てなくなつたようですねえ」

今までどこにいたのかわからないがオーナーが言うと

オーナー「それでは皆さん、脱出しましょう」

ダダッ！

オーナーはものすごい早さで走っていった。

M電王「っておい！俺達を置いてくんじゃねえよ」

その頃、空間の外では

傀儡兵「ギャーツ!?」

ジューツ!

左慈達が死んだことにより傀儡兵は残らず消滅していった。

華琳「これは一体!?」

雪蓮「こいつらが消えたってことはもしかして」

愛紗「どうやらこの世界を救ったようだな一刀達よ!」

兵達『わぁーっ!!!』

一刀達の勝利にみんなは喜んで雄叫びをあげた。

そして

ズズズウツ

M電王「まちやがれっ!?」

U電王「何とかギリギリだったね」

K電王「間一髪やで!？」

R電王「セーフ！」

空間が完全に消える寸前に一刀達が帰ってきた。

#48 「最後の戦い・後編」 (後書き)

次回、ついに最終回！お見のがしなく

49 「さらば一刀」

激闘の末、左慈達を見事に倒し世界の消滅を防いだ一刀達。

だが、それは一刀達に別れを意味するものであった。

赤壁

突如現れたイマジン達を協力して倒したことから先程までいがみ合っていた呉蜀連合と曹操軍は戦いをやめて平和に暮らそうと考えていた。

そして今はその宴の真最中であり一刀達も宴に誘われていた。

モモタロス「ングングッ！」

雪蓮「モモタロスってばいい飲みっぷりじゃない」

酒を一気飲みするモモタロスに雪蓮が話しかけると

モモタロス「当たり前だ！剣では互角だからなお前には負けないぜ！」

雪蓮「言ったわね！私だって負けないんだから！」

飲み比べをする二人

華琳「あなた本当にうちに来る気はないの？来てくれたらたまに聞ねや

に呼んであげるけど」

ウラタロス「嬉しい話だけど僕は一人の女の子に縛られたくないんだよ」

どうしてもウラタロスを勧誘しようとする華琳

鈴々「ふんっ！」

キンタロス「どっせーいつ！」

ドンッ！

鈴々「はにゃっ！？やっぱり力比べではおじちゃんに敵わないのだ」

鈴々はキンタロスと力比べとして腕相撲をしていた。

キンタロス「あんたもちっこいのになかなか力強いやんけ」

鈴々「もう一回勝負なのだ！」

キンタロス「よっしゃ！何回でも相手したるで！」

仲良く腕相撲をする二人

リュウタロス「セキトと張々かわい」

セキト「クウーン！」

張々「ワンツ！」

相変わらず犬とじゃれあう動物好きのリユウタロス

恋「…おかわり」

ねね「こらっ！おデブ、恋殿をムリヤリ起こしたのだから急いでた
くさんの料理を作るのですぞ！」

デネブ「はいはいいただきます！」

恋のために一生懸命料理を作るデネブ

ジーク「その眼帯、余に御馳走を用意せい！」

夏侯惇「誰が眼帯だ！それと私に命令できるのは華琳様だけだ！

」

夏侯淵「怒ってる姉者もかわいいな」

夏侯惇に命令するジークを本人が止め、それに対して怒る夏侯惇を
眺める妹の夏侯淵

みんなが宴で騒ぎあっているなか、一刀は一人で飲んでいた。

モモタロス「ういゝ、どうしたんだよ一刀？」

とそこへ酔っぱらったモモタロスが一刀に近付いた。

モモタロス「何か心配事があるのかよ？月達ならどうにかんたじやねえか」

ちなみに天和達と月達は事情を全て話し、天和達は華琳の軍へ、月達は桃香の軍に引き取られることになった。（ジャンケンで決めたため雪蓮の軍には誰もいない）

モモタロス「おばさん（麗羽）だつて見つけ次第重い罰を与えるつて聞いたし、何も心配することなんてねえじゃないか」

とモモタロスが一刀に言うと

一刀「実はまだ一つ心配事があるんだよ」

モモタロス「何かあつたか？」

モモタロスが一刀に聞くと

一刀「オーナーから聞いたんだが左慈達を倒したから俺達は元の世界に帰ってもいいんだとよ」

モモタロス「それが何だつて…」

ハッ！？

頭の悪いモモタロスもわかつたようだ。

一刀が電王として活躍しているのはあくまで良太郎の代わりである。

そして一刀達がこの世界に来た日、良太郎は退院して一刀がさよならする時だった。

すなわち、一刀達が現世に帰るということは一刀とモモタロス達の別れを意味するのだ。

ウラタロス・キンタロス・リュウタロス「!?」

そのことにウラタロス達も気付いた。

リュウタロス「僕やだよ！一刀とさよならしちゃうなんてやだ！良太郎と一刀を共に電王にする方法ってないの？」

リュウタロスが騒いでいると

モモタロス「あまつたれるんじゃないやねえよがきんちよが！少し別れる時間が延びただけじゃねえか！」

モモタロスの叫び声にみんなが反応し出した。

そしてそんなモモタロスの態度にリュウタロスは

リュウタロス「何だよモモタロスの馬鹿！一刀と別れるのが悲しくないの！」

リュウタロスが叫ぶと

キンタロス「止めときリュウタ！モモの字かてホントは一刀と別れたくないんや！だけど仕方がないやんけ」

キンタロスがリュウタロスを静めた。

ウラタロス「キンちゃんも静かにしなよ、センパイも一刀も楽しい宴の最中に辛気臭い話はやめようよ」

スッ

ウラタロスは一刀とモモタロスに酒の入ったコップを渡した。

リュウタロス「ちょっと〜！カメちゃんこんなときにお酒なんて…」

「

リュウタロスはウラタロスを叱ろうとすると

ぶるぶるっ

ウラタロスの体は震えていた。

ウラタロスだってホントは泣きたいのだ。

一刀「そうだよな、ウラタロスの言う通りだぜ！」

パシッ！

一刀はウラタロスが持ってきたコップを受け取ると

一刀「今日は宴なんだしパーティーといこうぜ！」

グビグビッ！

お酒を一气飲みした。(一刀はまだ未成年です。真似しないで下さい)

モモタロス「だよな！例え別れたとしても俺達の友情は不滅だぜ！

」

グビグビッ！

モモタロスも酒を一气飲みした。

ウラタロス「センパイいい飲みっぷりだね 」

リュウタロス「僕もお酒飲む 」

キンタロス「俺も一杯もらおうか！ 」

わいわいっ

一刀達は別れの夜を精一杯楽しんだ。

そして次の日の朝

ジーク「いやだ！余はまだ姫達と遊ぶのだぞ！ 」

デネブ「俺だつて別れたくないけど帰らなくちゃいけないんだから

一緒に帰ろうよ！ 」

デンライナーの外で叫ぶジークとデネブ。

そしてデンライナーの中にはすでに一刀とモモタロス達がいた。

一刀「ありがとうなみんな、みんなと戦えてホントに楽しかったぜ
！」

モモタロス「それは俺の台詞だつてのお前とのコンビ悪くはなかったぜ」

ウラタロス「誰かさんは一刀がいる間大人しくなっていたしね」

キンタロス「これでまたモモの字が騒がしくなるんやな」

リュウタロス「何だかそれも久しぶりでいいんじゃないの？」

モモタロス「お前ら〜 一言余計だつての！」

モモタロス達がデンライナー内で騒いでいると

オーナー「それでは出発しましょうか」

オーナーが出発の開始を宣言した。

ちなみに一刀達は桃香達に内緒で旅立とうとしている。彼女達と悲しい別れをしたくないからである。

そしていざデンライナーが発車しようとしたその時

ピリリーッ！

オーナー「誰でしょうかね？」

パカッ

オーナーは鳴り出した携帯を開いて会話を聞くと

オーナー「おやまあ！？それは大変ですね」

パタンッ

そしてオーナーは携帯を閉じると

オーナー「一刀君、どうやら君にはまだ電王でいてもらう必要があるですね」

一刀達「ハア！？」

突然のオーナーの言葉に一刀達は驚いた。オーナーは更に続けて

オーナー「実は退院した良太郎君が病院から出ようとしたところ、階段を踏み外して四階から一階まで転げ落ちて、あげくの果てに突如やって来た移動ベッド（正式名称を知らないだけです）にはねられてしまい再び入院することになったんですよ。そこで一刀君にはまた電王として頑張ってもらおうとね」

オーナーの話聞いたみんなは

ずっっ！？

盛大にずっこけた。

モモタロス「どんだけあいつは運がないんだよ！」

モモタロスが突っ込むと

一刀「まあ何はともあれ、これからも宜しくな！」

スッ

一刀はモモタロスに手をさしのべる。

モモタロス「ちっ！しかたねえな、また一緒に戦ってやるよ！」

ウラタロス「ホントはセンパイ嬉しいくせに」

キンタロス「モモの字も素直やないな」

リュウタロス「もうちょっと素直になれたらねえ」

モモタロス「テメエら 散々言いやがって一発殴らせろー！」

ドタバタ

デンライナー内で暴れまくるモモタロス達

一刀「まあ、こんなに騒がしいのもいいかもしれないな」

ブオーツ！

そしてデンライナーは恋姫世界から現代に向かっていった。一刀とモモタロス達の戦いはまだまだ続くが、後の展開は誰も知らない。

完

#49「さらば一刀」(後書き)

長い間読んでくれてありがとうございます。これにて電王は終わります。

西森の次回作に期待されても困りますがお待ちください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6887t/>

真・恋姫†無双 俺、参上！

2011年9月7日12時13分発行